

た か つ い せ き
高 津 遺 跡

都治地区県営ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書 II

2005年3月

島根県浜田農林振興センター
江津市教育委員会

高津遺跡 正誤表

このたびの報告書において、下記のとおり誤りがありました。謹んでお詫び申し上げます。
お手数ですが各自で訂正していただけますようよろしくお願ひいたします。

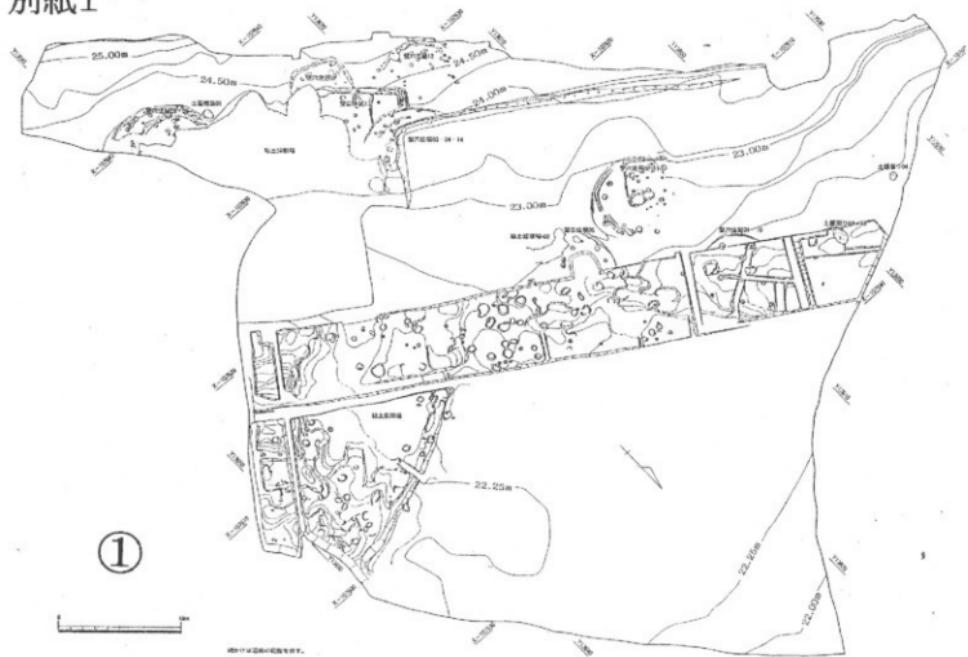
○目次・本文・観察表

頁	行	誤	正
写真図版目次	54 中 水場出土遺物	(第92・93図)	(第90・92・93図)
14	22行目	大型の壺96	大型の壺93
16	8行目	192～197	193～197
16	11行目	203・204	204
16	30行目	218～227は	218～227(226を除く)は
17	12行目	286	285
18	36行目	342	348
19	8行目	696	396
19	19行目	478～503は	478～503(486を除く)は
20	18行目	613	612
20	20行目	614	613
21	35行目	639	699
22	38行目	954	943
23	3行目	956	946
23	5行目	45°	90°
23	19行目	782	788
24	3行目	提瓶	瓶
24	23行目	114	1114
24	33行目	119	1119
27	34行目	セットB・B'び、	セットB・B'、
27	34行目	64～70	64～70
60	遺物番号 85	種別 土師器	種別 弥生土器
65	遺物番号 228	土層、No. Sk05	土層、No. 中央土坑
65	遺物番号 230	器種 高杯	器種 壺
83	遺物番号 623	種別 土師器	種別 弥生土器
84	遺物番号 638	種別 弥生土器	種別 土師器
85	遺物番号 658	種別 土師器	種別 弥生土器
86	遺物番号 682	種別 土師器	種別 弥生土器
98	遺物番号 981～983	時代 古墳時代	時代 奈良時代
69	遺物番号 332	種別 土師器	種別 弥生土器
100	遺物番号 1045	器種 空白	器種 提瓶
108	遺物番号 S54	器種 石・杵	器種 石杵

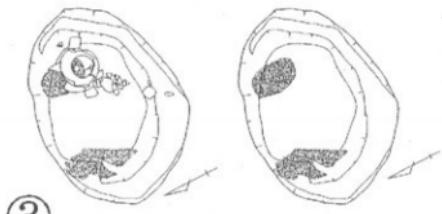
○図版・写真図版

頁	図版番号	誤	正
120・121	第6図	等高線標高漏れ	別紙1-①
122	第7図	等高線標高漏れ	別紙1-①参照
131	第16図	等高線標高漏れ	別紙1-①参照
134	第19図	方位間違い	別紙1-②
135	第20図	方位間違い	別紙1-③
158・159	第41図	等高線標高漏れ	別紙1-④
写真図版54	中段	613	575

別紙上



第19図 AII区整地付图面D01検出状況1 (S=1/20)



第20図 AII区整地付图面D01検出状況2 (S=1/20) 面見図 (S=1/20)



た か つ い せ き
高 津 遺 跡

都治地区県営ば場整備事業に伴う発掘調査報告書 II

2005年3月

島根県浜田農林振興センター
江津市教育委員会

高麗驛跡遺址 E-2





序

江津市教育委員会では、島根県浜田農林振興センターの委託を受けて、平成11年度から文化庁の国庫補助事業を併用し、都治地区県営ほ場整備事業予定地内に所在する埋蔵文化財の発掘調査を実施してまいりましたが、このたび報告書を刊行する運びとなりました。本報告書は平成11年度から13年度にかけて調査された江津市都治町に所在する高津遺跡の調査成果を取りまとめたものです。

江津の中央を流れ奔る江の川は、中国太郎の異名を持つ中国地方最大の河川として知られていますが、古来より中国路陰陽を結ぶ大動脈として、文化、経済、人の交流を促してきました。15世紀の半ばには既に江の川河口は対外貿易基地の一基地となり、環日本海交流の要衝の地として重要視されていたことが中国や朝鮮などの文献により明らかとなっています。

今回の調査は、昭和46・47年に行なわれた波来浜遺跡調査以来、江津市東部では実際に29年振りの本格的な調査となりました。都治の地に営まれた弥生時代から古墳時代にかけての集落や、石見焼の生産を遡ること実に1200年前。大量の粘土を採取し、窯業生産活動を行なっていた古代人の姿が明らかになります。

今回のは場整備に係る一連の調査により、江津はもとより、島根県にとっても貴重な資料となりました。平成13年度発刊の埋蔵遺跡と併せて、本書が地域の歴史と文化に理解と关心を高める為の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査ならびに本書を刊行するにあたり、ご協力いただきました地元の皆様や島根県浜田農林振興センター、文化庁、島根県文化財課、島根県埋蔵文化財調査センターをはじめ、調査に携わっていただいた多くの関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成17年3月

江津市教育委員会
教育長 野 上 公 司

例 言

- 1・ 本報告は島根県浜田農林振興センターが実施した^①都治地区県営は場整備事業に伴い江津市教育委員会により平成11年度～平成13年度に本調査された遺跡のうち、^②高津遺跡発掘調査における本報告書である。
- 2・ 発掘調査は島根県浜田農林振興センターの委託金と文化庁の国庫補助金、島根県補助金を得て、江津市が実施した。
- 3・ 発掘調査対象地は下記のとおりである。
高津遺跡 島根県江津市都治町字高津
- 4・ 本遺跡の調査履歴は以下のとおりである。

昭和48年度石斧表採	平成12年度一部本調査
平成9年度試掘調査	平成13年度一部本調査
平成10年度確認調査	平成14年度遺物整理
平成11年度一部本調査	平成16年度報告書作成

- 5・ 調査体制は次のとおりである

事務局 江津市教育委員会		
平成9年度	野上公司	教育長
	佐々葉牧生	生涯学習課長
	堀川哲郎	同 課長補佐
	盆子原悦子	同 主事
調査担当	宮本徳昭	同 主事
遺物整理	高島紀子	同 瞽託員
平成10年度	野上公司	教育長
	横山 豊	生涯学習課長
	堀川哲郎	同 課長補佐
	盆子原悦子	同 主事
調査担当	梅木茂雄	同 瞽託員
遺物整理	高島紀子	同 瞽託員
平成11年度	野上公司	教育長
	横山 豊	生涯学習課長
	堀川哲郎	同 課長補佐
	盆子原悦子	同 主事
調査担当	梅木茂雄	同 瞽託員
遺物整理	高島紀子	同 瞽託員
平成12年度	野上公司	教育長
	横山 豊	生涯学習課長
	堀川哲郎	同 課長補佐
	藤田 裕	同 係長
	國澤(盆子原)悦子	同 主事
調査担当	梅木茂雄	同 主事補
事務補助	無川美和子	同 瞽託員
	倉中直子	同 瞽託員
	松原あゆ子	同 瞽託員
平成13年度	野上公司	教育長
	岩田春夫	生涯学習課長
	藤田美恵子	同 課長補佐

林 正司	同 係長	調査補助	澤津 孝	同 嘴託員
國澤悦子	同 主事		恒松明宏	同 嘴託員
調査担当	梅木茂雄	同 主事	佐々木渉	同 嘴託員
事務補助	福本和世子	同 嘴託員		
調査補助	澤津 孝	同 嘴託員	平成16年度	野上公司 教育長
	恒松明宏	同 嘴託員		的場溥勝 生涯学習課長
平成14年度	野上公司	教育長		小林茂雄 同 課長補佐
	岩田春夫	生涯学習課長		山崎真理子 同 主事
	藤田美恵子	同 課長補佐	調査担当	梅木茂雄 同 主任主事
	林 正司	同 係長	事務補助	福本和世子 同 嘴託員
	國澤悦子	同 主事	調査補助	澤津 孝 同 嘴託員
調査担当	梅木茂雄	同 主事		無川美和子 同 嘴託員
事務補助	福本和世子	同 嘴託員		

- 6・ 調査及び報告書の作成に際し、次の組織、方々に指導・助言をいただいた。記して感謝する。
 烏根県文化財課、烏根県埋蔵文化財調査センター、烏根県古代文化センター、浜田市教育委員会、西伯耆弥生研究会、三重県埋蔵文化財調査センター・穂積裕昌、独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所・金田明大
- 7・ 報告書の作成は以下の者が携わった。(五十音順)
 上野山美江、梅木茂雄、上手文子、澤津孝、鹿森三鈴、柴田並希子、福本和世子、藤本淳子、無川美和子、山田ゆう子
- 8・ 報告書に掲載している遺構番号は調査時のものを使用しているため、欠番を生じている。
- 9・ 押図で使用した方位は測量法による第3座標系X軸方向を指し、平面直角座標系XY座標は日本測地系による。標高は海拔高を示す。
- 10・ 科学分析は文化財調査コンサルタント㈱に委託した。
- 11・ 報告書記載の遺物・図面・写真等は江津市教育委員会で保管している。

凡　　例



目 次

第1章 調査に至る経緯 ······	1
第2章 位置と江東地区の歴史的環境 ······	2
第3章 調査区について ······	3
第1節 調査区の設定	
第2節 調査区の概要	
第4章 調査の結果1（遺構） ······	4
第1節 弥生時代～古墳時代	
第2節 中世	
第5章 調査の結果2（遺物） ······	13
第1節 小型遺構に伴う遺物	
第2節 大型遺構に伴う遺物	
第3節 その他の遺物	
第6章 総括 ······	25
第1節 遺跡の変遷	
第2節 山陰系瓶形土器の使用について	
第3節 遺構の時期決定について	
第4節 弥生時代後期～古墳時代初頭の墓・甕について	
第7章 科学分析 ······	30
第1節 高津遺跡発掘調査に係る自然科学分析	
第2節 高津遺跡発掘調査に係る樹種鑑定	

表 目 次

第1表	堅穴住居12計測表	第47表	遺物観察表20
第2表	堅穴住居07計測表	第48表	遺物観察表29
第3表	堅穴住居03計測表	第49表	遺物観察表30
第4表	堅穴住居01計測表	第50表	遺物観察表31
第5表	堅穴住居04計測表	第51表	遺物観察表32
第6表	堅穴住居13-1計測表	第52表	遺物観察表33
第7表	堅穴住居13-2計測表	第53表	遺物観察表34
第8表	堅穴住居08計測表	第54表	遺物観察表35
第9表	堅穴住居09-1計測表	第55表	遺物観察表36
第10表	堅穴住居09-2計測表	第56表	遺物観察表37
第11表	堅穴住居11-1計測表	第57表	遺物観察表38
第12表	堅穴住居11-2計測表	第58表	遺物観察表39
第13表	堅穴住居02計測表	第59表	遺物観察表40
第14表	堅穴住居01計測表	第60表	遺物観察表41
第15表	堅穴住居10計測表	第61表	遺物観察表42
第16表	堅穴住居05計測表	第62表	遺物観察表43
第17表	掘立柱建物1計測表	第63表	遺物観察表44
第18表	掘立柱建物2計測表	第64表	遺物観察表45
第19表	掘立柱建物3計測表	第65表	遺物観察表46
第20表	掘立柱建物4計測表	第66表	遺物観察表47
第21表	掘立柱建物5計測表	第67表	遺物観察表48
第22表	掘立柱建物6計測表	第68表	遺物観察表49
第23表	掘立柱建物7計測表	第69表	遺物観察表50
第24表	掘立柱建物8計測表	第70表	遺物観察表51
第25表	掘立柱建物9計測表	第71表	遺物観察表52
第26表	掘立柱建物10計測表	第72表	遺物観察表53
第27表	孤立立柱建物11計測表	第73表	遺物観察表54
第28表	孤立立柱建物12計測表	第74表	遺物観察表55
第29表	上崩朽草1計測表	第75表	遺物観察表56
第30表	段状遺構1計測表	第76表	遺物観察表57
第31表	大型遺構2計測表	第77表	遺物観察表58
第32表	不明遺構01計測表	第78表	遺物観察表59
第33表	1・2号道計測表	第79表	遺物観察表60
第34表	遺物観察表(1)	第80表	遺物観察表61
第35表	遺物観察表(2)	第81表	木製品観察表(1)
第36表	遺物観察表(3)	第82表	木製品観察表(2)
第37表	遺物観察表(4)	第83表	木製品観察表(3)
第38表	遺物観察表(5)	第84表	石器観察表(1)
第39表	遺物観察表(6)	第85表	石器観察表(2)
第40表	遺物観察表(7)	第86表	高津遺跡出土遺物分類表
第41表	遺物観察表(8)	第87表	水堆山上遺・豪時期別分類表 (弥生時代後期～古墳時代初頭)
第42表	遺物観察表(9)	第88表	江津市東郷の遺跡・豪表 中世まで
第43表	遺物観察表(10)		
第44表	遺物観察表(11)		
第45表	遺物観察表(12)		
第46表	遺物観察表(13)		

グ ラ フ 目 次

グラフ1	高津遺跡調査区別遺物集計グラフ
グラフ2	調査区別出土遺物構成比(百分率) (龍文～平安時代)
グラフ3	調査区別出土・遺物構成比(百分率) (古墳時代中期～平安時代)
グラフ4	調査区別出土・遺物構成比(百分率)(中世)

グラフ5	調査区別出土遺物構成比(百分率)(近世以降)
グラフ6	時期別壺・甌累計グラフ (弥生時代後期～古墳時代初期)
グラフ7	時期別壺・甌構成比グラフ(百分率) (弥生時代後期～古墳時代初期)

挿図目次

- 第1図 江津市東部の遺跡 (S=1/40,000)
 第2図 高津遺跡周辺の状況 (S=1/10,000)
 第3図 高津遺跡調査区・トレンチ配置図 (S=1/1,500)
 第4図 トレンチ上層図 (S=1/60)
 第5図 遺構全体図 (S=1/600)
 上：中世以前・下：中世以降
 第6図 A区 遺構配置図 弊生時代～古墳時代 (S=1/200)
 第7図 A I 区 窪穴住居配図 (S=1/80)
 第8図 A I 区 窪穴住居12実測図 (S=1/60)
 復元図 (S=1/120)
 第9図 A I 区 窪穴住居7実測図1 (S=1/60)
 第10図 A I 区 窪穴住居7実測図2 (S=1/60)
 復元図 (S=1/80)
 第11図 A I 区 窪穴住居3・14・04実測図1 (S=1/60)
 第12図 A I 区 窪穴住居3・14・04実測図2 (S=1/60)
 柱穴実測図 (S=1/30) 復元図 (S=1/120)
 第13図 A I 区 窪穴住居13実測図 (S=1/60)
 土坑実測図 (S=1/40) 復元図 (S=1/80)
 第14図 A I 区 窪穴住居08・09実測図 (S=1/60)
 復元図 (S=1/120)
 第15図 A I 区 土器桶盛01 (S=1/10)
 第16図 A II 区 窪穴住居配置図 (S=1/80)
 第17図 A II 区 窪穴住居11実測図1 (S=1/60)
 遺物出土状況 (S=1/120)
 第18図 A II 区 窪穴住居11実測図2 (S=1/60)
 復元図 (S=1/120)
 第19図 A II 区 窪穴住居11土器桶盛り01検出状況1 (S=1/20)
 第20図 A II 区 窪穴住居11土器桶盛り01検出状況2 (S=1/20)
 復元図 (S=1/30)
 第21図 A II 区 窪穴住居02実測図1 (S=1/60)
 第22図 A II 区 窪穴住居02実測図2 (S=1/60)
 柱穴・土坑実測図 (S=1/20) 復元図 (S=1/60)
 第23図 A II 区 窪穴住居01・10実測図1 (S=1/60)
 第24図 A II 区 窪穴住居01・10実測図2 (S=1/60)
 第25図 A II 区 窪穴住居01・10実測図3 (S=1/60)
 復元図 (S=1/120)
 第26図 A II 区 窪穴住居10土器桶盛り02検出状況・
 復元図 (S=1/20)
 第27図 A II 区 窪穴住居05実測図 (S=1/60)
 第28図 A II 区 土器桶盛り04検出状況 (S=1/10)
 第29図 B IX 遺構配置図 (S=1/200)
 第30図 B IV 区 戒武遺跡01実測図・粘土採取場上層図
 (S=1/80) 窓穴実測図 (S=1/20)
 第31図 B IV 区 大溝遺物出土状況1 (S=1/80)
 第32図 B IV 区 大溝遺物出土状況2 (S=1/80)
 第33図 B IV 区 粘土採取場-01実測図 (S=1/80)
 P 1実測図 (S=1/20)
 第34図 A・B 区 粘土採取場全体図 (S=1/200)
 第35図 粘土採取場-1層図 (S=1/80)
 第36図 粘土採取場-02遺物出土状況 (S=1/40)
 第37図 C IX 遺構配置図 (S=1/200)
 第38図 C VII 区 水場土層図 (S=1/80)
 水場断面図 (S=1/200)
 第39図 C VII 区 水場遺物出土状況 (S=1/40)
 第40図 C VII 区 痕状遺構02実測図 (S=1/60)
 土器桶盛り05出土状況 (S=1/30)
 第41図 A区 中世全体図 (S=1/200)
 第42図 A I 区 b 中世遺構配置図 (S=1/80)
 第43図 A I 区 a 中世遺構配置図 (S=1/80)
 第44図 A I 区 振立柱建物01・02実測図 (S=1/60)
 第45図 A I 区 振立柱建物03・04実測図 (S=1/80)
 第46図 A I 区 振立柱建物05・06・07実測図 (S=1/80)
 第47図 A I 区 不明遺構01実測図 (S=1/20)
 第48図 A I 区 残状遺構03・04実測図 (S=1/20)
 第49図 A II 区 中世住穴配位置図 (S=1/60)
 第50図 A II 区 振立柱建物08・09実測図 (S=1/60)
 第51図 A II 区 振立柱建物10・11実測図 (S=1/60)
 第52図 A III 区 振立柱建物12実測図 (S=1/60)
 第53図 窪穴住居08・09出土遺物実測図 (S=1/3)
 第54図 窪穴住居03・04出土遺物実測図 (S=1/3)
 第55図 窪穴住居04・07出土遺物実測図 (S=1/3)
 第56図 土器桶盛01出土遺物実測図 (S=1/3)
 第57図 窪穴住居01出土遺物実測図 (S=1/3)
 (S=1/3・108は1/6)
 第58図 窪穴住居11出土遺物実測図1 (S=1/3・111は1/6)
 第59図 窪穴住居11出土遺物実測図2 (S=1/3)
 第60図 窪穴住居11出土遺物実測図3 (S=1/3)
 第61図 窪穴住居11出土遺物実測図4 (S=1/3)
 第62図 窪穴住居05・11・12出土遺物実測図 (S=1/3)
 第63図 窪穴住居02出土遺物実測図1 (S=1/3)
 第64図 窪穴住居02出土遺物実測図2 (S=1/3)
 第65図 窪穴住居13・段付遺構02出土遺物実測図 (S=1/3)
 土器桶盛り03・03'・04、その他出土遺物実測図 (S=1/3)
 第66図 上器桶盛り05、その他山上遺物実測図 (S=1/3)
 第67図 水場出土遺物実測図1 (S=1/3)
 第68図 水場出土遺物実測図2 (S=1/3)
 第69図 水場出土遺物実測図3 (S=1/3)
 第70図 水場出土遺物実測図4 (S=1/3)
 第71図 水場出土遺物実測図5 (S=1/3)
 第72図 水場出土遺物実測図6 (S=1/3)
 第73図 水場出土遺物実測図7 (S=1/3)
 第74図 水場出土遺物実測図8 (S=1/3)
 第75図 水場出土遺物実測図9 (S=1/3)
 第76図 水場出土遺物実測図10 (S=1/3)
 第77図 水場出土遺物実測図11 (S=1/3)
 第78図 水場出土遺物実測図12 (S=1/3)
 第79図 水場出土遺物実測図13 (S=1/3)
 第80図 水場山上遺物実測図14 (S=1/3)
 第81図 水場山上遺物実測図15 (S=1/3)
 第82図 水場山上遺物実測図16 (S=1/3)
 第83図 水場山上遺物実測図17 (S=1/3)
 第84図 水場山上遺物実測図18 (S=1/3)
 第85図 水場山上遺物実測図19 (S=1/3)
 第86図 水場山上遺物実測図20 (S=1/3)
 一部上器桶盛り05遺物合む
 第87図 水場出土遺物実測図21 (S=1/3)
 第88図 水場出土遺物実測図22 (S=1/3)
 第89図 水場出土遺物実測図23 (S=1/3)
 第90図 水場出土遺物実測図24 (S=1/3)
 第91図 水場出土遺物実測図25 (S=1/3)
 一部粘土採取場-1遺物合む
 第92図 水場出土遺物実測図26 (S=1/3)
 第93図 水場出土遺物実測図27 (S=1/3)
 第94図 水場出土遺物実測図28 (S=1/3)
 第95図 水場山上遺物実測図29 (S=1/3)
 一部B IV 区出土遺物合む
 第96図 水場山上遺物実測図30 (S=1/3)
 第97図 水場山上遺物実測図31 (S=1/3・681414/6)
 第98図 水場出土遺物実測図32 (S=1/3)
 第99図 水場出土遺物実測図33 (S=1/3)
 一部他遺構より (718・727・741・749)
 第100図 水場出土遺物実測図34 (S=1/3)
 第101図 水場出土遺物実測図35 (S=1/3)

- | | | |
|-------|-----------------------|--|
| 第102回 | 水場出土遺物実測図6 (S=1/3) | 一部堅穴住居9遺物含む |
| 第103回 | 水場出土遺物実測図7 (S=1/3) | 中世遺物実測図 (S=1/3) |
| 第104回 | 大溝出土遺物実測図1 (S=1/3) | 木製品実測図1
(W13~15はS=1/4・W1~12はS=1/6) |
| 第105回 | 大溝出土遺物実測図2 (S=1/3) | 木製品実測図2 (S=1/6) |
| 第106回 | 大溝出土遺物実測図3 (S=1/3) | 木製品実測図3 (S=1/6) |
| 第107回 | 人溝出土遺物実測図4 (S=1/3) | 木製品実測図3
(W25~27はS=1/8・W26~28~31はS=1/6) |
| 第108回 | 大溝出土遺物実測図5 (S=1/3) | 木製品実測図4 (S=1/6) |
| 第109回 | 人溝出土遺物実測図6 (S=1/3) | 木製品実測図5 (S=1/6・W46はS=1/16) |
| 第110回 | 大溝出土遺物実測図7 (S=1/3) | 木製品実測図6 (S=1/6) |
| 第111回 | 人溝出土遺物実測図8 (S=1/3) | 木製品実測図7
(W66はS=1/4・W67~69はS=1/6・W65はS=1/26) |
| | 一部水槽遺物含む | |
| 第112回 | 大溝出土遺物実測図9 (S=1/3) | 石器実測図1 (S=1/1) |
| | 一部遺傳火遺物含む | 石器実測図2 (S=1/6) |
| 第113回 | 大溝出土遺物実測図10 (S=1/3) | 石器実測図3
(S=1/3・S19~23, 35~37はS=1/6) |
| | 一部遺傳火遺物含む | |
| 第114回 | 大溝出土遺物実測図11 (S=1/3) | 石器実測図4
(S=1/3・S46~49, 50~53はS=1/6) |
| | 一部焼黑外縁物含む | |
| 第115回 | 粘土採集場出土遺物実測図1 (S=1/3) | 石器実測図5 (S=1/3・S57はS=1/6) |
| 第116回 | 粘土採集場出土遺物実測図2 (S=1/3) | |

写 真 図 版 目 次

- | | | | | | | | |
|----------------|--|---|--|---|---|--|--|
| 卷首圖版1
卷首圖版2 | 高岸遺跡調查區遺物 E→W
上 水場出土遺物（第98圖）
中 水場出土遺物（第99圖）
左下 穴穴住居II出土遺物（第58圖-11）
右下 水場出土遺物（第97圖-682） | 写真圖版8 上 A1区 穴穴住居03·04·13·14完壊状況
E→W
左下 A1区 穴穴住居13換出状況 N→S
右中 A1区 穴穴住居13換出状況
有下 A1区 穴穴住居13切り替換出状況
左上 A1区 穴穴住居13土壠換出状況
E→W
左中 A1区 穴穴住居13土壠換出物上状況
左中 A1区 穴穴住居13上完壊状況
右上 A1区 穴穴住居13砾帶構造出状況
E→W
左下 A1区 穴穴住居08·09換出状況B→W
右下 A1区 土器櫃01換出状況 | | | | | |
| 写真圖版1
写真圖版2 | 高岸遺跡調查區遺物 S→N
上 高岸遺跡調查區遺物 E→W
下 高岸遺跡調查區遺物 W→E
写真圖版3 | 写真圖版9 上 A1区 穴穴住居08·09·10完壊状況
N→S
左下 A1区 穴穴住居12砾帶構造 E→W
左下 A1区 穴穴住居12砾帶溝遺物出土状況
右中 A1区 穴穴住居12砾帶構造 S→N
右下 A1区 穴穴住居07換出状況 N→S
写真圖版4 | 写真圖版10 上 A1区 穴穴住居08·09完壊状況
N→S
左下 A1区 上器櫃01換出状況
有下 A1区 土器櫃01最終面換出状況
写真圖版11 | 左上 AII区 穴穴住居11換出状況
右上 AII区 穴穴住居11砾帶構造出土状況
WS→NE
左中 AII区 穴穴住居11C-C'土層堆積状況
WS→NE
右中 AII区 穴穴住居11C-C'土層堆積状況
WS→NE
下 AII区 穴穴住居11粘土換出状況
E→W
写真圖版12 | 左上 AII区 穴穴住居11壁帶構造換出状況
右上 AII区 穴穴住居11土器櫃01換出状況
W→E
左下 AII区 穴穴住居11土器櫃01換出状況
E→W
右下 AII区 穴穴住居11土器櫃01換出状況
写真圖版13 | 左上 AII区 穴穴住居11土器櫃01炭化面換出状況
左中 AII区 穴穴住居11土器櫃01埋設
右上 AII区 穴穴住居11土器櫃01埋設
右中 AII区 穴穴住居11中央土器櫃01埋設
下 AII区 穴穴住居11完壊状況 W→E
写真圖版14 | 左上 AII区 穴穴住居02床面換出状況
右上 AII区 穴穴住居02砾帶構造后堆積状況
右中 AII区 穴穴住居02砾帶構造后堆積状況 |
| 写真圖版5
写真圖版6 | 左上 A1区 穴穴住居07床面燒土中遺物出土状況
右上 A1区 穴穴住居07床面遺物出土状況
左中 A1区 穴穴住居07A-A'土層堆積状況
ES→NW
左下 A1区 穴穴住居07中央土坑完壊状況
右下 A1区 穴穴住居07完壊状況 ES→NW
上 A1区 穴穴住居03·04·14断面プラン
換出状況 NE→WS
左中 A1区 穴穴住居03·14土層堆積状況
左下 NW→ES
A1区 穴穴住居03管矢出土状況
右下 A1区 穴穴住居03床面換出状況
W→E | 写真圖版7 上 A1区 穴穴住居03床面換出状況
S→N
左中 A1区 穴穴住居04床面換出状況
W→E
左下 A1区 穴穴住居04床面換出状況
右下 A1区 穴穴住居04砾帶構造換出状況
S→N | | | | | |

	左下 AII区 壓穴住居02剥検出状況 NE→WS	左下 AII区 粘土採取場-02完掘状況 E→W
	右中 AII区 壓穴住居02表面焼粘土断面 RS→NW	写真図版26 上 AII区 粘土採取場 NE→WS (壓穴住居08・09を掘り崩した粘土採取坑)
	右下 AII区 壓穴住居02剥検出状況	左中 AII区 粘土採取場 E→W
写真図版15 左上 AII区 壓穴住居02表面焼粘土 右上 AII区 壓穴住居02表面中央尖土坑検出状況 NW→WS	右中 AII区 粘土採取場 A-A'土層堆積状況 NW→E	
	下 AII区 壓穴住居02完掘状況・炉周辺 AII区 壓穴住居02瓦状物出土状況 NW→ES	左下 AII区 粘土採取場 S→N
写真図版16 左上 AII区 壓穴住居02瓦状物出土 右上 AII区 壓穴住居02瓦状物出土状況 (鐵形土器セッタA)	右下 AII区 粘土採取場 S-N	
写真図版17 上 AII区 壓穴住居10土器窪り02 SE→NW	写真図版27 左上 AII区 粘土採取場-02完掘状況 S→N (先は壓穴住居05)	
左下 AII区 壓穴住居10土器窪り02 右中 AII区 壓穴住居10土器窪り02週辺状況 右下 AII区 壓穴住居10土器窪り02	右上 AII区 粘土採取場 S→N	
写真図版18 左上 AII区 壓穴住居10土器窪り02 SE→NW	左中 BV区 粘土採取場 W→E	
左下 AII区 壓穴住居10土器窪り02 右中 AII区 壓穴住居10土器窪り02 右下 AII区 壓穴住居10土器窪り02	右中 BV区 粘土採取場 S→E	
写真図版19 左上 席109横山 左中 AII区 壓穴住居10上器窪り02 右中 席109底部 右上 AII区 壓穴住居10上器窪り02 右下 席109除去後	左下 BV区 粘土採取場溝状遺構 N→S	
	左下 AII区 壓穴住居01壁帶溝檢出状況 右中 AII区 壓穴住居01未検出状況 右下 AII区 壓穴住居01・10遺跡 W→E	右下 BV区 粘土採取場溝状遺構 E→W
写真図版20 左上 AII区 壓穴住居10遺跡状況 右上 AII区 壓穴住居10遺物出土状況 S→N	写真図版28 上 BV・V区 大溝全景 NE→WS	
左下 AII区 壓穴住居10床面検出状況 S→N	下 BV区 大溝調査区全景 NE→WS	
右下 AII区 壓穴住居10柱穴1 E→W	左下 BV区 人頭遺物出土状況 ES→NW	
写真図版21 左上 AII区 壓穴住居01柱穴7 右上 AII区 壓穴住居01・10C-C'土層堆積 状況 NE→WS	右下 BV区 大溝遺物柱1状況 S→N	
右中 AII区 壓穴住居01・10E-E'土層堆積 状況 ES→NW	写真図版30 左上 BV区 人頭遺物出土状況 NW→ES	
左中 AII区 壓穴住居01・10E-E'土層堆積 状況 ES→NW	左中 BV区 大溝遺物山上状況	
左下 AII区 壓穴住居01・10C-C'土層堆積 状況 NE→WS	右上 BV区 大溝駄出土状況	
右中 AII区 壓穴住居01・10C-C'土層堆積 状況 NE→WS	下 BV区 大溝遺物山上状況	
右下 AII区 壓穴住居03完掘状況 S→N	写真図版31 左上 BV区 大溝移動式カマド出土状況	
写真図版22 上 AII区 壓穴住居01・10金量 NB→WS	左下 BV区 段状遺構01柱穴8 完掘状況	
下 A I区 粘土採取場全景 NE→WS	右上 BV区 人頭窪り05検出状況	
写真図版23 上 A I・III区 粘土採取場全景 NE→WS	右中 CVI区 段状遺構02完掘状況 S→N	
下 A II・III区 粘土採取場全景 NE→WS	右下 CVI区 人頭窪り06検出状況	
写真図版24 上 A区 調査風景 WS→NE	写真図版32 上 B・C区 調査区全景 NE→WS	
左中 A I区 粘土採取場西側 N→S	下 C区 調査区全景 NE→WS	
右中 A I区 粘土採取場西側 E→W	写真図版33 上 CVII区 水場調査区全景 NE→WS	
左下 A I区 粘土採取場西側 E→W	下 CVII区 水場調査区全景 NE→WS	
右下 A I区 粘土採取場西側 W→E	写真図版34 左上 CVII区 土層堆積状況 NE→WS	
写真図版25 左上 A I区 粘土採取場 B-W (壓穴住居 07を掘り込んだ粘土採取坑)	左中 CVII区 段状遺構02 NE→WS	
右上 A I区 粘土採取場 G-G'土層堆積状況 E→W	左下 CVII区 土器窪り06遺物出土状況 NF→WS	
左中 AII区 粘土採取場-02検出状況 WS→NE	右上 CVII区 上器窪り05検出状況	
右下 AII区 粘土採取場-02遺物出土状況 ES→NW	右中 CVII区 段状遺構03検出状況	
	写真図版35 左上 CVIII区 水場全景 S→N	
	右上 CVIII区 水場遺物出土状況	
	下 CVIII区 水場遺物山上状況 S→N	
	写真図版36 左上 CVIII区 水場調査風景 NE→WS	
	右上 CVIII区 水場上面は場検出状況	
	下 CVIII区 水場下面は場検出状況	
	写真図版37 左上 CVIII区 水場全景 S→N	
	右上 CVIII区 水場全景 S→N	
	右中 CVIII区 水場山上遺物遺量 ES→NW	
	下 CVIII区 水場出土遺物遺量 ES→NW	
	写真図版38 上 AII区 土器窪り05検出状況	
	下 A I区 中世柱穴検出状況 NW→ES	
	写真図版39 上 AII区 挖立柱遺物8-11完掘状況 S→N	
	左下 AII区 挖立柱遺物燒土面検出状況 W→E	
	右中 AII区 挖立柱遺物燒土面遺物山上状況	
	右下 AII区 挖立柱遺物燒土面遺物出土状況	
	写真図版40 左上 AII区 挖立柱遺物柱穴検出状況	

		左中 AⅡ区 挑立柱建物12棟出土状況 S→N		
	右上	△Ⅲ区 挑立柱建物12棟穴配列状況 N→S		
	下	△Ⅲ区 段状遺構03・04検出状況 S→N		
写真図版41	左上	AⅠ区 段状遺構03・04検出状況		
	S→N			
	左中	AⅠ区 段状遺構03検出状況 N→S		
	左中	AⅠ区 不明遺構01検出状況		
	左下	AⅠ区 不明遺構01A・B品種検出状況		
	右上	AⅠ区 段状遺構04検出状況 N→S		
	右中	AⅠ区 段状遺構03完結状況 N→S		
	右中	AⅠ区 不明遺構01検出状況		
	右下	AⅠ区 不明遺構01完結状況		
写真図版42	上	豎穴住居08・09・03・01出土遺物 (第53・54・55図)		
	下	豎穴住居07・01・10・11出土遺物 (第55・57・58・59・60・61・62図)		
写真図版43	左上	豎穴住居10出土遺物 (第57図・108)		
	右上	豎穴住居10山土遺物 (第57図・108)		
	左下	豎穴住居10出土遺物 (第57図・109・110)		
	右下	豎穴住居10出土遺物 (第57図・109)		
写真図版44	左上	豎穴住居11出土遺物 (第58図・111)		
	右上	豎穴住居11山土遺物 (第58図・113・114)		
	左下	豎穴住居11出土遺物 (第58図・114)		
	右下	豎穴住居11山土遺物 (第58図・112)		
写真図版45	上	豎穴住居11出土遺物 (第58図・113・115)		
	中	豎穴住居11山土遺物 (第58図・113・115)		
	下	豎穴住居05・12出土遺物 (第62図・206・213・211)		
写真図版46	上	豎穴住居02出土遺物 (第63図)		
	下	豎穴住居02出土遺物 (第63・64図)		
写真図版47	左上	豎穴住居11出土遺物 (第65図・281)		
	右上	土器破片05出土遺物 (第67図・334)		
	下	豎穴住居13・段状遺構02出土遺物 (第65・66図)		
写真図版48	上	土器破片03・03'・04・包含層出土遺物 (第66・67図)		
	下	粘土採取場出土遺物 (第115図・1056・ 1057・1061)		
写真図版49	左上	土器破片01出土遺物 (第56図・93)		
	右上	水場出土遺物 (第68図・330)		
	中	水場出土遺物 (第68・69図)		
	下	水場出土遺物 (第70・71図)		
写真図版50	左上	水場山上遺物 (第71図・387)		
	右上	水場出土遺物 (第72図・396)		
	上中	水場出土遺物 (第72図・397)		
	下左	水場出土遺物 (第72図・392)		
	下右	水場出土遺物 (第70・72図・372・394)		
	左下	水場出土遺物 (第72図・392)		
	右下	水場出土遺物 (第73図・404・405)		
写真図版51	上	水場出土遺物 (第73図・409・406)		
	上中	水場出土遺物 (第73図)		
	下中	水場出土遺物 (第74・75・76・77図)		
	下	水場出土遺物 (第79図・474・475)		
写真図版52	上	水場出土遺物 (第78図・463・469)		
	中	水場出土遺物 (第80・81図)		
	下	水場出土遺物 (第85・86・87図)		
写真図版53	上	水場出土遺物 (第77・80図)		
	中	水場出土遺物 (第82・83・84図)		
	左下	水場出土遺物 (第88図・554)		
	右下	水場出土遺物 (第88図・554)		
写真図版54	上	水場出土遺物 (第89・90図)		
	中	水場出土遺物 (第92・93図)		
			写真図版55	下 水場出土遺物 (第91図) 上 水場出土遺物底部 (第91図・637・638・ 639)
				中左 水場出土遺物 (第91図・593) 中右 水場出土遺物 (第94図)
				下 水場出土遺物 (第93図)
			写真図版56	上 水場山上遺物 (第96図) 中上 水場出土遺物 (第95・96) 中下 水場出土遺物 (第96図)
				下 水場出土遺物 (第100図・108・109図)
			写真図版57	上 水場出土遺物 (第100図・751・755) 左下 水場出土遺物 (第97図・682) 右下 水場出土遺物 (第110図・946・947)
			写真図版58	上 水場出土遺物 (第97図・683) 上 水場出土遺物 (第97図・683) 上 水場出土遺物 (第97図・683) 中上 水場出土遺物 (第101図) 中下 水場出土遺物 (第102図)
				下 水場出土遺物 (第102・103図)
			写真図版59	上 水場大溝出土遺物 (第70・103図・372・ 877) 中 大溝山上遺物 (第104・105・106図) 下 大溝出土遺物 (第105図)
			写真図版60	上 大溝山上遺物 (第105図・881) 中 大溝出土遺物 (第105図・881) 下 大溝出土遺物 (第107図)
			写真図版61	上 大溝出土遺物 (第106・107図) 中上 大溝山上遺物 (第106図・944・945) 中下 大溝出土遺物 (第111図・956) 下 人溝山上遺物 (第112・116図)
			写真図版62	上 大溝出土遺物 (第114図) 中 人溝山上遺物 (第113・116図) 下 大溝出土遺物 (第113図・1023) 下 人溝山上遺物 (第113図・1023) 下 大溝出土遺物 (第113図・1023)
			写真図版63	左上 大溝出土遺物 (第118図) 右上 大溝出土遺物 (第118図) 左中上 大溝山上遺物 (第118図) 右中上 大溝出土遺物 (第118図) 左中下 大溝山上遺物 (第118図) 右中下 大溝出土遺物 (第119図) 左下 大溝山上遺物 (第119図) 右下 大溝出土遺物 (第122図)
			写真図版64	左上 大溝山上遺物 (第122図) 右上 大溝出土遺物 (第122図) 左中上 大溝山上遺物 (第122図) 右中上 大溝出土遺物 (第122図) 左中下 大溝山上遺物 (第122図) 右中下 大溝出土遺物 (第122図) 左下 A区出土遺物 (第124図) 右下 粘土採取場出土遺物 (第124図)
			写真図版65	左上 水場出土遺物 (第129図・S54) 右上 人溝山上遺物 (第126図・S12) 右中 大溝出土遺物 (第126図・S17) 左下 粘土採取場出土遺物 (第126図・S16) 有下 豊穴住居02出土遺物 (第126図・S11)
			写真図版66	上 石器集合 (第125・127図) 下 石器集合 (第126・127・128・129図)
			写真図版67	上 AⅡ区挑立柱建物出土遺物 (第117図) 下 陶器・須恵器 (第117図) 他写真のみ掲 載遺物
			写真図版68	上 陶磁器 (写真のみ掲載) 下 陶磁器 (写真のみ掲載)

第1章 調査に至る経緯

都治地区県営は場整備事業に先立ち、江津市は平成9年1月6日付で、江津市教育委員会（以下市教委）へ埋蔵文化財の有無及びその取り扱いについて照会を行った。これを受け市教委は平成9年1月13日から分布調査及び試掘調査を行った。調査の結果、周知の遺跡である宇野勘吉氏宅付近遺跡、埋築遺跡の周辺は遺跡であることが確認された。平成10年6月9日島根県教育庁文化財課を交え協議を行った結果、埋築遺跡の範囲及び性格を確認する為確認調査が必要と指導を受けた。平成10年9月21日浜田農林振興センター所長より江津市長へ事業区域内第3工区の確認調査の依頼があり同9月30日に委託契約を結び平成10年10月1日～平成11年3月19日にかけて調査及び整理を行った。調査は遺跡範囲の75,000m²に対して、2m×4mを基本としたトレーナ（確認坑）30箇所により行なった。調査結果を踏まえ、高津遺跡・埋築遺跡については、開発により一部消滅する恐れがあるため、事業で掘削される箇所の本調査が必要と回答。調査費については事業主体である浜田農林振興センターに負担していただき、受益者負担分については文化庁の国庫補助を受けて平成11年度～13年度にかけて両遺跡の調査を行った。調査は平成11年度に高津遺跡調査区B・Cについて行ない、平成12年度は埋築遺跡I区・II区調査を6月～12月まで、高津遺跡調査区A III区調査を12月から3月まで行なった。平成13年度は高津遺跡調査区A I・II区の調査を4月から12月末まで、埋築遺跡報告書作成を平成14年1月から行なった。平成16年度は本報告書作成を行なった。調査中の遺跡については現地説明会を開いた。参加者は延べ250人ほどである。調査の内容などは江津市出前講座などで広く活用した。

今回のは場整備事業のうち、盛り土部分については未調査のまま現地に保存されている。

第2章 位置と江東地区の歴史的環境（第1図・表88）

江津市は、日本海側の沿岸部に位置し、中国山地より流れ下る江川により中央で分断されており、東側を江東地区、西側を江西地区と呼んでいる。険しい山地は少なく、市域は準平原の前地斜面で形成されている。江東地区の入り組んだ旧沿岸線は海浜部から丘陵までクロスナ層を間に挟んだ新・旧砂丘が広く堆積している。この為海浜部は小規模な後背湿地を持つ低砂丘陵が多く存在する。江東地区唯一の盆地を持つ都治は交通の要衝として機能していたようである。今回の調査では古代山陰道及び関連遺跡は確認できなかった。江東地区で本格的な発掘調査が行われたのは、波来浜遺跡（S46～47）のみで、今回の一連の調査が2例目である。このため地域全体の歴史を把握することは困難であるが、以下表探・調査等により分る範囲で江東地区の歴史を概観する。

縄文時代

海浜部で後期の遺跡が確認されている。波来浜遺跡北方で遺物が表探されている。尾浜地区では扁平磨製石斧が表探された。また、後期のクロスナ層が確認されており、遺物もまとめて出土している。内陸部では晩期に入つて埋築遺跡で突帯文上器が出土している。

弥生時代

埋築遺跡で縄文晩期から弥生後期にかけての包含層と、前期の土器を伴う溝状遺構が一部調査された。波来浜遺跡では前期の赤彩壺が出土しており、壺棺の可能性を指摘されている。

中期の遺跡は埋築遺跡の包含層の他、波来浜遺跡で張り石の墳丘墓が確認されている。後期に入ると埋築遺跡、波来浜遺跡張り石墳丘墓が継続される他、高津遺跡で住居跡等が確認されている。

古墳時代

尾浜遺跡で竹管文を施されたもの等前期の土師器小片が数点表探された。中期では、高津遺跡で据付かまど（かまど）を伴つた住居跡等が確認された。後期に入ると、高津遺跡で粘土採取坑と思われる土坑群が調査されている。また、須恵器模倣の土師器が出土している。波来浜遺跡で土師器、須恵器、鉄斧が出土している。古墳では箱式石棺を伴う尾浜古墳と佐古ヶ丘横穴墓群が知られている。江東地区での横穴式石室は未確認である。その他各地で遺物が表探されているが、明確な遺構は確認されていない。

奈良平安時代

主要な遺跡は、長田遺跡、波来浜遺跡の2箇所のみだが、それぞれ地元では長田千軒、波来浜千軒と呼ばれており興味深い。両遺跡からはともに、土師器、底部糸切り須恵器等が出土しているが、波来浜遺跡ではその他に鉄製紡錘車、鉄鎌、鉄斧、製塙土器、土鍤、須恵器・石帶一組を伴つた火葬墓が調査されている。それ以外の遺跡からは当該期の遺物はまとまつた出上がない。高津遺跡で「郡」へら書き須恵器环が出土している。

中世

埋築遺跡で、土坑墓を伴う建物跡が調査された。高津遺跡でも掘立柱建物跡等が調査されている。江東地区では現在まで多くの山城が確認されているが、発掘調査されたものは鎌満城跡と千木崎城の一部のみで、時期を確定できる遺物はなかった。宝篋印塔は各地で確認されている。波来浜遺跡で、炉状遺構1基が確認されている。また、「g」字墨書き土師器、前期の陶磁器と貨銭957枚、羽子板状鐵鏡、鉄釘などが出土している。遺跡南東で工事立会のさい柱穴群が確認されているが、担当者により中世の可能性が指摘されている。

第3章 調査区について

第1節 調査区の設定（第3図）

本報告書では調査区を南北に三分し、北側から調査区A、調査区B、調査区Cとして報告を行なう。それぞれの調査区では西側丘陵側から東側河川側に向かい調査区を細分している。調査区AはI区からIII区・調査区BはIV区とV区・調査区CはVI区とVII区で構成されている。

本文図版の掲載は必ずしも上記調査区の順序に従わない部分があるためご理解いただきたい。

第2節 調査区の概要（第3図）

1. 調査区A

高津遺跡の北側にあたる調査区で、背後の丘陵から都治川へ向かう緩斜面及び平坦面をさす。

丘陵裾にあたる緩斜面I区の上層は中世の掘立柱建物が2面にわたって密に存在している。下層では、堅穴住居からなる弥生時代後期から末期にかけての集落と、古墳時代中期の集落が展開している。I・II・III・IV・V区にまたがって粘土採集場が広範囲に広がっており、その一部は堅穴住居などの遺構を割り取っている。II区は最近の耕作により大規模な削平を受けており、遺構の残存状態はかなり悪く、また、南北に延びる浅い谷地形を埋めた暗茶褐色の土壤に掘り込まれた遺構が、同色の覆土で覆われていたため土色に違いが認められず、その検出には困難を極めたが、I区と同様中世と弥生時代、古墳時代の建物遺構及び粘土採取場が検索された。遺構中には大量の弥生時代後期の土器を含んだ覆土が流れ込んでいた為、削平されている場所にも建物の存在が想定できる。

平坦地に当たるIII区は元々微高地だったようだが、II区同様かなりの削平を受けており、耕作土の下からは礫層の厚い堆積が認められた。礫層上からは中世と思われる掘立柱建物の深い柱穴以外には目立った遺構は検出出来なかった。また遺物も少量であった。

2. 調査区B

高津遺跡の中央に位置する調査区で、背後の丘陵から都治川へ向かう緩斜面になっている。調査区の北側では粘土採取による溝状遺構と中世と思われる柱穴を伴う加工段が確認された。南側は谷から延びる腐植土の堆積が都治川へ向かって下っており、大量の土器及び木製品が出土している。この谷地形の溝を人溝と命名する。

調査区の南側は削平を受けたものかIV区同様耕作土の下には礫層が広がり、遺構は確認出来なかった。

3. 調査区C

高津遺跡の南側にあたる調査区で、東西で標高差があり、西側には後世の削平により作られた平坦面がある。西側平坦面の西壁には古墳時代中期の厚い包含層が堆積しており、当時期の集落が丘陵斜面に展開しているものと思われる。一部は平坦面の東端にも確認できる。

調査区の東側には人工的に作られた大きな溝が都治川へ向かって下っており、大量の土器と木製品が出土している。水溜めのためと思われる遺構と、足場状の木組みが確認されたため、生活に使用された水場と認識し、水場と命名し報告する。周辺は、礫層が広がり遺構は検出出来なかった。

南側の調査区外には広い平坦地があり、遺物が表探出来る為遺跡が広がっていると思われる。

調査区の東端VII区では旧河川と思われる砂層や疊層が確認された（第4図トレンチ27）。おそらく、都治川の一部は山側に寄っていた時期があったと思われる。水場からの堆積は少量の遺物を伴ってVII区まで続いており、そのまま旧河川に連結している。

以上調査区の概要を述べたが、調査区全体に水田による削平が認められており、また、粘土採取時に破壊された遺構も多いと思われるため、遺構の残存率は低い。さらに、遺構埋土の識別が不可能な遺構が多く存在し、あいまいな記述が多く、十分な報告が出来なかつたことをお詫びする。

なお、ほ場整備における盛り土範囲は調査対象外としているため、現状で保存されている。

第4章 調査の結果1（遺構）

第1節 弥生時代～古墳時代

今回の調査では弥生時代後期から古墳時代後期にかけての遺構が確認された。検出された殆どの竪穴住居跡と思われる遺構は残存状態が悪く、プランだけ見ると加工段のように見えるものもあるが、柱穴配置から竪穴住居として報告している。残存状態の悪い竪穴住居の理解を助ける為に、平面形と柱穴配置を手掛かりに作成した復元図を参考程度に併載している。

1. I区

竪穴住居12（第8図）

丘陵裾緩斜面に位置し、住居の北側半分は盛り土と共に流出している。平面形は円形又は多角形を呈すと思われる。壁帶溝の中で壁構造に由来すると思われる柱穴列が確認できる。

壁帶溝出土遺物である長頸瓶213及び覆土中遺物より、遺構廃棄時期はV-2様式頃と思われるが、良好な資料に乏しく、遺構の時期を確定するには至らない。

竪穴住居07（第9・10図）

丘陵裾緩斜面に位置し、住居の平面形は5mほどの五角形若しくは隅丸方形を呈す。住居の北側大部分は粘土採取坑により削平を受けている。主柱穴は4本から5本と思われ、中央やや西寄りに浅い中央土坑を有す。

床面で炭化物と焼土の薄い堆積層を検出した。中央土坑と柱穴P2は炭化物と焼土が堆積しているため、住居が火を受けた時の遺構と判断した。貼り床除去後に溝状遺構を確認したが、壁帶溝とするには幅が広く床下構造の可能性なども考えられる。焼土中の遺物74などから住居の最終廃棄時期はV-4様式と思われる。

竪穴住居14（第11・12図）

丘陵裾緩斜面に位置し、住居の北側大部分は後世の削平を受けている。竪穴住居03の貼り床の下でプランが確認できた。平面形態は多角形と思われ、復元すると直径8m以上の8角形住居となつた。竪穴住居03の建替え前の住居である。柱穴は不明である。

出土遺物は確認出来なかった為時期は不明だが、竪穴住居03出現直前の建物である。

竪穴住居03（第11・12図）

丘陵裾緩斜面に位置し、住居の北側大部分は後世の削平を受けている。竪穴住居14を埋め戻した後で貼り床を施した住居である。平面形態は円形若しくは多角形の大型住居と思われる。遺構残存部を元にして普通に住居の平面形を復元すると直径は9m以上になるが、不整形プランの可能性があるため9m以上の住居になる可能性を持つとしておく。主柱の数は不明である。壁帶溝の中で壁構造に由来すると思われる柱穴列が密に確認できる。床面で炭化物の堆積が若干検出できた。床面から碧玉製の管玉43が出土している。遺構の廃棄時期は、床面上の最新遺物である甕38及び鼓型器台42からV-3様式と思われる。

竪穴住居04（第11・12図）

丘陵緩斜面下方に位置し、粘土採取遺構と後世の削平により遺構の大半を失っている。竪穴住居03を切り込んで建てられていると思われるが、平面形態及び規模共に不明である。

壁帶溝の内側は不整形なため、おそらく壁材の影響を受けていると思われる。床面では炭化物や焼上がり甕63・64-70と共に堆積している。炭化物堆積面の下で主柱穴を検出した。付近では炭化物の入った土坑を検出した。

床面炭化物中の遺物より、遺構廃棄時期はV-4様式と思われる。

竪穴住居13-1（第13図）

丘陵裾緩斜面に位置する住居で、プランの切り合い関係から竪穴住居13-2を斜面に対し並行移動し、建替えた住居と思われる。平面形態は方形と思われ壁帶溝が廻り、東南の壁際に土坑を持つ。土坑の中には炭化物が面的に堆積し、甕278などが入っている。北西側の壁帶溝の状況から2回以上平面形の変更を行なっていることがわかる。小型の柱穴を数基検出したが柱としては並ばなかつた。正方形として復元した床面積は20m²である。

遺構廃棄時期は、土坑出土遺物及び高環281などから古墳時代中期後葉ごろと考える。

竪穴住居13-2（第13図）

丘陵裾緩斜面に位置する住居で、東側を粘土採取遺構により抉り取られている。重複したプランの切り合い関係から竪穴住居13の建替え前の住居と思われる。平面形は方形を呈し、規模は竪穴住居13と同規模と思われるが、詳細は不明である。遺構廃棄時期は竪穴住居13-2が建つ直前と思われる。

竪穴住居08（第14図）

丘陵裾緩斜面に位置し、住居の北側大部分は粘土採取坑による削平を受けている。平面形は多角形で復元直径は10mほど。7本以上の主柱を持つと思われる。1回ほど平面形の変更を行なっている。竪穴住居09の建替え前のものと思われたが検討を要す。壁帶溝及び床面遺物である甕1・2より、遺構廃棄時期はV-3様式と思われる。

豎穴住居09（第14図）

丘陵裾緩斜面に位置し、住居の北側大部分は粘土採取による削平を受けている。平面形はおそらく多角形を呈すと思われるが残存状況が悪く詳細は不明である。土層と壁帶溝の状況から2回平面形の変更を行なっている。小型の住居は隅丸方形の住居だったと思われる。調査中の土層観察では豎穴住居08の建替え後の住居と考えていたが、トレンチ22の5・6層（第4図）の土層観察では豎穴住居08建替え前の住居と認識している。豎穴住居08と09は分層が困難だった為に豎穴住居08の床面までの遺物の取り上げは08・09共通として、豎穴住居09のプランを検出した段階で、豎穴住居08出土遺物、09出土遺物としてそれぞれを取り上げた。そのため出土遺物の多くが豎穴住居08・09共通のものとなっている。しかし、豎穴住居08が新しいとすると、08・09共通と認識していた遺物は豎穴住居08に帰属する可能性がある。両住居出土遺物の時期はV-3様式より下ることが無い為、豎穴住居09の廃棄時期もV-3様式以前と考える。

土層観察に混乱を生じてしまったが、同時期の豎穴住居03・14の関係や、調査中に豎穴住居09のプランを検出出来なかつことなどからトレンチ22調査時の土層観察が正しかつたと考察する。

土器棺墓01（第15図）

やや広めの土坑を掘り込み、甕93と94の口縁を合わせて埋葬した迎合式土器棺墓である。副葬品は確認出来なかつた。被葬者の埋葬時期はV-4様式である。周辺にある同時期の遺構は豎穴住居04・07だが、被葬者がこの住居の住人かどうかは不明である。少なくとも、弥生時代末期には集落内に墓を持っていることが確認できた。

2. II区

豎穴住居11（第17～20図）

丘陵裾平坦部に位置する住居で、住居北側は後世に削平を受けており検出出来なかつた。

住居11-1の平面形態は隅丸方形で、壁帶溝の観察により平面形の変更を2回は行なっていることが確認できた。主柱の配置はおそらく4本柱になると想われ、一度は柱の建替えを行なっていると考えられる。住居の東側で壁帶溝を確認できたので、これを豎穴住居11-1の建替えと考え豎穴住居11-2と呼ぶ。11-2はおそらく5本柱の不整形な五角形プランを持つと思われるが、北側の状況が不明な為詳細はわからなかつた。また、住居の切り合い関係を確認出来なかつたので、11-1と11-2の前後関係も不明である。同時期の豎穴住居01と10の関係を参考にすると、11-1→11-2となる可能性がある。中央にある大型の土坑から甕114が伏せた状態で検出された。甕の底部は元々欠如しており、脚部を失った高杯115が甕の中に落ち込んでいる。土坑の中に甕114の胸部や高杯115が落ち込んでいるため、甕114の廃棄時には土坑には埋土が充填されていなかつたことがわかる。土坑の底部には炭化物が広範囲に薄く堆積している。この炭化物の堆積上でもう1セット甕112と高杯113が潰れた状態で出土している。土坑のそばで北側に倒壊した山陰系瓶形土器111（以下瓶形土器）を検出した。以上の状況を豎穴住居10セットAの復元状況を踏まえて復元すると、第20図瓶形土器使用状況復元図のようになる。これをセットBと呼ぶ。甕114は接合すると高杯115が入る隙間が無ないので元々底部に穴を開いた甕114の上に高杯115が設置されていたようだ（第20図復元図1）。高杯115の脚部は使用の際邪魔になるため取り除かれたと思われる。甕112と高杯113

は壺114と高环115を使用する以前のセットと思われる。これをセットB' と呼ぶ。壺112は胸部以下が欠如しており、高环113はセットAの高环115と同様の理由で脚部を失っていると思われる。おそらくセットAやセットBと同様な使われ方をしていたと思われる。使用後はそのまま土坑中に廃棄され、ある程度土坑を埋め戻した後、セットBが使用されていたようだ。壺112・114は胸部以下に煤が付着している為、煮炊きに使用したものと転用していると思われる。高环113・115は有機物溶液を煮沸した痕跡が認められるが、外側に煤が認められないことから直接炎を受けていないか、炭火などの完全燃焼による加熱を受けていたと考えられる。

セットBは土坑中で炭等の完全燃焼による加熱を受けたものと考えられる。セットB'も同様の加熱を受けたと思われる。520はススの付着具合から、セットBと同様に天地逆の状態で加熱されたと思われる。

床面でヤリガンナ116や作業台に使われた石器S18が検出された。床面や覆土中から十器が大量に出土している。時期はV-2様式からV-4様式まで、おそらく竪穴住居11の南側に存在したV-2様式からV-3様式頃の住居遺物が流れ込んでいると思われる。

住居の廃棄時期は、セットBが住居の廃棄時の遺物と思われる所以、壺114の時期からV-4様式と思われる。

竪穴住居02（第21・22図）

丘陵裾の平坦地で検出した遺構で、後世に遺構上面が削平を受けている。平面形態は方形で、壁帶溝が廻る。山側の壁際に炉を持ち中央部に土坑を持つ。西側に大きめのビットP9を持つ。P9出土遺物は218・219・222などである。住居中央寄りに小型の柱穴を9基検出した。中央土坑に切られたビット10から須恵器蓋262が出土した。住居床面は炭化物や焼土に覆われている。壁から離れて設置された炉は粘土製で被熱し、上器のようになっている。上方はかなりの部分が削平を受けているので上部構造は不明だが、平面形を見ると奥に円形の豊孔が開いており、手前に小型の豊孔が開いている。それぞれの孔には灰が堆積している。小型の豊孔から炉の手前へ向けて細い横孔が壁を貫通して開いている。炉の裏側にある住居壁には炉と同様の被熱粘土が張り付いており、円形の穴が開いているが炉壁を抜けているのかはわからなかった。また、壁の被熱粘土の穴に対する炉壁の穴は残存部では確認出来なかった。從って煙道構造を含め、炉の性格などは不明である。炉は教育委員会で保管している。炉の裏側に高环脚部257が落ち込んでいた。

住居の廃絶時期は蓋262から古墳時代中期末から後期初頭と思われる。

住居覆土中から多量の弥生土器が出土した。時期はV-2様式からV-4様式までである。竪穴住居11同様南側にあった住居からの流れ込みとおもわれる。また、床面精査中にも多量の弥生土器が出土した。竪穴住居11覆土中の遺物である。竪穴住居11の参考として床面精査中の弥生土器を若干掲載する。

竪穴住居10（第23～26図）

丘陵裾平坦部に位置する住居で、飴形土器の倒壊を検出したことにより、住居の存在を予想した。しかし暗茶色の地盤に同色の覆土が入っているようで住居プランが検出できず、最終的に、土層観察ベルトを設け、次層の青灰色粘土層中に柱穴が掘込まれている事を折つて全面を掘り下げた。何

とか柱穴が確認できたが、建替えを行なっているようで、上層観察により竪穴住居01を抽出した。竪穴住居10の平面形態は六角形と思われる多角形を呈す。竪穴住居01の主柱は2本共有しており、床面は竪穴住居01より10cm高い。床面の状況と併せて竪穴住居01の建替え後の住居と考えられる。主柱は6本と思われるが柱穴を1基確認出来なかつた。中央に浅い土坑を2基伴いその内の1基では竪109が胸の半ばまで埋設されている。竪109と重なるように高环の环部110が検出された。そばには山側に向かって倒壊した瓶形土器108が検出された。復元すると第26図復元図のようになる。これをセットAと呼ぶ。瓶形土器108は底部西南側を支点に倒壊し、西方向に若干力を受けている。竪109と高环110も竪胸部に落ち込む際に若干西方向に力を受けていると考えられる。なお、これらの動きがあった際に瓶形土器108の破片の一部が倒壊の反動でひっくり返っており、破片が周辺の床面に散乱している為、少なくともある程度の空間が確保された状態で倒壊したことがわかる。土坑の底部と竪109の外部埋設面に煤が付着しており、埋上では細かい炭化物が確認できる。竪109は土坑内に埋設された状態で火を受けた可能性が有る。高环110の内側では何らかの有機物溶液を煮沸した際の痕跡が付着しており、こぼれたものが外面にも流れ付着している。高环110は若干傾いた状態で加熱されていたようだが外面に煤が付着していない為、直接火を受けてはいないと考える。炭火のような完全燃焼炎を間接的に受けた可能性が有る。瓶形土器108は内側の色調が淡灰色を呈しており、スス痕跡とも考えられるが、あるいは土器焼成時の還元色かもしれない。もう1基の土坑には灰が充填されており、石器が立位で検出されている。石製支脚の可能性があるが用途不明である。

住居の廃棄時期はセットAの竪109より、V-4様式とおもわれる。

竪穴住居01（第23～25図）

丘陵裾平坦部に位置する住居で、平面形は不整形の隅丸方形と思われ、主柱は4本である。床面の状況と上層観察により竪穴住居10の建替え前の物と思われるが遺物は確認出来なかつた。中央付近の床面は被熱し、硬化している。

住居の廃絶時期は竪穴住居10出現の直前と思われる。

竪穴住居05（第27図）

丘陵裾平坦部に位置する住居で、平面形態は円形又は多角形を呈す。後世の削平と粘土採取により遺構の大半を失っている。壁際で壁帶溝の一部を検出した。柱穴の一部は検出出来たが主柱の配置は不明である。小型の瓶形土器211が出土した。良好な一括資料持たないため時期の確定は困難だが、住居の廃棄時期は覆土出土遺物からV-3様式前半頃と思われる。

土器溜り3・3'（第28図上）

調査区北側に位置し、土器溜り4の東側で検出された土器溜りで、やや分散する広範囲な土器溜り3と、その中でも遺物の密集する土器溜り3'を検出した。土器溜り3'はミニチュア土器や高环等を豊富に含むが直接祭祀に関連するものは見当たらなかつた。祭祀跡の可能性も考えられるが詳細は不明である。

土器溜り4（第28図下）

調査区北側で単頭型土製支脚307や甕308などがまとまって出土している。ミニチュア土器等が見られないことと、石器S9・S15など生活用具を伴うため、住居内遺物の可能性も考えられる。しかし、住居のプランを検出出来なかつたので土器溜りとして扱う。

3. IV・V区

大溝（第29・30・31図）

調査区IV区とV区で東西に延びる一連の湿地性の有機物堆積層を確認した。丘陵裾から都治川方面へ東西に微傾斜が下る幅23m長さ18m以上深さ1mほどの谷地形の堆積だが、水場と違い自然地形に堆積している可能性もある。W1～46（W40を除く）ほか大量の木製品と土器、石器が出土している。木製品のほとんどは建築部材だが、若干の生活道具も混じっている。クワ属の木W67は一本の丸太を細杭で水平に固定し、端部上面を平坦に加工している。一部は調査区の外に伸びているため長さは不明であるが、調査区内では長軸で4.7mまで測れた。木製品の素材か若しくは木道のような遺構なのか、判断はつかなかった。S12・S17・S21・S25を始め大型の砥石が多量に散乱していた。人為的ならばその目的は不明である。

水場と大溝で接合出来た資料が有る。装飾壺372と絵画土器881である。両遺構は45m以上の距離があり、地形が南北へ傾斜しているため、東西への自然な遺物の移動は起こらない。これらの遺物は自然に廃棄されたものではなく、割れた装飾壺や絵画土器をわざわざ水場と大溝へそれぞれ廃棄した行動の結果と考えられる。よって、この行動は土器を使った祭祀行為と認識した。なお、両遺物は共にV-4様式のものと思われ、弥生時代末期には土器を削って水場と大溝に廃棄する祭祀が定着していたと考えられる。土器の中に何が入っていたのかは不明である。遺構の使用者の意識においては水場と大溝が同列の意味を有していた事が窺える。

出土遺物は弥生後期から古墳後期まで出土しており、遺構の存続が長期に及んでいる。

なお、出土遺物実測図は、水場出土遺物を補完する程度の掲載に留めているので、出土遺物統計表86で確認いただきたい。

4. VI区

段状遺構02-1（第40図）

丘陵裾平坦面端部に位置する建物で、コの字形に壁と壁帶溝を検出した。建物の東側は流れたか、もしくは、加工段のような性格を持つ奥行きの狭い建物だった可能性もある。一辺の壁の長さは竪穴住居13と同規模である。壁と並行に並ぶ小型の柱穴を検出したが、建物に伴うものなのか不明である。

段状遺構02-2（第40図）

丘陵裾平坦面端部に位置する遺構で、段状遺構02-1と並行しており、段状遺構02-1の建替えの可能性を持つ。段状遺構02-1と同様に壁帶溝を持つが、北側の壁は検出出来なかつた。北側に建替え後の溝を一条検出した。遺構の東側は流れたか、もしくは、加工段のような性格を持つ、奥行きの狭い建物だった可能性もある。壁帶溝と並行に並ぶ小型の柱穴列を検出したが、建物に伴う

柱であったのか不明である。

段状遺構の廃棄時期は出土遺物から、古墳時代中期～後期ごろと思われる。

土器溜り5（第40図）

丘陵裾に広がる弥生後期V-3様式の土器溜りである。土器溜りに伴う遺構は確認出来なかった。出土遺物には甕334などがある。

5. VII区

水場（第38・39図）

高所にあるVI区の平坦地が東へ落ち込む辺りから遺構が始まっており、緩斜面をおよそ幅8.5m、長さ30m、深さ1.5mほどにU字形に掘り込んで人工的に溝を作っている。この掘り込みはVII区で確認された旧河川に接続している。調査時にはVII区から當時流水があったが、珪藻分析の結果から当時の流水量はさほど多くなく、遺構は乾温を繰り返していたようだ。雨水などか間欠的に流れ込んでいたのかもしれない。

疊・砂粒層と有機物堆積層の堆積がある程度繰り返された後に遺構中央北寄りに杭と板を使って足場と思われる平坦面を作っている。また、木材を用いた簡易な上手を築いて、ある程度水を溜めているようで、木製品が水平に堆積している。

遺物は磨滅していない土器が多く堆積しており、接合出来る物が多いが、個体の一部だけ磨滅風化しているものもある。

遺構の使用期間は弥生時代後期から古墳時代後期までと思われるが、粘土採取時に掘り崩した住居から出土した土器などをここに廃棄している可能性がある。

出土遺物は概ね下層が古く上層が新しい傾向を示すが、土砂の堆積が流水の搅乱を受けづけて形成されているため、最下層で須恵器が出上し、上層でも弥生上器が出土しつづけている。

遺構北側で立木杉の根を検出した。3層に根を張っており、2層の堆積により埋没したと思われる。

東壁A-A'セクション3層中の一括資料は、400・529などであるが、現段階で壺400の時期確定が出来ないので、この資料の一括性については保留する。

7層下層一括で検出した土器溜りの構成は、341・350・363・373・397・462・484・489・501・514・524・546・550・552・556・574・646・677・682・739などであるが、一括性が高いとはいえない。構成時期が弥生時代後期と古墳時代初頭に大分出来る為、複数時期の一括資料が重なって検出されたあとで、流水により搅乱された可能性も残す。

水場から大溝までの空間には遺物や遺構は確認されなかったが、遺構南側の調査区外には一段高い所に広い平坦地が広がっており、遺物が表採される為遺構の存在する可能性が高い。

大溝の説明でも触れたが、装飾壺372と絵画土器881はここ大溝の間で接合できた資料である。須恵器模倣の黒色磨研土器は人溝、水場、粘土採取場で出土しているが、古墳時代後期の赤彩土師器は水場と大溝でのみ出土している。おそらく祭祀行為に使用されたと思われる。水場と大溝で執り行われていた祭祀行為は弥生時代末期と古墳時代後期では趣が違っているが、長期にわたり両方の場所が祭祀を執り行う場所として等しく扱われていた様である。

6. I～V区

粘土採取場（第33～36図）

粘土採取場は豊穴住居群を掘り崩しており、中世の柱穴群や段状遺構3・4などにより削平、攪乱を受けている。今回現状保存できない箇所を1,300m²ほど調査したが遺構の一部であり、おそらく全体規模は2,000m²以上になると思われる。遺構には粘土と土砂の混じった埋土が複雑に堆積しており、埋土を取り除くと縦横に掘り込まれた採掘坑が無数に確認された。掘り方は粘土を追いかけての露天掘りを基本とし、所々で埋め戻された粘土混じりの土砂を掘り直した痕跡も確認されたので、個々の粘土採取にはあまり計画性が無かったのではないかと考えられる。しかし、粘土採取場全体を見渡すと、調査区A I区では採掘坑が密に空いており、粘土採取場の中心部と思われる。V区の様に溝状の粘土脈を追いかけて掘削痕が溝状に伸びている場所もある。その先で確認された粘土採取場-01では粘土採取坑がまばらに空き、その先には粘土を掘り起こした形跡が見られないことから粘土採取場の西南端と思われる。また、粘土採取場-01では土師器窯600が一個体分出土している。北西側も豊穴住居11の東側あたりから採取坑はまばらになり、豊穴住居01の手前で粘土採取は終了している。これらの状況から、粘土採取は初め、A I区を中心に行なわれ、だんだん採取範囲を扇状に広げ、やがて粘土の採取を行なわなくなり、終焉を迎えた様子が認められる。

セクションB-B'では17層掘り込み底部で板状木製品W65が水平の状態で出土している（第35図）。粘土採取場-02では焼成不良の須恵器窯1061がほぼ完形で出土している（第36図）。粘土の採取時期は豊穴住居13が掘り崩されているので遺構の切り合い関係から少なくとも古墳時代中期には粘土採取が行なわれており、段状遺構04の削平を受けているため中世以前には終わっていると思われる。しかし粘土の採取がいつ頃から行なわれていたのか不明である。出土遺物の時期が弥生時代後期から古墳時代後期までなので古墳時代後期をその終焉としておく。ここからの出土遺物は多いが、出土土器の形式は水場及び大溝出土遺物と概ね変わらないので、実測図の掲載を控え、表86で内容を表した。粘土採取の目的は、土器作成のためと思われるが、土器焼成遺構も、須恵器窯も確認出来なかった。今回の調査では粘土及び土器の胎土分析を行なえなかつたが、今後の課題としたい。

第2節 中世

1. I区～III区

掘立柱建物1～7（第41～46図）

I区の柱穴群から7棟分の建物を復元した。

立地は丘陵裾部の緩斜面で、北側を後世の耕作により失っている。柱穴は密集しており、何度も建替えを行なっていると思われる。柱穴出土遺物から、建物の時期は概ね中世後期で収まっていると思われる。

掘立柱建物8～11（第49～51図）

調査区北側で建物の床面と思われる浅い堀込と建物の建替え若しくは柵列と思われる柱穴列を4組検出した。遺構面は炭化物が万遍無く堆積しており、一部に火を受けた痕跡が認められる。おそらく板貼りの床が焼失したものと思われる。建物は調査区の外に広がっており全体の規模や柱穴の

配置は確認出来なかった。炭化物堆積面の周辺には不整形の浅い溝が沿っている。雨落ちの痕跡であろうか。炭化物の堆積中から陶磁器1114、上師器1115～1117と鉄鉢1118及び、滑石製石鍋を転用した温石1119が出土した。これらの遺物から12世紀後半から13世紀前半ごろに廃棄された建物と思われる。

掘立柱建物12（第52図）

調査区東寄りの平坦地で北西軸に乗って建てられた掘立柱建物を検出した。建物は北側に延びる可能性が有る。柱穴の残存状況が悪く、かなりの削平を受けていると思われる。そのため、包含層も確認出来なかった。柱穴規模及び建物の間尺から埋築遺跡Ⅰ区で検出した掘立柱建物群と同時期と考えるが、柱穴から遺物が確認されなかったので正確な時期は不明である。埋築遺跡同様凡そ13世紀頃の建物と仮定しておく。今後の調査例の増加により正確な時期が判明すると思われる。

柱穴群（第41図ほか）

建物としては掲載できなかったが、おそらく掘立柱建物になると思われる柱穴を多数検出した。そのほか、河原石を充填したピット（第30図）や粘土採取坑と思われる土坑（第33図など）も確認されたが、主な造構を掲載している。

段状遺構04（第48図）

粘土採取遺構が埋没した後で掘り込まれている加工段で集石が伴う。掘り形は緩やかな弧を描き、なだらかに掘り下げられており壁と床の区別が明確では無い。出土遺物から遺構の時期は中世後期と思われる。遺構の性格は不明である。

段状遺構03（第48図）

段状遺構04が埋没した後に掘り込まれた加工段で集石が伴う。掘り形は緩やかな弧を描き、なだらかに掘り下げられており壁と床の区別が明確では無い。出土遺物から遺構の時期は中世前期以降後期までと思われる。遺構の性格は不明であるが段状遺構04と同様の性格を持つと思われる。

1号道・2号道（第41～43図）

中世遺構面第1面で南北に延びる分岐する道を検出した。道は地形に沿って路面が東西に傾斜しており、路肩に側溝を伴う。2本の道は寄り添うように同一方向に延びているため、どちらかが付け替え道と思われる。正確な時期は不明だが、おそらく中世後期から近世にかけての遺構と思われる。

不明遺構（第47図）

中世2面からの掘り込みで、素掘の土坑底部にレキと板を敷いている。井戸の可能性がある。遺構掘り込み面から時期は中世後期頃と思われるが遺物が確認できないため詳細は不明である。

第5章 調査の結果2（遺物）

第1節 小型遺構に伴う遺物

後述する水場や大溝などの大型遺構と竪穴住居などの記述を分けるために、便宜上竪穴住居などを小型遺構と呼び、以下、それぞれの遺構出土遺物について報告する。

竪穴住居08・09（第53図）

両住居跡の埋土に違いが見いだせず、プランでは両者の区別がつかなかった為、多くの遺物は竪穴住居08・09の覆土出土遺物として取り上げてある。識別された遺物は発達した複合口縁に擬凹線で装飾を施した後で口縁部にナデ調整を施している壺と全体にヨコナデ調整されているものに分かれるが、V-4様式まで時期の下るものは無い。また、腹部が発達しているものと、発達していないものが混在する。壺は中型品が多く、口縁腹部を垂下させた大型品が少数含まれている。口縁内面に段を有しない壺12・13は頭部から口縁端部までを真っ直ぐ、若しくはやや外反させて作り、口縁複合部腹部が発達せずヨコナデ調整を施しているのが特徴で、頭部内側は鋭い陵を形成する。鼓形器台29・30は直立外傾する受部を持ち、29はヨコナデ調整、30の施文はナデによりかすれているなど、擬凹線文の重要度は薄れている。高环27は高津遺跡で通常見られるタイプで、竹管を用い脚中に粘土を充填している。脚部にスカシを持つ高杯28は畿内系高杯と思われる。

竪穴住居08

1は端部が肥厚する壺又は壺の口縁で壁帶溝から出土している。2は肥厚する端部の先端が先細る。床面の資料である。3・4の形態はV-3様式だが、ヨコナデにより調整されている。畿内系と思われる高环脚部5が出土しているが、覆土出土のため、住居廃棄後の混入品の可能性もある。

竪穴住居08の床面遺物及び壁帶溝出土遺物はV-3様式の土器なので、竪穴住居08の廃棄時期はV-3様式と思われる。

竪穴住居09

やや外傾する口縁に擬凹線を施した後でナデにより端部を調整する壺6が壁帶溝から出土している。壺7は外反する口縁端部をややつまみ出しており、外反しヨコナデを施す鼓形器台と同様V-4様式の特徴を有す。

竪穴住居09の壁帶溝出土遺物はV-3様式前半頃の特徴を持つが、覆土の遺物はV-4様式を含む。住居の切り合い関係も考慮して竪穴住居09の廃棄時期はV-3様式と考える。

竪穴住居14・03・04（第54～55図）

竪穴住居14からは遺物は出土しなかった。

竪穴住居04は03の覆土掘削中には認識されておらず、よって覆土調査中に取り上げた遺物は竪穴住居03・04共通としている。壺63は、やや肥厚する口縁端部の内側にナデによって作られた沈線を伴う面を持ち、肩部には波状文が廻る。壺底部64は薄作りの胴部を持ち、平底を呈す。岡版の配置

が紛らわしいが、甕70と同一個体である。真っ直ぐ伸びる口縁69は端部を若干つまみ出している。甕70は緩やかに外反する口縁端部を丸く収めている。畿内系の高环脚裾部73にはスカシが認められる。床面焼土中出土遺物の甕63・64・70の時期がV-4様式なので、住居の廃絶時期はV-4様式と思われる。

竪穴住居03の床面で両側穿孔の鶴玉製管玉43や発達した口縁に擬凹線文を施した甕38、鋭い列点文を施した鼓形器台42や畿内系高环脚裾部40、帳形土器41などが検出された。覆土にはV-3様式前半のものやV-4様式に含まれる51・52なども認められ、床面からV-2様式の上器も出土しているが、床面最新遺物の甕38の時期から住居廃棄時期はV-3様式と考える。

竪穴住居07（第55図）

床面の炭化物堆積層中で甕一個体74・75が出土している。覆土からV-2様式から3様式にかけての土器76~81と土師器甕86・87が出土しているが、住居廃棄後の流れ込みと思われる。山手の調査区外にV-2・3様式と古墳時代前期の遺構が存在すると考えられる。床面資料の最新時期はV-4様式である。よって、住居の廃絶時期はV-4様式と思われる。

住居内から統粘土塊が出土している。住居焼失の際に被熱した住居構造材の一部か、若しくは付近にあった土器焼成遺構の構造材が流れ込んだものと思われるが、詳細は不明である。

土器棺墓01（第56図）

中型の甕94は上方に発達し緩やかに外反する口縁にナデ調整を行ない、端部を丸く収める。腹部は水平方向に弱く突出する。薄作りの胴部は肩の張る倒卵形を呈し、外側の調整には縱方向のハケメが認められるが肩部の調整は不明である。内側の調整は左上がりのヘラ削りを行なう。底部にしっかりととした面を持つ。大型の甕96は上方に厚く発達した外反度の弱い口縁端部内側に強いナデによる沈線を伴いながら面を有す。ヨコナデにより口縁腹部は鋭く形成されるが突出していない。薄作りの胴部は肩の張る倒卵形を呈し、外側の調整には縱方向のハケメを施した後に、クシ状工具を用いて一筆で波状文と直線文を交互に施文している。内側の調整は左上がりのヘラ削りを行なう。底部にしっかりととした面を持つ。94の時期はV-4様式である。よって、甕93の時期もV-4様式と思われる。

高津遺跡ではこのセットを基に弥生時代の下限を設定しており、弥生時代末期～古墳時代初頭と思われる竪穴住居の廃棄時期が古墳時代まで下らない事の根拠としている。（第6章第3節参照）

竪穴住居01

住居跡に作る遺物が確認出来なかつたため記載事項はないが、竪穴住居10の建替え前の住居などで、遺構廃棄時期はおそらくV-3~4様式の間と思われる。

竪穴住居10（第57図）

帳形土器108はやや長めの口縁と胴部の境に緩やかな段を有し、口縁と脚端部を丸く収める。環状の把手は上下に一対ずつ差込みにより取り付く。上方の把手は小さめで肩部に寄つて横向きに付き、下方の把手は脚部に寄つて縱向きに付く。長い胴部は上部と下部の径にあまり差が無く、やや

寸胴傾向をとる。これは、内側で使用する壺が兎形で使用されることを想定して、上部でも胴径を小さく出来なかつた為と考えられる。胴部に敷箇所の横に周る接合痕が認められることから、板状の粘土を輪積みして胴部を形成していると思われる。外側の調整は綫方向のハケメで、脚附際までハケメを施す。内側の調整は横方向を指向するヘラ削りが右方向に施されている。壺109は真っ直ぐ外傾する口縁端部に水平の面を持ち、陵部は鋭く斜め下方へ突出している。胴部の中ほどが張り、しっかりした平底の底部を持つ。外側の調整は下方に綫方向のハケメを施し、上方は横方向のハケメを施す。頭部中ほどと肩部に沈線を廻らせ、その間と下方に羽状文を施している。胴部下方は上坑中に埋設された範囲が被熱しススが付着している。内側の調整は右上がりのヘラ削りを行なつており、底部形成時の指頭圧痕が残る。胴部内面には若干焦げの様なものが見受けられる。口縁端部にも若干炭化物が付着している。高壺110は内湾した後で弱く外反する壺部を持つ。脚接合には刺突を伴う凹盤充填を用いている。壺部内面には有機物溶液を煮沸した際の焦げが炭化物のリング状痕跡として残っており、一部は吹きこぼれた状態で外面にも付着している。脚は2次使用の際に取り除かれており、吹きこぼれた炭化物が除去後の脚断面を越えて流れている。

堅穴住居10の廃棄時期は出土遺物からV-4様式と考えられる。

堅穴住居11（第58～62図）

瓶上器111はやや短めの口縁と胴部の境に緩やかな段を有し、口縁と脚端部に面を持つ。環状の把手は上下に一対ずつ差込みにより取り付く。上方の把手は肩部からやや下って横向きに付き、下方の把手は上部に寄つて綫向きに付く。胴部は下部の径が下方把手の辺りまで直立気味に立ち上がり、上部の径が下部の径に比べ小さく作られている。これは、内側で使用する壺が底部を打ち欠き口縁を伏せて使用することにより、高壺の設置高が低く出来る事を想定して、上部径を小さく作り、器高自体もやや低く作った為と考えられる。この工夫をすることにより、粘土の消費と製作の労力を抑えることが出来たと考える。外側の調整は綫方向のハケメだが、脚裾は下方把手下側をヨコナデ調整により仕上げている。内側の調整はヘラ削りと思われるが風化のためか不明瞭である。

中型の壺112は緩やかに外反するやや厚手の口縁端部をつまみ出し、複合部の陵は小さく斜め下方に突出している。胴部調整は外側では下方タテハケメ、上方ヨコハケメ後肩部にクシ描き直線文と波頂間の広い緩やかな波状文を施している。内側の調整は風化の為不明である。高壺113はやや深い壺部が内湾した後端部が強く外反している。脚部は欠如している。壺部内面中ほどには炭化物溶液の沸騰による炭化物がリング状に付着している。大型の壺114は、真っ直ぐ外傾する厚い口縁端部の内側に面を持ち、複合部陵は水平方向に突出する。胴部調整は外側では下方タテハケメ上方ヨコハケメを施した後肩部にクシ描き直線文と波頂間の広い緩やかな波状文を施している。内側の調整は右上がりのヘラ削りが頭部まで施されている。高壺115はやや深い壺部が内湾した後端部が強く外反している。脚裾は欠如している。おそらく2次使用の際に取り除かれたものと思われる。壺部内面中ほどには炭化物溶液の沸騰による炭化物がリング状に付着している。ヤリガンナ116は木質の把手に蔓を巻き付け鉢器本体と結合している。口縁が内傾する壺117は、四線文を施している。118～121は直立する口縁端部がやや上方に発達しており、太い四線文が施されている。122・135はやや外傾する口縁がやや上方に発達している。123～129は先細る複合部を上方に拡張している。126は口縁部をヨコナデ調整している。130～134は先細る複合部がやや外傾して上方に発達し

ている。136は口縁内面に段を有しない壺でヨコナデ調整が為されている。148～151は複合部が下方にも発達している。152～157は複合部が上方にさらに発達している。160・161は複合部の陵を薄く貼り付けている。163～167のII縁複合部は外反しながら外傾している。164・165は口縁端部を細く作っている。壺、壺118～192は薄造りの複合口縁にヨコナデ調整を施すものである。複合部は外傾若しくは外傾外反し、口縁端部は先翻るもの、丸く収めるもの、端部内面に面を持つもの、端部をつまみ出すもの、に分かれる。複合部陵はやや下方に突出させるものや、水平方向に鋭く突出するもの、頸部のナデにより上方へ突出するものがある。端部の面はしっかりしたものが有るがすべて内側に面を持ち、水平になるもの及び端部外側に面を持つものはない。192～197は壺若しくは壺の底部で平底を呈す。198は鉢である。199は鼓型器台の筒部で、若干縮約が始まっている。鼓型器台200は右傾の鋭い列点文が廻る。201は壺類の口縁で、低脚壺若しくは小型の高壺と思われる。202は脚中に粘土を充填する高壺で充填には竹管を使用している。203・204は鼓型器台で、受部調整はヨコナデである。

遺物は主にV-2からV-3様式とV-4様式を中心に出土しており、住居廃棄時の遺物はV-4様式なので建替え前の住居がV-3様式を中心とした時期、建替え後の住居がV-4様式に廃棄されたと考えられる。

竪穴住居05（第62図）

口縁の未発達な壺205や複合部の陵が貼り付けられている壺207・208の他に、瓶形土器211が出土している。211は中膨らみする胴部に下方口縁に達しないタテハケメを施している。良好な出土資料が無いため時期の確定は出来ないが、住居廃絶時期はV-2様式から3様式にかけてと思われる。

竪穴住居12（第62図）

直口壺213が壁帶溝中より出土している。壺214は口縁端部を上方につまみ出している。215は壺胴部と思われる。3条の沈線で区画した左傾の列点文を施している。216は焼粘土塊である217は短い裾部をもつ脚と思われるが、内面の調整が「寧」なので何らかの壺部若しくは受部の可能性を持つ遺構時期を確定するには資料数が心もとないが、時期的にまとまりを持つので住居の廃絶時期はV-1～2様式ごと仮定しておく。

竪穴住居02（第63図）

単純口縁壺218～227は外傾する長めのII縁を持つ。222・224など口縁に若干複合II縁の名残を留める個体が見受けられる。227の胴部は梢円形を呈し、内部調整のヘラケズリは頸部に達しない。228～241は小型の壺と思われる。231は強く外傾する薄造りのII縁を持つ。232・233の口縁はよく発達し、上方へ伸びている。234～241は短い口縁を持ち口縁はやや先翻る。236はミニチュア土器で口縁は弱く上方へ伸びている。242～258は高壺である。壺部を二段階に作り分ける壺部は大きく外傾する246などと、強く外傾して上方へ伸び上がる251の系統に分かれる。また、段を持たない浅い壺部がある。脚の接合には粘土を充填する245・253・254と脚部を差し込んで壺部と固定する255が見られる。257は脚部に穿孔を施している。259は壺の把手である。260・261は移動式壺の胴部であるが、竪穴住居02は据付の壺（用途は不明）と中央土坑を持っており、両者が炊飯に使用されて

いたなら移動式竈の出土に疑問を感じる。後世の流れ込みの可能性も考慮しておく。この住居からは土製支脚は出土しなかった。須恵器蓋262は肩部に陵をもち、発達した口縁端部内面に強いナデを施している。

須恵器口縁263は端部を外反させ、面を持つ。267～269を除く264～276は竪穴住居02の床面精査中に出土した弥生土器で、主に竪穴住居11覆土の遺物で構成されているが、主なもののみ掲載する。

住居の廃棄時期は柱穴出土の須恵器262から、古墳時代中期～後期初頭とする。

竪穴住居13（第65図）

床面の精査まで住居の建替えを認識できず、出土遺物は住居13-1・2でまとめて報告している。甕278は口縁が外傾して伸び、端部に面を持つ。282・283は外反しながら外傾する口縁を持つ。小型壺284は外傾する口縁端部が先細る。高环279～281は環部に段を有すが、281の環部は小さく段も不明瞭である。286は高台を持つ碗で、口縁端部をつまみ出し強く外反させている。甕の口縁と高环の特徴が古墳中期後半の特徴を有している為住居13-1の廃棄時期は古墳時代中期と考える。また、13-2は建替え時に13-1によって切られているため、住居13-2の廃棄時期は13-1改築前と思われる。

段状遺構02（第65図）

甕286は口縁から肩部まで緩やかに外反しており、頸部内面に明確な陵を持たない。鉢287は口縁端部が肥厚し、軽くつまみ出されている。肩部に陵を持ち、肩部外側には荒いハケメがタテに入っている。碗288は腰が深く、平底を呈す。口縁端部は肥厚し、やや内湾傾向を示す。

おそらく古墳時代中期～後期にかけての資料と思われる。

土器溜り03・03'（第66図）

甕289～291は直立外傾する單純口縁の端部が先細り、肩部は球形である。甕293～295はやや外傾度が強い。296～298は小型甕で、口縁が内湾気味に外傾するものも見られる。肩が張るミニチュア土器299の口縁はやや外傾して端部に面を持つ。腰の深い环300は外面指印えで成形し、内面の調整にはヘラミガキを用いている。口縁はやや内湾する。高环301・302の脚端部は強く折れ曲がり、短く広がる。301は穿孔を伴う。

高环や甕の形式から古墳時代中期の一括廃棄遺物と考えられる。

甕303は直立する口縁端部が外反している、土製勾玉310は両側穿孔されている。

土器溜り04（第66図）

单頭式の土製支脚307と小型甕308が出土している。土器堆積時期は古墳時代中期から後期頃と思われるが单頭式土製支脚が山陰にいつ入ってきているのか不明である。よって時期は不明としておく。石器は作業台S9と磨り石S15が山上している。

その他の遺物（第67図）

312～331は土器溜り03と竪穴住居01・10付近で出土した遺物で、おそらく312～320は土器溜り03

へ、321～331は既穴住居01・10へ、それぞれ帰属すると思われる。330は長く鋭い刺突文が左右に傾斜して施されている。332は複合口縁の陵部が斜め下へ発達している。333は体部に掘り込まれた溝に帯状が差し込まれている。

なで肩の壺334は上器溜り5出土遺物で、発達した複合口縁の端部が肥厚しており、擬四線を施文した後で口縁端部をなでている。

第2節 大型の遺構出土遺物及び遺構外遺物

主に水場（第68～103図）および大溝（第104～114図）から出土した遺物を掲載する。その他粘土採取場（第115～116図）出土土器を若干掲載する。なお、掲載する遺物量は、直接遺構の性格に反映しておらず、水場出土遺物を中心に掲載し、大溝出土遺物により補完している。遺物出土量などは表86を参照にしていただきたい。両遺構出土遺物はその性格上、高津遺跡の出土遺物を形式的には網羅しており、両者を併せてみると高津遺跡全体の性格を表している。なお、遺物の掲載に関しては、凡そその形式ごとにまとめているが、割付の都合上、また、調査員の観察ミスにより必ずしも隣接していない。また、遺物掲載順序は土器編年には対応していない場合もある。文章の記述は第68図～116図を使い凡そ時代順に進めていくので、図版を前後する記述が現れる。大変読みにくいと思われるがご容赦いただきたい。

1. 弥生土器・土師器（第68～100・104～111図）

弥生時代後期の容器は複合口縁を持つものを主体とし、口縁をなで調整で仕上げ、口縁内側に段を有しないものと、口縁の複合部を丁寧に作り四線文や擬四線文を施すものに分かれるようである。このような作り分けはV-1様式で既に認められる。口縁に施される擬四線文はV-2様式から施文後のナデにより一部消されてくる。壺は口縁複合部が内傾するものがV-2様式から見られる。複合口縁の形状は、時期が下るにつれ複合部が上方へ発達し、やがて、施文具の形状に併せて外反してくる。時期が下るにつれて口縁の施文が省略されていき、終末期に入りナデ調整が行なわれるようになると複合部はやがて外反しなくなる。口縁端部の調整は、丸く收めるもの、肥厚するもの、先細るもの、外側につまみ出したり折り曲げたりするもの。内側に面を持つもの。水平な面を持つもの。外側に面を持つものがある。複合部の陵は、下方に発達するもの、水平方向に発達するもの、意識せず自然にナデ調整を行なうものがある。胴内部のヘラケズリは頭部の際まで行なわれるようになる。ヘラケズリ調整のうち、壺蓋胴部内側で良く見られる断面形状が弧状を呈すものは、二枚貝を用いて調整を行なっている可能性がある。二枚貝を施文具として用いなくなる頃から、胴部内側のヘラケズリの断面形状が平坦なものが現れる。板状の工具を使用している可能性がある。胴部外面の調整は縱方向のハケメを基調とし、肩部調整にヨコハケメを用いるものも現れる。終末期頃には、クシ書き直線文の替わりにヨコハケメ調整を行なうものが現れる。胴部の施文はクシ状若しくは板状のT工具を用いた刺突文から押し引き波状文、波状文と変化していき、押し引き波状文もしくは波状文が退化してクシ書き直線文へと移行していくようだ。

壺は装飾性が高く342のように竹管文を施す器種が見られる。341は頭部に耳状の尖帯を貼り付けている。349は口縁の発達具合はV-3様式だが、口縁の施文を含め二枚貝の刺突を用いている。350は口縁端部を内側に折り返し、水平に広い面を持っている。おそらくセットとなる蓋をすり合

わせるための造りと思われる。368は頸部の概観から壺として掲載したが、頸部内面のヘラケズリを見ると、壺の可能性が考えられる。368を壺として扱うならば、高津遺跡で出土する口縁にナデ調整を施し口縁複合部内面に段を有しない容器の一群は、壺のみに現れる特徴と言うことになる。装飾壺372は頸部に蓋を紐で綴じ合わせるための穿孔を2個1組で1対持ち、施工後の胴部にも穿孔を行なっている。口縁にヘラミガキ調整を施す。857は容器の蓋である。注口付き壺385は注口を避けながら胴部施文が廻る。392は口縁複合部の竹管文が間隔を開けて全周しているのに対し、頸部の竹管文は三個一組で一箇所だけ施されている。特大の壺396は厚い器壁を持ち、頸部内面調整にハケメを用いる。口縁内側から頸部内側にかけて炭化物が付着している。639は696の底部と思われる。赤色の古備系装飾壺397にはスタンプ文が施されている。

長頸壺398～407は弥生時代後期から古墳時代前期頃のものと思われる。口縁が直行するもの、外傾するもの、外反するものに分かれ、口縁端部は丸く收めるもの、先細るもの、軽く内湾するもの、水平に面を持つものに分かれる。399は口縁中ほどまでハケメ調整が行なわれている。瓶形土器の可能性がある。400は肩部に波状文が3周廻る。404は胴部に焼成後の穿孔が認められる。

壺の肩部に施される施文はV－2様式の段階では板状もしくは棒状工具を用いた刺突文が主流を占める。工具が二枚貝に替わると、やがて押し引き波状文、波状文へと肩部施文が変化していき、クシ描き直線文へと移行するようだ。

壺452は胴部外側と頸部内側にヘラミガキを行なっている。壺の可能性を持つ。口縁部内側に明瞭な段を持たずに内湾させて收める壺472のタイプは、口縁をヨコナデ調整で仕上げる504なども存在している。壺478～503は口縁内側に段を持たず、口縁調整にヨコナデを用いている。肩部施文を省略するものが多いが、480のようにクシ描き列点文などを施すものが若干ある。壺508は若干装飾性が高く、肩部にヘラミガキを施し胴部に左領と右領の刺突文を施す。514～516・528・542・545は肩部若しくは胴部に刺突文をめぐらす。518・534・542・545・551などは胴部内側のヘラケズリがドッている。546の口縁端部調整はナデにより内側に面を持っている部分と先細る部分がある。547の肩部施文は、工具を器面から離さずにクシ描き直線文と波状文に描き分けられている。554の胴部は倒卵形を呈し、底部はしっかりとした平底を形成する。胴部下半には直火により煮炊きされたと思われるススが广泛無く付着しているが、底部周辺はススの付着しない部分が数箇所認められる。壺を火に掛ける際に何らかの支持具を使用した痕跡と思われる。古墳時代に入ても複合口縁壺は弥生時代から継続して使われているが、肥厚した口縁端部外側に面を持ち、複合部の棱は水平から上向きに変わって行き、やがて複合部が退化し、最終的には単純口縁壺に収束していく。退化時の口縁部調整には多くのバリエーションが生じるが、製作技術の伝達不足による制作方法の不統一の結果と思われる。この中には複合部の棱を円筒埴輪のタガと同様の作成方法で取り付ける資料も見られる。この、胴部に溝を作り粘土帯を埋め込む技法は、時期は違うが移動式壺の堀の取り付けにも使われている。壺も弥生時代の複合口縁を継続して採用しているが、壺同様口縁部が退化していく。須恵器が出現すると液体の貯蔵は須恵器主体に替わっていくようで、通常の大きさの壺は見られなくなり、単純口縁の小型壺として定着する。557～581は複合口縁が退化した壺若しくは壺で、中には単純口縁と呼べるようなものも含まれる。口縁複合部の表現方法は様々だが、大まかに、口縁端部に強いナデを施し複合部をへこませて表現するものと、口縁中ほどに強いナデを施し複合部を膨らませて表現するものに分かれる。そのほかに、571のように口縁に沈線文を施したり、572

のようにナデにより器壁にアクセントをつけたりして複合部を表現している。小型壺578は胴部内側に丁寧なヘラミガキを施し底部が残る。これらの壺はやがて598以降の単純口縁壺に収束されていくと思われる。

単純口縁壺は薄造りの布留系壺が現れ、端部つまみ出しの特徴を残しながら、器壁の厚いものや頸部屈曲の緩やかな物が現れる。やがて通常の単純口縁壺に収束していくと思われる。

胴内部調整のヘラ削りが頸部に達しない資料が有る。この内、胴部上半から頸部までを指するものと、ヘラミガキを施すもの、ナデしているものなどを見られる。

薄造りの単純口縁壺582～585・587～590は布留式系統の壺と思われる。やや内湾気味に外傾する口縁の端部は上方へ軽くつまみ出されるか、面を持っている。582は頸部内側のヘラケズリ位置が高く、頸部内側に鋭い稜を持つ。その他の壺は頸部内側のヘラケズリ位置が下っており、頸部内側の凌は鈍い。584は肩部にヘラ描き波状文が施されている。592は口縁端部が外側につまみ出されている。586・591・593～596はやや厚手に造られ、肩部内側に指頭圧痕が残る。593・595・596は、口縁端部が肥厚し、肩部に稜が残る。593はしっかりとした底部が残ることから、弥生土器と思われる。597は一条のヘラ描き沈線文が焼成前に施されている。古墳時代中期～後期の土師器容器の体部である。

単純口縁壺598～600は口縁端部を外側に強く折り返し複合口縁の名残を留めている。600の胴部は球状を呈し、底部内側に指頭圧痕を残す。容器の体部は古墳時代中期までに球化していると思われる。602は内外面共に最終調整にヘラミガキを用いている。603～606は口縁の発達が弱い。613は最大径が胴部下半に来ており、粗いハケメ調整を行なっている。

613～619は単純口縁の小型壺若しくは壺と思われる。614は口縁内側にハケメを施し端部は内側に折り返されている。614は長胴の胴部へ焼成後に穿孔している。615・616・619は内湾する口縁もしくは口縁端部を内側に折り返している。618は土器作成時の調整を省略して外側はヘラケズリ後ヘラミガキを行っている。内側は輪積み粘土の痕跡が消されずにそのまま残っている。620～625はミニチュア土器と思われる。大きさや調整方法は様々で、精緻なものから手捏ね品まで確認できる。625は口縁端部の一部を内側に折り曲げ注ぎ口を造っている。

626～628・630・631は壺の胴部である。631は胴部最大径部分に稜線が入る。629は縄文晩期の突帯文上器体部突帯と思われる。632・633・634～641は容器底部である。638は痕跡的な底部を持つが、ほぼ丸底化している。古墳時代初頭から前期の土器と思われる。639の内側はヘラケズリ後ハケメ調整が部分的に入る。640は底部に焼成前穿孔を行なっているが、内面に炭化物が付着している。おそらく煮炊きに使用したと思われるが、調理方法は不明である。641底部は尖底を呈す。

642～671は高杯である。高杯は、口径が小型化し、腰が深くなり、やがて杯部を底部と口縁部の別作りで成形するようになる。高杯の最終調整はヘラミガキが多用されている。弥生時代後期から古墳時代初頭の高杯は、複合口縁状の段を持つものから次第に段をもたず口縁端部が外反するものへと移行する。脚部は径が大きく頑丈な造りのものから器壁が薄く華奢なものへと移行する。これは杯部が重い物から軽い薄作りのものへ変化していくことと対応しながら生じる変化と考える。642は複合口縁状に作られた杯端部が短く上下に発達している。脚は柱状に作り、中の粘土をケズリ取って成形している。644は杯部に穿孔された高杯と思われる。645は杯部を複合口縁状に作り、上方に発達した杯外面にヘラによる範圍文風の暗文を施している。646は杯部の外反が強くなり、

浅く広い造りをしている。647の坏部は複合部が退化し、痕跡のナデによる段が残る。脚部652・653などの裾が開き、脚端部を外側に引き出す脚は646や647の脚になる可能性がある。高杯654は高津遺跡でまとまった量が確認できる。その特徴は精製された滑らかな胎土に砂粒を含み、色調は乳白色を呈す。真っ直ぐ筒状に伸びる脚中に竹管を用いて粘土を充填しており、そのせいかすべての製品が焼成不良をおこしている。粘土の充填量で今後時期的な細分が行なえる可能性が有る。上部構造は坏部を伴うか形態は不明である。645のような坏部を持つ可能性が有る。脚裾も接合できるものは無いが、同一個体と思われる資料が見られるので掲載している。脚裾に沈線が廻るものや、端部に面を持つものがある。消長は掴めていないが、27・53・88・89・202・272・274・273が住居跡から出土しており、主な使用時期はおそらくV-2～3様式を中心としている。この脚部は脚中に粘土が充填されており、胎土に特徴があるため、小片でも他の遺物と区別がつきやすい。

648は浅い坏部が内湾した後外反する。V-4様式で普通に見られるタイプで、663の様な脚部を持つ。649は坏若しくは高坏と思われる。深い坏の端部を折り返している。650は坏部中ほどに段を持つ。657は坏部を2回に分けて成形している。658の坏部は内面にハケメ状の工具で不定方向にナデられている。659は畿内系の高杯で、浅く小さな坏部と円錐状に広がる脚部を持つ。660～662は脚部に円形のスカシ孔が聞く。665～671は古墳時代後期の高杯と思われる。坏部は深く碗状を呈し、脚部は太く粘土を充填している物が多い。調整はヘラケズリ後ヘラミガキか、ヘラミガキの前にハケメを施すものがある。668は須恵器有蓋高杯の模倣品と思われる。674は弥生時代末期頃の低脚坏である。675～678は鼓形器台である。鼓形器台は筒部の長いものから次第に宿約し、施文された受け部脚部共に上下に発達するが、やがてナデ消され、縮小しながら無文化する。羽状文を施文する677・865は筒部の縮約が始まった頃のものでV-3様式と思われる。680は畿内系の器台で、脚内面にハケメを施している。679は680に伴う鉢と思われる。

681は大型の甑形土器の上部把手である。甑形土器682は筒状の粘土板を4段程度積み上げて成形しており、土器成形時の指頭圧痕が残る。上下の口縁端部に面を持ち下部口縁は広くヨコナデを行っている。その為外面のハケメは上下口縁の端部までは達していない。内面調整はヘラケズリ後部分的にナデている。上端内面は器高8cmから40cmあたりまでが被熱酸化により赤変している。また、器高20～30cmほどから下方へ向かって炭化した煮沸物が飛び散って流れ落ちている。下部口縁まで流れ落ちた煮沸物の筋は、口縁端部に接する何かを伝って口縁端部に拠散し、面的に付着している。このことから、煮沸物がこぼれた際に682は地面に接地していたと考える。よって、甑形土器を使用する際に紐などを使って甑形土器を空中に吊るすることは考え難く、第26図セットAの検出状況を踏まえ、甑形土器は地面に接地して使用していたと考える。

683はやや扁平の筒部両端に不明品が付くようである。体部の調整はハケメを用いる。

684は平底の容器で内面に赤色顔料が付着している。685は内湾する大型の鉢で、内面にススが付着している。坏686～707の調整は主に手持ちヘラケズリ後ヘラミガキを行ない、ヘラミガキ前にハケメ調整を施すものや、ヘラケズリ後ハケメを施し、ヘラミガキを省略するものもある。形状は686のような碗状を呈すものと、639のように口縁付近に腰を持つもの、696のように須恵器坏を模倣するもの、706のように浅く薄造りのものに分かれ、赤彩されるものとされないものに分かれる。704は高杯の坏部の可能性を持つ。

黒色磨研土器708～752は須恵器の模倣品と思われ、器面に煤を吸着し、ヘラミガキ調整で煤を定

着させている。器種は環が多く、高杯や甌などが若干混じる。环は、708や729のように須恵器蓋环の环受け部を表現するもの（环Aと呼ぶ）と、737のように蓋を表現するもの（环Bと呼ぶ）に分かれる。环Aの口縁は720のように直立するもの、708のように内湾するもの、740のように外反するものに分かれ、体部の深いものと浅いものに分かれる。浅いものには外反する口縁が付く。また、体部の浅いものは744のように口縁と体部を強いヨコナデで区画するものも見られる。环Bの口縁は内湾するものが多く、体部は深い。

高环749～752は、749のような体部に段の痕跡を持つ小型の环を伴い、脚部は低くススが剥落しないように裏側も丁寧に調整を施している。これらの須恵器模倣土師器は、今回高湿度の調査でススを吸着した良好な資料を得られたが、他の調査区ではススが剥落し、暗灰色の土師器环として出土している。

753～755は移動式甌である。確認できた移動式甌の口縁はすべて如意形を呈す。今回の調査では焚き口に風防の付く物は見られなかった。755は背面に方形の窓を有す。856・867は注口土器の注口部である。877は肩部に深い竹管文を施す。872は口縁外面に面を持つ。875は複合部陵が丸みを帯びている。古墳時代に入ってしばらくすると、口縁の複合部に対する土器作成の決まり事が曖昧になるよう、複合部の退化が始まる。873は口縁複合部の退化が始まった頃の遺物で、複合部が不明瞭になっている。881は緩やかに外反する単純口縁を呈し、肩部が張る。頭部内部は左方向のヘラケズリの位置が下がり、指頭圧痕が残る。外側の調整は、口縁まで細かいタテハケメが施されている。肩部外面にヘラ状工具を用いた絵画若しくは記号が描かれている。描画順序は、まず始めに描画予定箇所のハケメをナデ消し、上下2条の並行する直線を横方向に書き、その並行線を区画するように縦方向に並行する直線を短く刻んでいく。次に横に引いた2条の並行線を区切るように中央にもう一条の直線を横方向に引くが、中央の線は一周しているにも係らず、途中で部分的にナデ消され、何處か線が修正されている。また、縦線の一部もこの時に描き直されている。この区画された格子状の線の上に3本の縦線と1本の横方向の斜線を組み合わせて何かを表す記号を描き込んでいる。記号の描画順は横線、縦線である。この記号の解釈については、春成氏の研究によると、和爾・森本例を示し、建物の記号化されたものと解釈している（「絵画から記号へ・春成秀爾」国立歴史民俗博物館研究報告 第35集）。仮にこの3本の縦線と1本の横線で表される記号を建物とすると、櫛の中に1棟の建物が建っているように見える。水場の祭祀に用いられている為、水と稻にまつわる作品かもしれない。描き終った絵画は上からナデられて、作品の一部は焼成前に消えかかっている。短径甌896・897は短く直立した口縁を持つ。899は小さな环部若しくは脚部であるが器種は不明である。905は浅い环部、若しくは脚部で、端部に面を持つ。908は小型の环で、底部に突起のようなものが付く。調整は内外面共にヘラケズリが行なわれている。小型の高杯909は古墳時代後期の高杯のミニチュアのようで、太い脚部には粘土が充填されている。高杯916は脚部に円形スカシが入る。高杯917は大型の环部と小型の脚部を持つ。鼓形器台918は筒部の縮約が始まっており、やや低めの器高を持つ。鉢924は内外面共にヘラケズリが施されており、口縁は不整形でゆがんでいる。环936は内面にヘラ状工具で線が引かれている。短径甌935は見込みにヘラ書きの×印が3条の直線で施されている。

上製支脚は941のような1方向突起（単頭式）、937・938・939・940・943のような2方向突起、756・942のような3方向突起のものが確認された。954は背面に円形の削離痕跡（スクリーンマーク）

ン部分）を持つ。944・945・948は瓶である。瓶は1対の把手を持ち単孔式の底部蒸気孔が開き、底部に横木渡し用小円孔を持つものが確認された。把手は950のような小型のものがある。同一団体と考えられる946・947は、瓶形土器若しくは瓶と思われる。956の口縁は厚く作られ、内側のヘラケズリは大雜把に施されている。947は外反する口縁と中膨らみする胴部を持つ。把手装着痕跡が45°の角度で確認出来る為、把手が4方向に取り付くと思われる。口縁内側の調整はヘラケズリが胴部中ほどまで施され、横方向のハケメが施されている。

954～957は移動式甌である。体部は粘土の輪積みにより成形されているが、背面がタテに接合されている956が確認出来た。951は円形に加工した土器体部である。952は手捏ねの端部で、土馬の脚部、若しくは土器の底部と思われる。953は不明土器である、縄文上器のような浮文を施している。

2. 古墳時代以降須恵器（第101～103・112～114図）

出土した須恵器はTK47並行の蓋坏を上限として、TK217並行まで大量に出土し、ほぼ連続して形式を追える。しかし、飛鳥II式の蓋坏は確認できず、続く奈良時代～平安時代にかけての須恵器は極少量の出土となる。

757～797は蓋坏である。TK47並行のものが確認できる最古の資料である。時期は、6世紀初頭頃と思われる。蓋の肩部に沈線などの特徴を有するものがある。758～762は口縁端部に強いナデによる沈線を施す。小型の坏772は口唇部に強いナデによる沈線を施す。782や796のように大型の坏底部に面を持つものが見られる。

798～827は高杯と思われる。高杯には有蓋と無蓋の2者が確認できる。また、802・806のように脚部に透かしを施すものなど確認できる。803は脚上に大型の碗のような器種がつく。胴部調整はカキメを施している。808は重ね焼きを行なった際の溶着資料である。

829～834は壺である。壺は828のように長い口縁に装飾を施すものと832～834のように無文で短い口縁を持つものに分かれる。835は大型の器種体部に大きな剥離痕跡が残る。

838・840・841は提瓶である。題II縁842は口縁端部に面を持ち、外面に波状文が密に廻る。短径壺847～850は口縁が発達するものと短く上方へつまみあげるものに分かれる。胴部調整にカキメを施すもの、沈線を肩部に施すもの、ヘラケズリのみ行なうものなどある。器種不明須恵器851は扁平な体部に突帯をめぐらせる。内側に模様のような調整が施されている。852は壺と思われる。沈線文に区画された列点文が廻る。

985～983は坏蓋である。958は体部に明瞭な陵を持つ。蓋口縁962・966は口縁端部内面に強いナデによる沈線が廻る。981～983はつまみの付く奈良時代の蓋である。口縁端部は下方へ発達し外面に面を持つ。984～1003は坏身である。984の口唇部は発達し、端部内面に沈線が廻る。995は底部を平坦に作る。1004～1021は高杯である。有蓋高杯1004は脚部にカキメを施し三角形スカシが4方向に入る。坏部1005は体部に明瞭な陵を持つ。1008は小型の高杯である。1012は坏部見込みにヘラ記号が記される。脚部は端部にアクセントを付け、端部に面を持つものと裾が広がり端部を丸く取めるものがある。1022は長脚高杯でスカシが入る。坏1023は焼成前の見込みに「郡」字がヘラ書きにより描き込まれている。底部調整は静止糸切り後、底部外周に回転ヘラケズリを施す。1028～

1030は高台が付く杯で、高台内側に面を持つものや、外側に面を持つものが見られる。長頸壺口縁1033は口縁部に5条の沈線が廻る。短径壺1034は胴部腹上に沈線文を施す。1040～1042は壺である。1044～1048は提瓶である。1049は須恵器製紡錘車で、全面にヘラミガキが施されている。

3. 粘土採取場遺物（第115～116図）

粘土採取場出土遺物は摩滅している細片が多く、土器、土師器はほぼ非掲載としたが、組成は他の大型遺構とあまり変化は無い、しかし、赤彩土器を使用した祭祀は行なわれていなかったようだ。以下、粘土採取場出土遺物を説明する。瓶1056は把手の位置が左右非対称に取り付けられている。焼成不良の須恵器壺1061は体部内外面に円形の錫び痕のようなものが認められる。大型の壺口縁1087は3条の沈線に区画されており、上段に波状文、中段下段に斜行する刺突文を施している。横瓶1086は外面に並行タタキを行っている。須恵器把手1092は丁寧に面取りされている。

第3節 その他の遺物

1. 中世遺物（第117図）

中世の遺物については主に写真と表を用いて報告し、重要な遺物のみ図面を掲載した。

遺跡全域から杯類が多数出土している。水簾されたと思われる滑らかな胎土は、白色、淡黄色若しくは茶色、橙色の三種類に分かれ、器種は大まかに大小の杯に分かれ。江津では中世土師器の編年が確立されていないが、胎土の色調から凡そ中世初頭は白色、中世前期は淡黄色若しくは茶色、中世後期は橙色と大雑把な傾向が認められる。

1) 陶磁器（表86・グラフ1・4）

貿易陶磁器は龍泉窯系青磁碗I・II・III・IV類・皿I類・坏皿類が認められる。同安窯系青磁は碗I類・皿III類が認められる。青磁碗114は見込み中央に花文様の施文が施されている。白磁碗はII・IV・V・IX・XI類が出土している。そのほか黄釉褐彩盤などが出土している。

天目茶碗と思われる黒褐色釉陶磁器が出土している。

須恵器は備前須恵器貯蔵具及び鉢、亀山系貯蔵具、東播系鉢、産地不明の須恵器が確認できた。陶器は常滑と思われる瓷器系陶器、備前貯蔵具及び擂鉢が確認できた。その他産地不明陶器が若干含まれる。

近世陶磁器は肥前系染付け、三島手象嵌磁器、萩系、陶胎染付け、唐津焼の貯蔵具や擂鉢、石見焼が確認できた。

2) その他

滑石製石鍋が2点確認された。119は穿孔を施し温石に転用されている。

軟質の甕1125・1126は平底の底部を呈し、体部外面に並行タタキ、内面をナデ調整で仕上げている。

2. 木製品（第118～124図）

木製品は出土地区ごとに一括して報告する。

大溝及び水堀から大量の木製品が出土した。主な構成は建築部材が占めており、若干の生活用具

や農工具が確認された。しかし、大半の遺物は用途不明である。W4は曲柄平鋸である。W7は栓と思われる。下駄W10・W11は古墳時代後期と思われる。不明遺物W45は廃棄時には連結していたようだが、検出時には腐食の為3分割されていた。農工具の未製品と思われるが、不明である。槽W47は両側面が欠損している。W48は桶である。W64は中世掘立柱建物の柱痕である。外皮がついたままの丸太を柱として使用している。W65は粘土採取場中から水平の状態で出土した。粘土採取作業に伴う目的で設置された可能性を持つ。W66は黒色の漆器碗で、見込みに赤い花印が入る。中世のものと思われる。

3. 石器（第125～129図）

S1は小型の石鎌である。作業台は大型のものが多く、大溝から大量に出土している。表面が滑らかなものは砥石として使用されていたようだ。S13は部分的に被熱している（スクリーントーン部分）。S17は大型の鉄器の調整に使用されている。砥石は小型のものも出土している。擦痕が細く鋭いものは鉄器の調整に用いたと考えられる。石斧は打製石斧S32が1点確認できたが、S28～31など磨製石斧が多く出土した。軽石S35は磨減して扁平になっている。石杵S54はやや扁平だが丁寧に作られている。S59は両端部にクビレを持つ。

第6章 総括

第1節 遺跡の変遷（表86・グラフ1～5）

1. 埋築遺跡との関係

平成12年度に調査された埋築遺跡は本遺跡の下流500mに位置する弥生時代と中世の複合遺跡であるが、そのうち、弥生時代の遺跡は前期の溝以外は遺物包含層であった。

包含層出土遺物から、埋築遺跡は弥生時代前期～末期にかけて存続し、そのピークをIV様式に求めることが出来た。しかしIV様式の遺物は確認出来ず、集落は占八幡付近遺跡のようにおそらく丘陵上に移動したのではないかと仮定した。その後V-1～4様式までの遺物が確認できているが数量は減少し、古墳時代に入る前に集落は消滅している。高津遺跡では、弥生時代後期に集落の活動が始まりV-3～4様式にかけて最初のピークを迎えている。

このことから、埋築遺跡で弥生時代前期に低地に出現した集落は弥生時代中期に繁栄し、IV様式に入ると何らかの理由により一度この地を離れ、V様式に再び出現した集落は規模を縮小し、埋築遺跡と高津遺跡などに分散したと思われる。

以降、埋築遺跡では集落は衰退廃絶し、高津遺跡では集落の規模が拡大していったと思われる。

なお、高津遺跡では古墳時代後期まで集落が存続した後に、飛鳥時代を迎えず廃絶している。次にこの地に活動の痕跡が現れるのは中世に入ることとなる。中世に入ると高津遺跡では無数の掘立柱建物が出現し、埋築遺跡では屢敷が構えられるようになる。

2. 弥生時代

今回調査された住居は概ね調査区Aの丘陵裾部を中心に展開しており、V-1～4様式までの遺物が確認できたが、V-1様式の住居は確認出来なかった。V-1様式では調査区外の丘陵上部に

居住地が有ると思われる。V-2様式の住居は堅穴住居05・12で、丘陵裾から平坦面にかけてまばらに展開している。建替えの跡は認められない。V-3様式の住居は堅穴住居03・14・08・09・で、堅穴住居12の下方に確認され、拡張を含めた建替えを数度行なっている。調査区CでV-3様式の土器漁り5が確認されており、集落は調査区Cの辺りまで拡散していると思われる。V-4様式の住居は堅穴住居10・01・04・07・11で、丘陵裾から平坦地へ続く変換点より下方で確認された。

V-4様式の住居04・07は同じ場所で縮小傾向の建替えなどを行なっているが、甑形土器が出土した堅穴住居10・11は大型化している。この時期には集落内に土器棺墓を作っている。

これらの状況を見ると、弥生時代後期の集落は徐々に平坦地へ下っていく状況が見受けられる。

また、弥生時代末には水場と大溝で同時に祭祀を行なっていることが³⁷²や⁸⁸¹の接合関係により明らかとなった。

3. 古墳時代

古墳時代の住居は初頭から前期のものは認められず中期から後期にかけてのものが丘陵裾部を中心で確認出来た。また、住居は調査区Cでも確認されており、集落の拡散が認められる。中期から後期にかけての住居は堅穴住居02・13・段状遺構02である。古墳時代の建物は建替えが確認できるものはすべて等高線に沿って並行に建替えを行っている。

前期と後期の住居は確認出来なかつたが、包含層から大量の遺物が認められたため、調査区外の丘陵に集落が存在していると思われる。

古墳時代後期の赤彩土器の出土状況に注目すると、水場及び大溝でまとまった量が確認できるのに対し、粘土採取場からは1点の出土も無かった。おそらく赤彩土器は祭祀行為に結びつく遺物で、水場と大溝では祭祀を行ない。粘土採取場では赤彩土器を使用する祭祀は行なわれなかつたと考えられる。水場と大溝を祭祀の対象とする思想は、弥生時代から続いていると思われる。

4. 飛鳥・奈良・平安時代

明確な遺構は確認されておらず、少量の遺物が認められるのみであるが、中には「郡」ヘラ描き土器1023のように官衙関連と思われる遺物もみられる。周辺には波米浜遺跡があり、今後の調査により両遺跡間の関係を明らかにすることが出来るかもしれない。

5. 中世

中世にはA I 区に無数の中穴が確認でき、集落が中世を通して占地していた様子が窺える。

第2節 山陰系甑形土器の使用について

今回の調査で山陰系甑形土器（以下甑形土器と呼ぶ）の使用状況を復元できた。甑形土器は建物中央に設けられた灰の充填された浅い土坑上で広い口縁を下にして接地した状態で使用されており、使用に際しては有機物水溶液を満たした高环の杯部とそれを受ける甕、又は壺を伴っていた。また、使用の際には甑形土器内で甕や壺などを用いて高环を一定の高さに固定し、高环内の水溶液に加熱を行なうことが確認された。石見部の遺跡では、沖斗遺跡（2001）のS I 04出土高环10が内容物の加熱による炭化物のリング状痕跡を持つ。セットBの甕は底部を打ち欠き臺座のような使わ

れ方をしており、伏せた状態で被熱している。水場や大溝で出土した壺や甕の中にも520のように口縁付近のみに内外ともススが付着し、伏せた状態で有機物溶液の沸騰物が炭化して流れ落ちている様子が確認できるので、当遺跡での通常の使われ方であったと認識する。瓶形土器は常時使用される上器ではなく、使用されない時は住居の隅に安置されている（竹ヶ崎遺跡S109・塩津丘陵遺跡群1998）。V-3様式まで211のように小型だった瓶形土器はV-4様式で108のように大型化し、やがて682のように再度小型化すると思われる。おそらく小型化した後に、頸部に突帯を廻らせて上下に組んで使用されていくようになると思われる（竹ヶ崎遺跡S106・塩津丘陵遺跡群1998、笠見第3遺跡現地説明会展示2002より）。小型の瓶形土器を上下に組む時、瓶形土器内部で有機物溶液がどのように加熱されるのかは不明である。把手の用途は、瓶形土器を持ち運ぶ為の物と思われるが、重要なのは内部で加熱されたものを取り出す際に、一緒に熱せられた熱い瓶形土器をどける時の火傷を避ける為に把手が必要とされていたためと考える。把手が必要無いくらい小型化した瓶形土器の上方に把手が残っているのも、火傷を避けるために必要であったからではないかと考える。

今後の課題として、まず一点目は、瓶形土器の中で何が熱せられていたのか。2点目は、なぜ、高杯内部の溶液を加熱する際に瓶形土器で覆う必要があったのか。この2点については高杯内部の内容物の科学分析を交え今後の研究課題としたい。その他気になる点として、瓶形土器の口縁が内傾していることと頸部に見られる段の用途が上げられる。今回の調査では瓶形土器の口縁や頸部に何かが取り付く様子は認められなかった。しかし、V-4様式に入ると大型の瓶形土器は全てと言って良いほど口縁を内傾させて頸部に段を有している。頸部の段はやがて突帯へと変化してゆくようである。なお、高沖遺跡では頸部に突帯を廻らせる瓶形土器は1点も出土しなかった。

第3節 遺構の時期決定について

遺構の時期決定には、床面及び壁帶溝、柱穴資料を用い覆土出土資料を補助的に援用した。今回の報告では、明らかに時期の下る遺物（例えば、弥生住居床面の石見焼など）は床面資料であっても攪乱遺物として扱い図面を掲載していない。

良好な床面資料の無い遺構については、覆土出土資料のうち、最新のものを含む量的に多い遺物の時期を充てた。

土師器については『西川津遺跡VII』編年（岩橋2001）を主に用い、須恵器に関しては陶邑編年を用いた。

弥生時代に関しては『弥生土器の様式と編年 山陰・山陽編（石見）』（松本1992）を用い形式上の時期決定を行なった。弥生時代の終末はV-4様式とする。土器棺幕01のセットは、V-4様式においてその代表とされる、ヨコナデにより緩やかに外反する口縁が発達する94と、口縁端部が肥厚し、内面に片刃状の面を設ける甕93が併存するため、甕93はV-4様式の範疇にあると考える。

ただし、形式的には甕94が甕93に先行すると考える。

よって建物11の瓶形土器セットB・B'び、炭化物層中遺物である竪穴住居04の甕64-70及び中央土坑の甕63、竪穴住居07の炭化物面中遺物甕74・75は並行関係にあると認識する。また、竪穴住居10で検出された甕109の口縁端部は水平に面を持ち、水平に発達した複合部の稜と、平底の底部を持つことから、V-4の範囲に含む。従って、高沖遺跡では古墳時代初頭の住居は検出されていないと結論する。なお、今後の研究により甕94が古墳時代の遺物と確定された場合は上記結論を修

正する。なお、口縁端部内側に面を持つ甕は、546のように同一個体において端部調査が違うものがあるため、取り扱いには注意を要する。また、その他の遺構や堅穴住居07復土中の87など古墳時代初頭の遺物が見られるため、調査区外に遺構が存在すると考える。

第4節 弥生時代後期～古墳時代初頭にかけての壺・甕について(表87・グラフ6・7)

水場から出土した弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての壺と甕1095点を分類カウントし、時期ごとの出土量と出土割合をグラフで表した。

時期ごとの上器出土総数はV-1から4様式にかけて増加を続け、古墳時代初頭には不自然に出上量が減少する。これは集落規模が拡大した後で、一気に縮小したか、若しくは集落の移動が有ったことを表している。

器種ごとの出土割合を見ると、V-2様式では壺と甕の出土割合は壺：甕・3：7程度だが、V-3様式から古墳時代初頭にかけては壺：甕・1：9と、壺の出土割合がぐんと下っている。これは、甕の需要が減ったことを表しており、原因としては、貯蔵すべきものの量が減少したか、今まで貯蔵していたものを貯蔵する必要があまり無くなったことが考えられる。

次に容量ごとの変化を見ていく。各時期を見ると一般的な調理に使用されると思われる中型の甕が良く消費されており、中でも中型の無段甕の消費が注目される。しかし、V-4様式を見ると、無段甕の消費と入れ替わるようにして大型の甕が消費されている。

一度に大量の煮炊きを行なう大型の甕の消費量はV-2から4様式にかけて加速度的に増加する。大型の甕は単なる1住居の調理具をこえて、ある程度の大人数がまとまって共食するための煮炊き具であったと考える。V-4様式に大型甕が増加する理由として、大型甕で調理できるほどの食材の供給が有った事と、集落の構造に何らかの変化が（例えば集団作業に伴う共食など）生じたことが考えられる。しかし、古墳時代初頭になると大型の甕の消費割合は減少している。

口縁をヨコナデ調整で仕上げる口縁内側に段を持たない甕478～503などを仮に「無段甕」と呼び、通常の壺、甕と分けて見ると、V-3様式においてかなりの需要を得ている。無段甕は調整が簡易な為、土器の製作時間が短縮できる。V-3様式において中型の甕の需要に追いつく為に簡易な「無段甕」を供給しているように考えられる。

参考文献

調査及び報告書作成について以下の文献資料を参考とした

総合

2000年3月	神主城跡・東崎商店裏遺跡 古八幡付近遺跡・横路古墳	建設省浜田工事事務所・鳥取県教育委員会
斐伊川放水路建設予定地内植生文化財発掘調査報告書	三田	建設省中国地方建設局・鳥取県教育委員会
2000年3月	谷工清跡Vol.1-3	
1996年11月	日本考古学協会 1996年度三重大会 シンポジウム1 水辺の祭祀	日本考古学会三重県実行委員会
2001年2月	ものづくりの考古学－源流・古代の人々の知恵と工夫－	太田区立郷土博物館
1984年	「木器集成図録・近畿古代篇」奈良国立文化財研究所史料 第27号	奈良国立文化財研究所
	「木器集成図録・近畿原始篇」奈良国立文化財研究所史料 第39冊	奈良国立文化財研究所
1993年		
1986年2月	岩波講座日本古生物学・集落と祭祀	佐藤真・小林達雄・甲元廣之・町田翠・宮本長次郎・柴田昌志・金関誠・上原真人
2001年3月	西津川遺跡	鳥取県立木都河川課・鳥取県教育委員会
昭和57年6月	江津市誌 上巻 下巻 別巻	江津市
1992年3月	石見宍粟建設予定地内遺跡・埋蔵文化財発掘調査報告書	鳥取県教育委員会
	国営赤城開拓事業関係施設文化財発掘調査報告書	本片子農園・木原
1992年3月	古墳	益田市教育委員会
昭和48年3月	波来浜遺跡発掘調査報告書－第1・2次緊急開発概報－	鳥取県江洲市
昭和55年3月	中国經貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	鳥取県教育委員会

2002年3月	塙篠遺跡・都部地区真島市埋蔵整備事業に伴う免震調査報告書1 一般国道43号道路改良工事予定地内 県藏文化財免震調査報	鳥根県浜田市振興センター 江津市教育委員会
2001年3月	告垂山・前田遺跡(第Ⅱ区段)	鳥根県八鹿郡教育委員会
弥生時代		
1992年5月	弥生土器の様式と編年 山陰・山陽編 松江市文化財調査報告書第75集 本庄地区真島市埋蔵整備事業に伴う松江市東部遺跡免震調査報告書	正岡 錦夫・松木 岩雄 松江市教育委員会 財団法人松江市教育文化振興事業団
1999年3月	佐伎川・北東部遺跡免震調査報告書	鉄器文化研究会 鳥取県教育委員会
2001年11月	日韓合戦銃器文化シンポジウム 日本海(東洋)がつなぐ鉄の文化	金閣 朝一・佐原 真 金閣 朝一・佐原 真 金閣 朝一・佐原 真
1986年7月	弥生文化の研究 第3巻 弥生土器I	皇學館大学法政考古学研究室
1987年11月	弥生文化の研究 第4巻 弥生土器II	
1988年6月	弥生文化の研究 第7巻 弥生土器落葉	
1992年9月	山陰地方における弥生土器の研究 塙塚山遺跡群の研究	建設省松江国工事事務所 鳥取県教育委員会
1998年3月	塙塚山丘陵遺跡群(塙塚山遺跡・竹ヶ崎遺跡・柳遺跡・附・隼ノ尾古墳)	田崎 博之
2000年3月	遺跡出土の焼成粘土塊、焼成制縛土塊からみた弥生土器の生産・供給と貿易	中川 実
1996年3月	「山陰の後原弥生土器における編年と地域関係」鳥根考古学年会誌 第13集	鰐谷鳥取県教育文化財団 國土交通省 鳥取工事事務所
2000年3月	青谷上寺地遺跡1・2・3・4	建設省松江国工事事務所 鳥取県教育委員会
2001年3月	一般国道9号松江道路建設予定地内 県藏文化財免震調査報告書文書(大字道賀遺跡)	大山イスメイ・増田義文・鳥取県教育委員会
1992年3月	妻木遺跡免震調査報告書第1号 - II・III・IV 大山スイス村リリー 『古代新事紀』に伴う免震調査報告書	馬場信次郎・増田義文・鳥取県大山町教育委員会
2000年3月	主要地図川本波多統跡改良工事に伴う埋蔵文化財免震調査報告書 稻葉重吉・沙丈謙	馬場信次郎・川本波多建築事務所 鳥取県邑阳町教育委員会
2001年3月	第10回鳥根考古学研修会(弥生後期兔毫)	石見考古学研修会
2003年7月12日	中国國立歴史公園広島市福山城縄錆予定地内 県藏文化財免震調査報告書	鳥根県教育委員会
1992年3月	『船形山からみへ―弥生時代における農耕禮札の発表―』医歴 平成3年11月 歴史民俗博物館研究報告 第36集(創設10周年記念論文集)	春成 英男
1997年	第31回山陰考古学研究集会 山陰の墓葬遺跡-弥生時代後期から古墳時代の集録	山陰考古学研究集会 於 鳥取県西伯郡西伯町
2003年8月	『農耕・スタンブ土器からみた弥生時代後期の出雲地域』 岩橋 孝典	
弥生・古墳時代		
1996年3月	『門生熊谷I遺跡・門生惠谷II遺跡・門生惠谷II遺跡』一般図 9号(安来道路)建設予定地内埋蔵文化財免震調査報告書14 『氣の、雨の、土器』山陰東部における弥生時代中後期後業 -古墳時代初頭の非在地土器の動態-』『古代と儀』第19集	島根県教育委員会
1997年	第31回山陰考古学研究集会 山陰の墓葬遺跡-弥生時代後期から古墳時代の集録	松井潔
2003年8月	『古墳時代の集録像-』	山陰考古学研究集会 於 鳥取県西伯郡西伯町
平成14年9月	笠置山第3遺跡-規則地形説明会資料-	財団法人 鳥取県教育文化財団 中部埋蔵文化財東伯調査事務所
1992年3月	講武郡真宮原町埋蔵文化財調査報告書5 新撰武田道遺跡	鳥根県真宮原町教育委員会
2002年12月	考古学資料大観 第2巻 弥生・古墳時代 土器Ⅱ	赤塚 次郎
2003年3月	宍粟伊丹塙跡建設予定地内埋蔵文化財免震調査報告書V 「古志本遺跡VI-V区の調査-」	島根県教育委員会
古墳時代		
1999年5月	日本考古学 第7号 「古墳時代中・後期における食器・調理法の変遷-一律条件の食器様式の確立過程-」	宇野 雅夫
1992年	月刊 考古学ジャーナル 1月号 魁高士式土器の種問題	ニューサイエンス社
1991年5月	吉備津河原の研究 第2巻 土師器と須恵器	石野 邦代・岩崎 車也・河上 彰彦・白石 太一郎
1994年3月	鳥根県古学芸会 出雲地域の須恵器の継承と地域色 第11集	大谷 晃二
昭和55年7月	須恵器大成	辻田 明一
1985年3月	日曜講座 日置阪田町予定地内免震調査報告書	島根県教育委員会
2002年3月	神原佐賀古墳	加茂町教育委員会
1980年9月	松江古第3号 「出雲地方における歴史時代須恵器の継承試験-鶴浦一編後-」	松江考古学講話会
1997年3月	波山遺跡、瀬ノ前遺跡(一般国道9号安来道路建設予定地内埋蔵文化財免震調査報告書-西地区付)	島根県教育委員会
古墳～奈良時代		
1995年3月	埋蔵文化財免震調査報告書1(徳佐山・平田浜西・二宮古遺跡 ・久居廻窯跡)	建設省美田工事事務所 鳥取県教育委員会
2003年3月	「山陰地域の古墳時代後期～奈良時代の炊飯具について」古代 文化研究 2003 Mar. No.11	岩橋 孝典
2004年3月	「山陰地域の古墳時代後期～奈良時代の炊飯具について」(2) 古 代文化研究 2004 Mar. No.12	岩橋 孝典
古代		
2003年10月	古代土器研究の現状と課題～平城京出土土器を研究する側から	独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所 平城京免震調査部考古第二調査室 金田明大
2003年3月	鳥根県古代文化センター調査研究報告書第14 山陰古代出土文 字資料集成(1) (著者: 見石・脇咲味)	島根県古代文化センター
2004年3月	古代の官街遺跡Ⅱ遺物・遺跡編	独立行政法人 文化財研究所 奈良文化財研究所
1980年9月	松江考古 第3号 出雲地方における歴史時代須恵器の継承試 験	穆浦 俊一
中世		
1996年1月	考古学による日本歴史 15 家族と住まい	大塚初重・白石本一郎・西谷正・町田章
1995年6月	大府市面鏡研究会 -森田 勉氏追憶集-	森田勉氏追憶集・追憶集刊行会
平成12年3月	大府市の文化財 第49集 大府市考古訪問X-四脚獣分類編- 第3集 山陰地区土器考古学研究会 資料集 中世須恵器の生産と流 通(「山陰地方を中心」)	大府市教育委員会
2003年10月		山陰中世土器検討会

第7章 科学分析

第1節 高津遺跡発掘調査に係る自然科学分析

渡辺 正巳（文化財調査コンサルタント株）

はじめに

本報告は、文化財調査コンサルタント株式会社が江津市教育委員会の委託を受けて実施・報告した調査報告書の概報である。

高津遺跡は島根県西部、江津市都治町地内に位置し、遺跡周辺の植生変遷、堆積環境変遷などの古環境変遷や「地山」の堆積年代を推定するために、発掘調査に伴って露出した各地点より採取した試料を対象として花粉分析、珪藻分析を行った。

分析試料について

各分析試料は江津市教育委員会と協議の上、文化財調査コンサルタント株式会社が採取した。図1に示す3地点で試料を採取した。各ダイアグラムに、各地点の柱状図および分析結果を総合したものを見ます。柱状図右側には採取層準に試料番号を、左側には出土遺物から推定されている堆積年代を示している。

分析方法

花粉分析処理は渡辺（1995a）、珪藻分析処理は渡辺（1995b）に従った。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡により通常400倍で、必要に応じ600倍あるいは1000倍を用いて行った。また花粉粒の同定にあたり、中村（1974）に従い、イネ科をイネを含む可能性の高いイネ科（40ミクロン以上）と、イネを含む可能性の低いイネ科（40ミクロン未満）に細分している。花粉分析では原則的に木本花粉総数が200個体以上になるまで観察・同定を行い（同時に検出される草本・胞子化石の同定も行った）、珪藻分析では同定総数が200個体以上になるまで観察・同定を行った。しかし、一部試料では、各化石の含有量が少なかったために、木本花粉化石総数あるいは珪藻化石総数で200を越えることができなかつた。

分析結果

花粉分析結果を図2～4の花粉ダイアグラムに示す。花粉ダイアグラムでは、同定した木本花粉総数を基準にした百分率を各々の木本花粉、草本花粉について算出し、スペクトルで表した。また検出数の少ない試料では、出現した種類を「*」で示した。さらに花粉ダイアグラム右側に、「針葉樹花粉」、「広葉樹花粉」、「草本花粉」に「胞子」を加えた総合ダイアグラムを示している。総合ダイアグラムでは、計数値の合計を基準にそれぞれの百分率を算出し、累積百分率で示してある。

珪藻分析結果を図5～10の珪藻ダイアグラム、珪藻総合ダイアグラムに示す。珪藻ダイアグラムでは検出総数を基準として各分類群毎に百分率を算出し、白抜きスペクトルで示している。検出量の少ない試料については出現した種類を「*」で示している。また珪藻総合ダイアグラムで表した5つのグラフの内、左端の「生息域別グラフ」では同定した全ての種類を対象にそれぞれの要因（生息域）毎に百分率を表した。そのほかの4つのグラフでは、淡水種についてそれぞれの要因毎

に百分率を算出し、累積百分率で示してある。

また、各観察用プレパラートを用いてそのほかの化石他について概観した結果を、表1に微化石概査結果として示す。

花粉分帶

花粉組成の特徴から、以下のように地域花粉帯を設定した。ただしNo.3地点は、分析した1試料の花粉検出量が少なかったことから、地域花粉帯の設定対象から除いた。以下に各花粉帯の特徴を示す。また、本文中では花粉組成の変遷を明らかにするために、下位から上位に向けて記載し、試料No.も下位から上位に向かって記した。

- (1) V帯：No.1 地点試料No.10、No.2 地点試料No.10

スギ属が卓越するほか特に高率を示す種類はない。

- (2) IV帯：No.1 地点試料No.9～7、No.2 地点試料No.9～7

マツ属（複維管束属）、スギ属が卓越傾向にある。またNo.2地点ではトチノキ属がマツ属（複維管束属）、スギ属に迫る高率を示す。

- (3) III帯：No.2 地点試料No.6～4

花粉化石の含有量が少ないものの、3試料共にマツ属（複維管束属）が卓越し、スギ属を伴う。

- (4) II帯：No.1 地点試料No.6～2、No.2 地点試料No.2、1

スギ属が卓越し、マツ属（複維管束属）、アカガシ属を伴う。

- (5) I帯：No.1 地点試料No.1

マツ属（複維管束属）が卓越するほか、スギ属、コナラ属を伴う。

珪藻分帶

各地点共に珪藻組成の変化に乏しかった。このため各地点共に、1帯の地域珪藻帯を設定した。以下に各地点毎に珪藻帯の特徴を示す。また、本文中では珪藻組成の変遷を明らかにするために、試料No.を下位から上位に向かって記した。

- (1) No.1 地点

D 1 - I 帯：試料No.10～4

全ての種類が淡水種であり、底生種が70～80%を占める。

- (2) No.2 地点

D 2 - I : 試料No.9～3

検出数が少なかったが、検出できた珪藻のほとんどが淡水種である。陸生種の *Hantzschia amphioxys* が卓越する傾向にあるほか、底生種の *Cymbella* 属や *Pinnularia* 属を伴う。

- (3) No.3 地点

試料No.1 : 検出数が少なかったが、検出できた全ての珪藻が淡水種である。底生種の *Cymbella* 属や *Pinnularia* 属が卓越する傾向にある。

No.2地点の堆積環境

No.2地点は図5-1に示すように、極めて規模の小さい谷の出口に位置している。分析した8試料からの珪藻化石検出量は少ないものの、検出できたいずれの試料でも陸生種の*Hantzschia amphioxys*が卓越し、底生種の*Cymbella*属や*Pinnularia*属を伴っていた。また堆積物は、炭片が混じりかつやや腐植質であるが、様々な粒径の礫を含み、明瞭なラミナの無いシルト～粘土であった。

珪藻化石の含有量が少なく、陸生珪藻が卓越することから、堆積時に當時「湿地」状態であったとは考えにくく、乾燥傾向が強かったと考えられる。また、含まれる礫の粒径が不揃いで、インプレッションも認められず、ラミナも不明瞭であることから、堆積ユニット毎に一挙に溜まった可能性が指摘できる。以上のような事柄から、沼沢湿地環境は否定できないものの乾燥傾向が強く（當時湿地状態ではなく、干上がることが多かったと考えられる。）、雨水と共に周辺の尾根部より細屑物（堆積物）が流れ込み、堆積していったのではなかろうか。

No.3地点の堆積時期について

No.3地点では、堆積時期を判断するために花粉分析を実施していた。しかし、花粉化石の検出量が少なく、有意な結果を得ることが出来なかった。

古環境変遷

ここでは、花粉帶毎に遺跡周辺の古環境を推定する。

(1)V帶期

①堆積環境

No.1地点では底生種の珪藻化石がほとんどを占めることから、沼沢湿地での堆積が推定される。また、草本花粉でイネ科（40ミクロン以上）が高率を示すことから、水田で堆積した可能性もある。ただし、堆積物が腐植に富む様子ではなく、珪藻化石が上位から混入した可能性もある。

No.2地点は、珪藻化石が検出できなかったために、堆積環境は不明である。堆積状況から考えると前述のように、沼沢湿地環境は否定できないものの乾燥傾向が強く（當時湿地状態ではなく、干上がることが多かったと考えられる。）、雨水と共に周辺の尾根部より細屑物（堆積物）が流れ込む状況が推定される。

②森林植生

スギ属花粉が卓越することから、遺跡近辺の低地、あるいは斜面にスギ林が分布していた可能性が高い。またNo.2地点では、アカガシ並属花粉の出現率がやや高率であり、背後の山々にはカシ類を主要素とする照葉樹林が分布していた可能性がある。

③草地植生

草本花粉組成はNo.1、2地点で大きく異なる。No.1点ではイネ科（40ミクロン以上）が比較的高率を示し、稲作が行われていた可能性が示唆される。しかし堆積環境で述べた珪藻化石同様、草本花粉も上位から混入した可能性が残る。調査地点が湿地であったと考えると、イネ科、カヤツリグ

サ科などが生育し、やや乾燥した場所にはタンボボ亜科などが生育していたと考えられる。

一方No.2地点では、イネ科、カヤツリグサ科などが生育し、やや乾燥した場所にはヨモギ属などが生育していたと考えられる。

(2)IV带期

①堆積環境

各地点共に珪藻組成に大きな変化がないことから、堆積環境にも大きな変化があったとは考えにくい。前述のようにNo.1地点では底生種の珪藻化石がほとんどを占めることから、沼沢湿地での堆積が推定される。また、イネ科(40ミクロン以上)花粉はさほど高率を示さず、水田であった可能性は低くなる。ただし、堆積物は腐植に富み、珪藻化石、花粉化石共に本質的なものであると考えられる。

No.2地点は、試料No.9でのみ珪藻化石が検出された。堆積状況を加味すると前述のように、沼沢湿地環境は否定できないものの乾燥傾向が強く（常時湿地状態ではなく、下上がることが多い）と考えられる。）、雨水と共に周辺の尾根部より細屑物（堆積物）が流れ込む状況が推定される。

②森林植生

スギ属花粉が卓越し、遺跡近辺の低地、あるいは斜面に引き続きスギ林が分布していた可能性が高い。またマツ属（複維管束亜属）が急増し、周辺でアカマツ林が急速に広がったことが示唆される。一般にアカマツ林は、人間による植生破壊の跡に遷移林として広がる傾向にあることから、周辺の開発がIV带期以降急速に進んだ可能性が指摘できる。一方でアカガシ亜属、シノキ属-マテバシイ属花粉の出現率は低率ではあるが安定しており、背後の山々にはカシ類を主要要素とする照葉樹林が分布域を狭めながらも引き続き分布していたと考えられる。

またNo.2地点では、トチノキ属花粉が高率を示す。一方No.1地点では、わずかに検出されるのみである。トチノキは虫媒花で花粉の散布域が狭いことから、No.2地点近辺にトチノキが生育していた可能性が高い。

③草地植生

No.1地点では、イネ科(40ミクロン以上)花粉はさほど高率を示さず、水田であった可能性は低くなる。調査地点には湿地が広がりイネ科、カヤツリグサ科などが生育し、やや乾燥した場所にはヨモギ属などが生育していたと考えられる。

一方No.2地点では、堆積環境がやや安定したためか前の時期より生育する種類が豊富になり、キンポウゲ科やアブラナ科も生育するようになったと考えられる。

(3)III带期

No.2地点でのみ、花粉帶（堆積物）が認められる。

①堆積環境

前述のように、沼沢湿地環境は否定できないものの乾燥傾向が強く（常時湿地状態ではなく、下上がることが多い）と考えられる。）、雨水と共に周辺の尾根部より細屑物（堆積物）が流れ込む

状況が推定される。

②森林植生

マツ属（複雑管束亜属）花粉が卓越することから、開発に伴い近辺でアカマツが分布を広げたと考えられる。マツ属（複雑管束亜属）花粉の減少に伴いスギ属花粉が増加する。このことは、スギ属の分布拡大と捉える事も可能であるが、すでに人為による植生の破壊が始まっていることから、アカマツの減少に伴うスギ属の相対的な増加と考える方が妥当であろう。

③草地植生

より安定した堆積環境になり、草本花粉の割合が高くなる。最上部でアカザ科-ヒュ科が急増し、近辺に生育していたことが解る。

(4) II 帯期

①堆積環境

前述のようにNo.1地点では底生種の珪藻化石がほとんどを占める。また、イネ科（40ミクロン以上）花粉が高率を示すことから、水田環境下での堆積が推定される。またNo.2地点でもイネ科（40ミクロン以上）が高率を示すようになり、水田環境下での堆積が推定される。

②森林植生

スギ属花粉が卓越し、遺跡近辺の低地、あるいは斜面に引き続きスギ林が分布していた可能性が高い。またマツ属（複雑管束亜属）はさほど高率にならない。前の時期で一時的に増えた近辺のアカマツが無くなり、安定した森林環境が続いたと考えられる。背後の山々にはアカマツにコナラ類を交えた林やカシ類を主要素とする照葉樹林が引き続き分布していたと考えられる。

③草地植生

草本花粉の種類も割合も多くなる。イネ科（40ミクロン以上）花粉が卓越するほか、特に水田雜草を含むオモダカ属やセリ科が出現するようになり、この時期からNo.1、2地点共に耕作が行われたと考えられる。前述のオモダカ属、セリ科などは水田雜草と考えられる。

またNo.1地点試料No.3、2ではソバ属も検出され、二毛作やイネとともに畦で、あるいは休耕田での栽培が推定される。

(5) I 帯期

No.1地点でのみ分析を行い、花粉帶（堆積物）を確認した。

①堆積環境

発掘調査時の観察で現代耕作土とされた層である。花粉組成ではイネ科（40ミクロン以上）が卓越し、水田環境下での堆積が推定される。

②森林植生

マツ属（複維管束亞属）が卓越し、コナラ属、スギ属を伴う。マツ属（複維管束亞属）、コナラ亞属は、アカマツ林、コナラ林などのいわゆる「卑山」として広い範囲での分布が考えられる。またスギ属は、現在見られる様に植林として分布していたと考えられる。

③草地植生

前時期同様にイネ科（40ミクロン以上）が卓越するが、その他の草本花粉は減少傾向にある。引き続き稻作が行われ水田が広がっていたと考えられるが、技術の進歩などによって、Ⅱ带期に比べ雑草が減ったと考えられる。

一方でソバ属栽培は引き続き行われたと考えられる。

まとめ

初期の目的であるNo.3地点の堆積時期推定は、花粉化石が得られなかつたことから、出来なかつた。高津遺跡において実施した各種分析を基に、以下の局地化石帯を設定した。

- (1) 花粉組成変遷から、I～V带の局地花粉帯を設定した。
- (2) 珪藻組成変遷から各地点毎に I 带の局地珪藻帯を設定した。

各種分析結果、および調査に伴う地層観察などから、局地花粉帯に基づく時期毎に周辺の古環境を推定した。主な事柄は、以下に示す通りである。

- (1) No.1、2地点の堆積環境は大きく異なる。No.1地点では沼沢湿地状態が続いたのに対し、No.2地点では乾燥傾向が強く（當時湿地状態ではなく、干上がることが多い多かったと考えられる。）、雨水と共に周辺の尾根部より細屑物（堆植物）が流れ込む状況が推定された。
- (2) 遺跡内ではⅡ带期以降水田耕作が行われた。IV、V带期でも水田耕作が行われた可能性はあるが、低い。
- (3) V～Ⅱ带期まで、周辺地域はスギが卓越する森で被われていた。遺跡内のほぼ全域が水田化したのは、Ⅲ帶～Ⅱ帶の間であると考えられる。
- (4) Ⅱ帶上部よりソバ属花粉が検出されており、この時期以降のソバ栽培が示唆される。

引用文献

- 中村 純（1974）イネ科花粉について、とくにイネを中心として、第四紀研究、13, 187–197。
渡辺正巳（1995a）花粉分析法、考古資料分析法、84, 85. ニュー・サイエンス社
渡辺正巳（1995b）珪藻分析法、考古資料分析法、86, 87. ニュー・サイエンス社

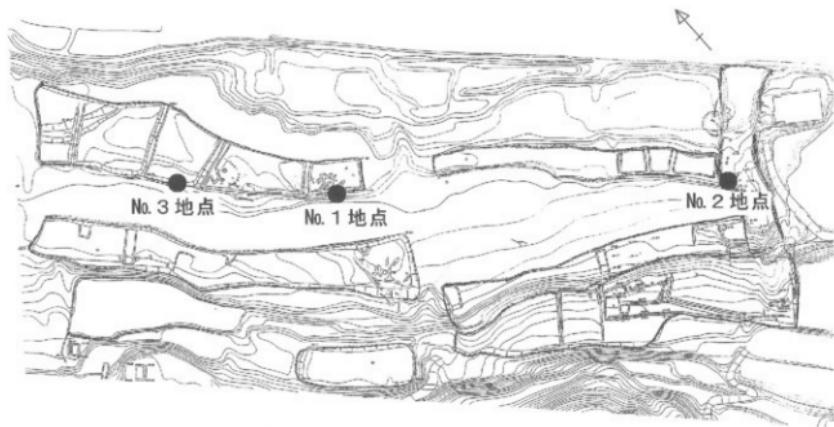


図1 試料採取地点

表1 概査結果

地点No.	試料No.	花 粉	炭	植物片	珪 藻	火山ガラス	プラント・オバール
1	1	◎	△×	△×	◎	△×	△
	2	◎	△	△	○	△	○
	3	◎	△	△	◎	△×	○
	4	◎	△×	△	◎	△×	△
	5	◎	○	△	◎	△×	○
	6	◎	○	△	◎	△×	○
	7	◎	△×	△	◎	△×	△
	8	◎	△	△	◎	△×	△
	9	◎	△×	○	◎	△×	△
	10	◎	○	○	◎	△×	○
2	1	◎	○	△	○	△	◎
	2	◎	○	△	○	△	△
	3	△×	○	△×	△	△×	△
	4	△	○	△×	△×	△×	△
	5	△	○	△×	×	△	○
	6	△	△	△×	△×	△×	○
	7	△	△	△×	×	△	○
	8	○	△	△×	×	△×	○
	9	○	△	△×	△	△	○
	10	◎	△×	△	×	△	△×
3	1	△×	△×	△×	△	○	△

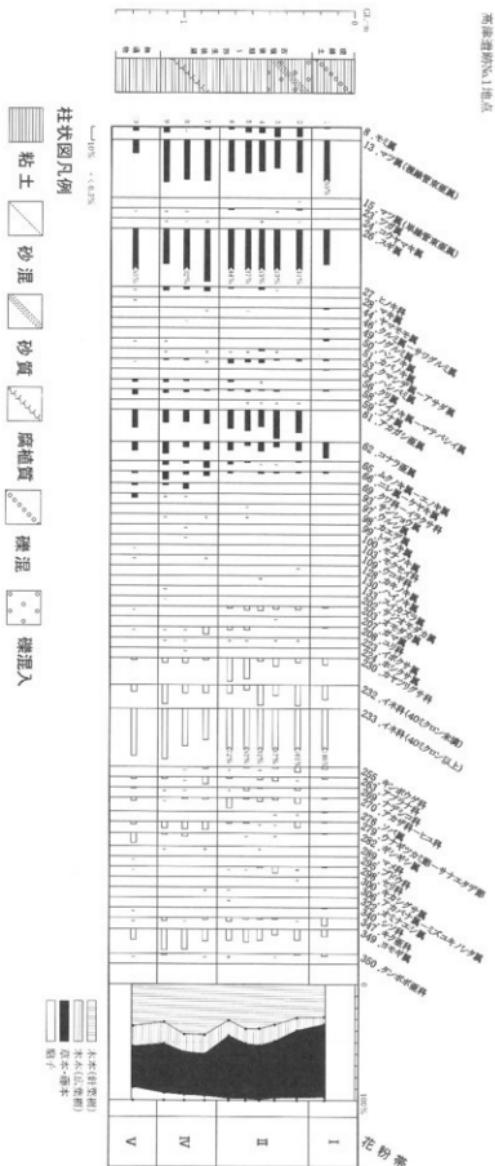
凡例 ◎ : 十分な数量が検出できる

○ : 少ないが検出できる

△ : 非常に少ない

△× : 極めてまれに検出できる

× : 検出できない



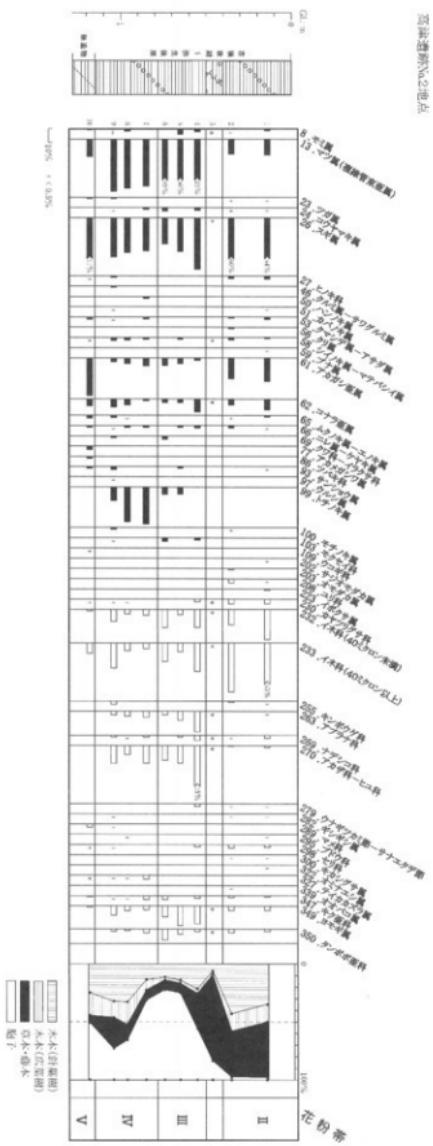


図3 No2地点の花粉ダイアグラム

高津遺跡No.3地点

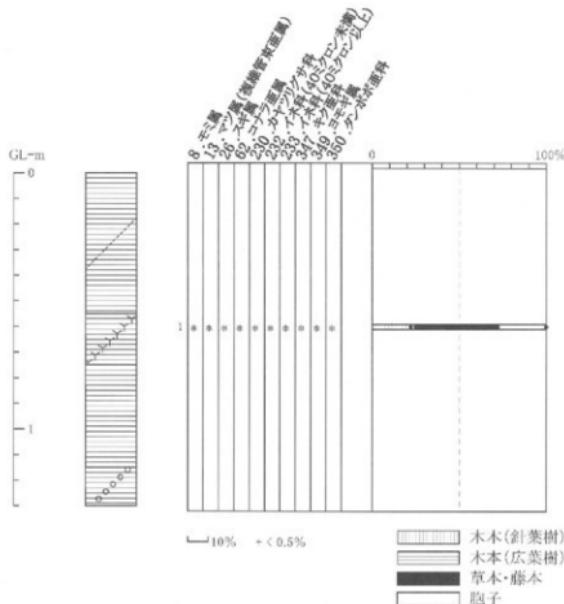


図4 No.3地点の花粉ダイアグラム

高津遺跡No.1地点



図5 No.1地点の珪藻ダイアグラム

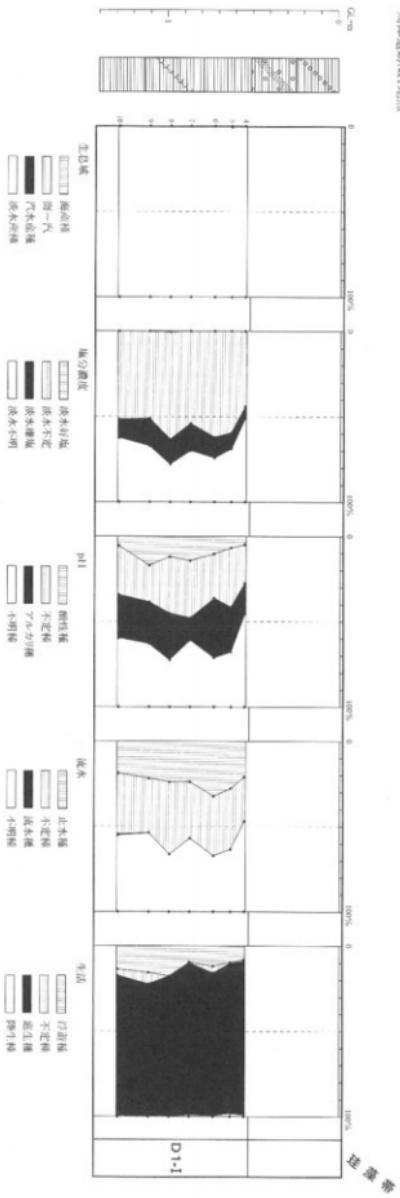


図6 №1地点の珪藻総合ダイアグラム

高津遺跡No.2地点

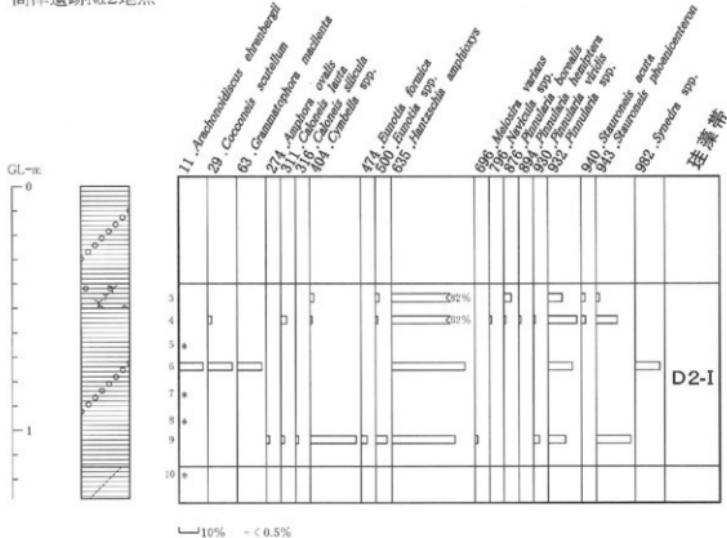


図7 No.2地点の珪藻ダイアグラム

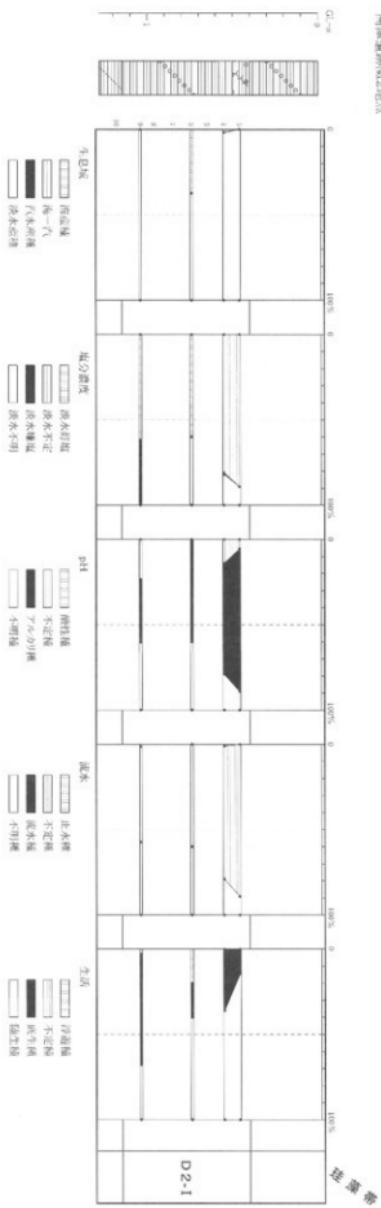


図8 No.2地点の珪藻総合ダイアグラム

高津遺跡No.3地点

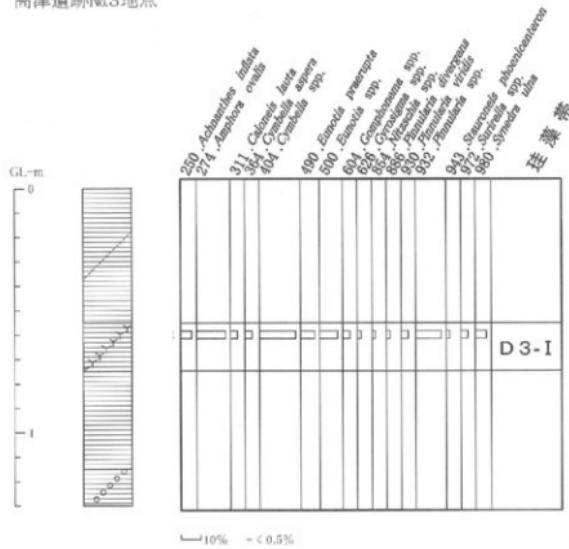


図9 No3地点の珪藻ダイアグラム

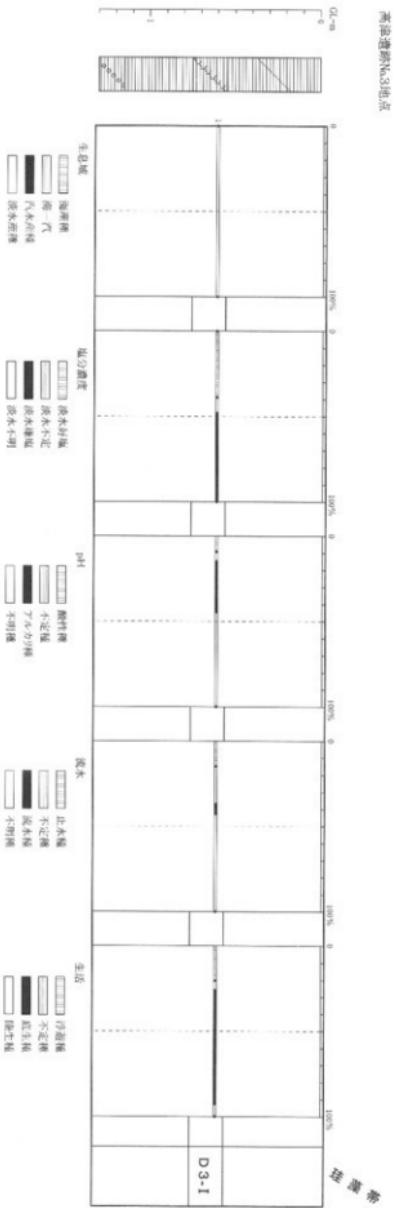


図10 №3地点の珪藻総合ダイアグラム

第2節 高津遺跡発掘調査に係る樹種鑑定

渡辺 正巳 (文化財調査コンサルタント株)

古野 豪 (島根大学総合理工学部)

はじめに

高津遺跡は島根県西部、江津市都治町地内に位置する。

本報は、江津市教育委員会が文化財調査コンサルタント株式会社に委託して実施した出土木質遺物（柱材他）の樹種鑑定結果の概報である。

試料について

樹種鑑定を行った試料の一覧を表1に示す。表1には、同時に鑑定結果も示してある。

永久プレパラートは渡辺(2000)に従い作成した。また作成した永久プレパラートには整理番号を付け、文化財調査コンサルタント株にて保管管理をしている。

作製した永久プレパラートを、光学顕微鏡下で40倍～600倍の倍率で観察し記載を行った。記載にあたって同一分類群は一括して記載し、代表的な試料の3断面の顕微鏡写真を付けた。また用語などは基本的に鳥地ほか(1985)に従つた。

樹種の鑑定結果と記載

各分類群毎に記載を行い、表1に鑑定結果を示した。また、巻末に最も特徴的な個体の顕微鏡写真を示した。

コウヤマキ *Sciadopitys verticillata* (Thunb.) Sieb. et Zucc.

試料No. : 563

記載：構成細胞は仮道管、放射柔細胞からなる。早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材の幅は極めて狭い。分野壁孔は窓状であるが、多くは壁孔膜が劣化し窓状に広がり、不明瞭となっている。放射組織は大部分が5細胞高以下であり、高さが非常に低い。以上の組織上の特徴から、コウヤマキと同定した。

スギ *Cryptomeria japonica* D. Don

試料No. : 502, 503, 770, 771, 774, 778

記載：構成細胞は仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなる。早材から晩材への移行はやや緩やかあるいはやや急で、晩材の幅は広い。樹脂細胞は主に移行部から晩材部に分布している。また、分野壁孔はスギ型で2～3個存在することなどから、スギと同定した。

ヒノキ属？ cf. *Chamaecyparis* sp.

試料No. : 702

記載：構成細胞は仮道管、樹脂細胞、放射柔細胞からなる。早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材の幅は狭い。樹脂細胞は移行部に認められる。分野壁孔は不明瞭であるが、小型のものが2～3個存在するなど、ヒノキ属と類似する特徴を持つ事から、ヒノキ属？とした。

クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc.

試料No. : 823, 824

記載：環孔材で円形ないし梢円形の長径400～300 μm程度の道管が単独で多列に配列し、孔圈部の幅はかなり広い。孔圈外の道管は30～100 μm程度で、放射状に配列する。道管せん孔は単せん孔である。また、道管にはチロースが顕著に認められる。孔圈道管の周りには周囲仮道管が存在する。軸方向柔細胞は單接線状に配列するのが認められる。放射組織は単列同性型である。以上の組織上の特徴からクリと同定した。

クワ属 *Moras* sp.

試料No. : 500,779

記載：径200あるいは300～350 μm程度の道管が単独あるいは2個複合して孔圈に多列（1～5列）に並ぶ環孔材である。孔圈外では径50 μm程度までの小道管が不規則に小塊状に複合し、散在している。道管せん孔は単せん孔で、道管相互壁孔は交互状を示す。小道管にはらせん肥厚が認められる。また、道管内にはチロースがよく発達している。放射組織は1～8細胞幅で、上下端に1～数個の直立細胞や方形細胞を持つ、異性日型である。放射組織は600～900、あるいは1400 μmに達する3～8細胞幅の紡錘形を示すものが多い。軸方向柔細胞は、孔圈部の大道管および孔圈外の集団管孔を取り囲む周囲柔組織をなす。以上の特徴からクワ属と同定した。

カキノキ属 *Diospyros* sp.

試料No. : 267

記載：径100～300 μm程度の道管が単独ないし放射方向に2～3個複合して、散在状に分布する散孔材である。道管の分布数は少ない。道管せん孔は単せん孔で、道管相互壁孔は交互状を示す。道管壁は厚壁である。放射組織は1、2細胞幅の異性で、高さが10細胞高前後のものが階層状に規則的に配列しているのが特徴的である。軸方向柔細胞は顕著な1列の接線状、および周囲状である。また周囲柔細胞は、本部繊維より径が大きい。以上の組織上の特徴からカキノキ属と同定した。

用材（柱）についての特徴

前述の様に11本の柱について樹種鑑定を行った結果、コウヤマキが1本、スギが5本、ヒノキ属？が1本、クリが2本、クワ属が1本、カキノキ属が1本確認できた。

針葉樹のうち、スギ、ヒノキ属は柱材としてよく使用される樹種である。伊東ほか（1987）、山田（1993）の集成で見ると、コウヤマキは柱、棺材として主に近畿地方での記載があるが、島根県下では初の報告例となる可能性がある。

広葉樹の内クリは、伊東ほか（1987）、山田（1993）の集成で見ると柱に用いられることが多いが、島根県内では出雲国府跡（渡辺・古野、2003）などで多数記載されている。また、クワ属はヤマグワとしての記載があるが多くはない。島根県下での記載も数例目であろう。カキノキ属の記載はほとんど無く、島根県下では初の報告となる可能性がある。

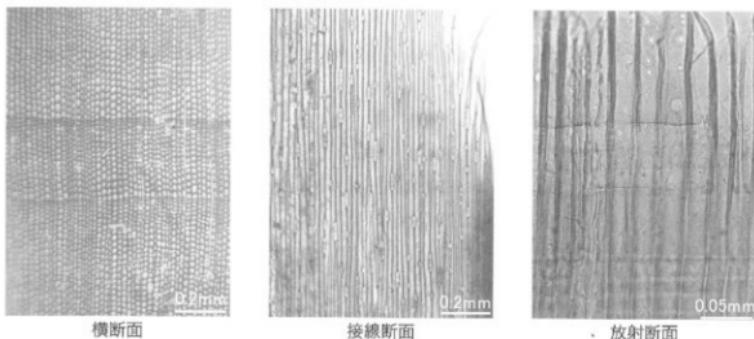
引用文献

- 伊東隆夫・山口和穂・林 昭三・布谷知夫・島地 謙 (1987) 日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途. 木材研究, 23, 42-210.
- 島地 謙・佐伯 浩・原田 浩・塙倉高義・石田茂雄・重松頼生・須藤彰司 (1985) 木材の構造. 276p. 文永堂, 東京.
- 山田昌久 (1993) 日本列島における木質遺物出土文献集成—用材から見た人間・植物関係史. 242p., 植生史研究特別第1号, 植生史研究会, 大阪.
- 渡辺正巳 (2000) 長原遺跡東北地区東調査地出土木質遺物の樹種鑑定. 長原遺跡東部地区発掘調査報告III-1997年度大阪市長吉東部地区土地区画整理事業施行に伴う発掘調査報告書一, 247-249, 財団法人大阪市文化財協会.
- 渡辺正巳・古野 義 (2003) 出雲国府跡出土柱根・木製品の樹種 (I). 風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書14 史跡出雲国府跡-1-, 199-208, 島根県教育委員会.

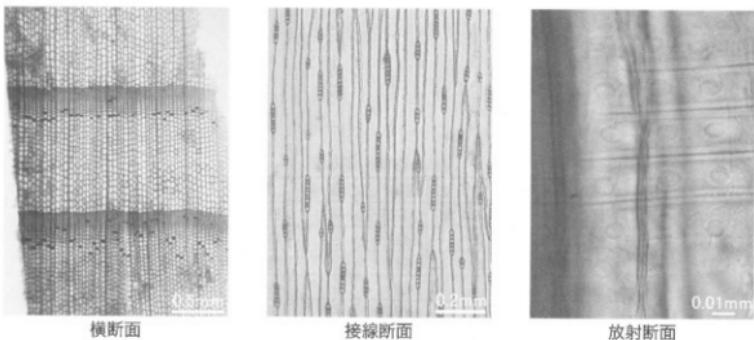
表1. 樹種鑑定結果

試料番号	整理番号	樹種名	遺構 (取上番号)	種別	備考
267	W03111703	カキノキ属	B IV区 (Jan-45)	柱材	弥生後期～古墳後期
500	W03111705	クワ属	B区	柱材	弥生後期～古墳後期
502	W03111704	スギ	B区	柱材	弥生後期～古墳後期
503	W03111802	スギ	B区	柱材	弥生後期～古墳後期
563	W03111706	コウヤマキ	B IV区 (27)	柱材	弥生後期～古墳後期
702	W03111801	ヒノキ属?	B V区 E (58)	柱材	弥生後期～古墳後期
770	W03111804	スギ	B IV区 (36)	柱材	弥生後期～古墳後期
771	W03111702	スギ	B IV区	柱材	弥生後期～古墳後期
774	W03111805	スギ	B IV区 (26)	柱材	弥生後期～古墳後期
823	W03111803	クリ	A I区 (173)	柱材	中世
824	W03111701	クリ	A I区 (145)	柱材	中世
778	W03111806	スギ	C VII区	自然木	弥生後期～古墳後期
779	W03111807	クワ属	B V区	素材	弥生後期～古墳後期

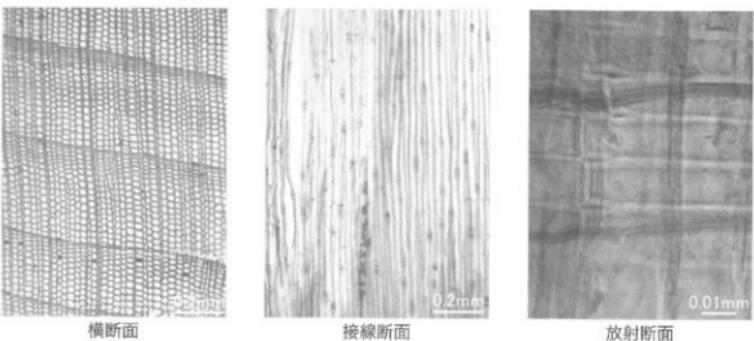
コウヤマキ *Sciadopitys verticillata* (Thunb.) Sieb. et Zucc.
試料No : 563 (W03111706)



スギ *Cryptomeria japonica* D.Don
試料No : 502 (W03111704)



ヒノキ属? cf. *Chamaecyparis* sp.
試料No : 702 (W03111801)



クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc.

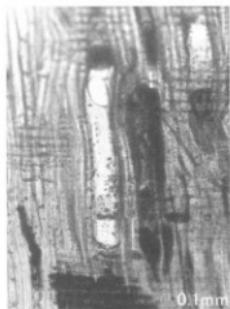
試料No : 824 (W03111701)



横断面



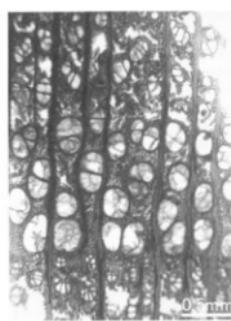
接線断面



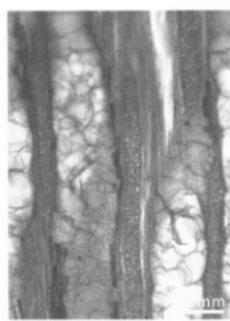
放射断面

クワ属 *Moras* sp.

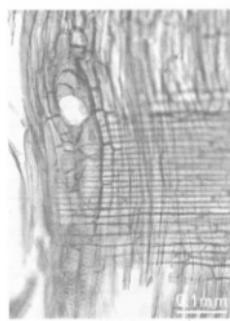
試料No : 779 (W03111807)



横断面



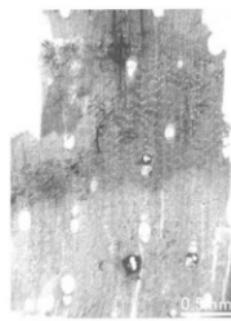
接線断面



放射断面

カキノキ属 *Diospyros* sp.

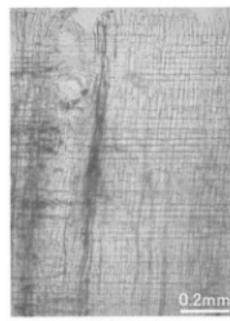
試料No : 267 (W03111703)



横断面



接線断面



放射断面

第1表 穫穴住居12計測表

平面形		多角形				
規模		上面			下面	
壁高		5.85(7.5m)			5.45m	
壁帶溝 (cm)	幅 35	34cm			深さ 10	
柱穴 (cm)	番号 1 上面径 (cm) 20 底面標高 (m) --	2	3	4	5	
		24.33	--	--	--	
柱間距離 (m)	1-2 1.10	2-3 1.16	3-4 1.21	4-5 1.59		

第2表 穫穴住居70計測表

平面形		多角形 (五角形・隅丸方形)				
規模		上面			下面	
壁高		5.06m~(A:5.0m)(B:5.6m)			5.01m~	
壁帶溝 (cm)	幅 29	53cm			深さ -	
柱穴 (cm)	番号 1 上面径 (cm) 51 底面標高 (m) 24.09	2	3	37		
		44	--	--		
柱間距離 (m)	1-2 1.81	2-3 2.35				
中央土坑	主軸 N-7°-W 径 (m) 1.08×0.58					
	深さ (m) 19					

第3表 穫穴住居03計測表

平面形		多角形				
規模		上面			下面	
壁高		6.89~(9m)			6.73m~	
壁帶溝 (cm)	幅 10	25cm			深さ 10	
柱穴 (cm)	番号 1 上面径 (cm) 39 底面標高 (m) --	2	3			
		46	32			
柱間距離 (m)	1-2 1.50	2-3 2.70				

第4表 穫穴住居14計測表

平面形		多角形				
規模		上面			下面	
壁高		2.55~(6m)			2.56m~	
壁帶溝 (cm)	幅 -	10cm			深さ -	
柱穴 (cm)	番号 4 上面径 (cm) 4.7 底面標高 (m) --	5				
		3.8				
柱間距離 (m)	4-5 2.0	23.42				

第5表 穫穴住居04計測表

平面形		多角形				
規模		上面			下面	
壁高		-			-	
壁帶溝 (cm)	幅 10	-			深さ -	
柱穴 (cm)	番号					
	上面径 (cm)					
	底面標高 (m)					
柱間距離 (m)						

第6表 壁穴住居13-1計測表

平面形		方形		
規模		上面		下面
壁高		5.43m(4.4m)		5.25m
壁帶溝 (cm)		幅 45		深さ -
柱穴 (cm)	番号	1	2	3
	上面径 (cm)	24	21	26
	底面標高 (m)	-	-	-
柱間距離 (m)	1-2	1-3		
	1.77	1.65		

第7表 壁穴住居13-2計測表

平面形		方形		
規模		上面	下面	
壁高		4.58m(4.5m)		4.52m
壁帶溝 (cm)		幅 20		深さ -
柱穴 (cm)	番号			
	上面径 (cm)			
	底面標高 (m)			
柱間距離 (m)				
土坑	主軸	N-47°-W		
	径 (m)	1.04×1.23		
	深さ (cm)	49		

第8表 壁穴住居08計測表

平面形		多角形		
規模		上面	下面	
壁高		8.4m~		8.21m~
壁帶溝 (cm)		幅 25		深さ 6
柱穴 (cm)	番号	1	2	
	上面径 (cm)	36	51	
	底面標高 (m)	24.10	23.64	
柱間距離 (m)		1-2		
		3.33		

第9表 壁穴住居09-1計測表

平面形		多角形		
規模		上面	下面	
壁高		4.2m~		3.9m~
壁帶溝 (cm)		幅 42		深さ 11
柱穴 (cm)	番号			
	上面径 (cm)			
	底面標高 (m)			
柱間距離 (m)				

第10表 壁穴住居09-2計測表

平面形		多角形		
規模		上面	下面	
壁高		4.81m~		4.7m~
壁帶溝 (cm)		幅 29		深さ -
柱穴 (cm)	番号			
	上面径 (cm)			
	底面標高 (m)			
柱間距離 (m)				

第11表 穹穴住居11-1計測表

平面形		多角形			
規模		上面		下面	
壁高		5.12m		4.99m	
壁帶溝 (cm)	幅 30	10cm		深さ 7	
柱穴	番号	1	2	3	4
(cm)	上面径 (cm)	42	48	53	—
	底面標高 (m)	22.8	22.35	22.43	—
柱間距離 (m)	1-2	2-3			
	3.75	3.65			
中央	主軸	N-10°-E			
土坑	径 (m)	1.2×1.73			
	深さ (cm)	31			

第12表 穹穴住居11-2計測表

平面形		多角形			
規模		上面		下面	
壁高		5.12~(6.0m)		4.99m	
壁帶溝 (cm)	幅 30	10cm		深さ 7	
柱穴	番号	5	6	7	8
(cm)	上面径 (cm)	40	47	52	43
	底面標高 (m)	22.33	22.48	—	—
柱間距離 (m)	4-5	4-6	5-7	6-8	7-9
	1.94	3.23	3.13	2.65	3.03

第13表 穹穴住居02計測表

平面形		方形							
規模		上面				下面			
壁高		4.68m(4.7m)				4.53m			
壁帶溝 (cm)	幅 22	30cm				深さ 8			
柱穴	番号	1	2	3	4	5	6	7	8
(cm)	上面径 (cm)	16	19	18	24	21	19	19	18
	底面標高 (m)	23.84	23.78	—	23.77	—	23.71	—	—
柱間距離 (m)	1-2	2-3	1-4	4-6	3-5	5-8	6-7	7-8	
	1.2	1.15	1.03	1.13	1.14	1.14	1.31	1.15	
中央	主軸	N-32°-W							
土坑	径 (m)	0.75×0.84							
	深さ (cm)	23							

第14表 穹穴住居01計測表

平面形		隅丸方形							
規模		上面				下面			
壁高		3.98m~(6.0m)				3.88m			
壁帶溝 (cm)	幅 13	34cm				深さ 5			
柱穴	番号	6	7						
(cm)	上面径 (cm)	48	51						
	底面標高 (m)	21.52	21.59						
柱間距離 (m)	6-7								
	2.43								

第15表 穹穴住居10計測表

平面形		多角形 (6角形)							
規模		上面				下面			
壁高		4.44m~(6.6m)				42.4m~			
壁帶溝 (cm)	幅 一	25cm				深さ 一			
柱穴	番号	1	2	3	4	5			
(cm)	上面径 (cm)	49	46	41	39	27			
	底面標高 (m)	22.2	21.78	21.46	21.51	21.75			
柱間距離 (m)	1-2	2-3	3-4	4-5					
	2.49	3.09	2.34	2.57					

第16表 空穴住居05計測表

平面形			円形		
規格	上面		下面		4.94m~
	5.03m~		22.65cm		
壁高					
壁帶溝 (cm)	幅 27		深さ 14		
柱穴 (cm)	番号 1 上面径 (cm) 46 底面標高 (m) 22.5	2 39 29	3 22.64 22.39		
柱間距離 (m)	1-2 1.71	2-3 1.22			

第17表 挖立建物01計測表

規格	梁行き				桁行き			
	2間(3.76)				4間(9.56)			
主軸	N-54° -W							
	番号 1 上面径 (cm) 26×23 底面標高 (m) 24.55	2 38×36 24.41	3 34×34 24.41	4 31×27 —	5 28×28 —	6 26×22 —	7 34×34 24.43	8 37×27 24.21
柱穴 (cm)	番号 1-2 上面径 (cm) 1-2 底面標高 (m) 2.14	2-3 38×36 24.41	3-4 34×34 24.41	4-5 31×27 —	1-6 28×28 —	5-7 26×22 —	7-8 34×34 24.43	8-9 37×27 24.21
柱間距離 (m)								

第18表 挖立建物02計測表

規格	梁行き				桁行き			
	5間(6.9m)				2間(4.56m)			
主軸	N-42° -E							
	番号 1 上面径 (cm) 56×39 底面標高 (m) 24.71	2 22×18 24.93	3 33×27 24.55	4 38×33 —	5 20×14 —	6 33×32 24.54	7 28×26 34.6	8 31×29 —
柱穴 (cm)	番号 9 上面径 (cm) 33×33 底面標高 (m) —							
柱間距離 (m)	1-2 1.72	2-3 1.90	3-4 1.76	4-5 1.58	5-6 1.66	1-7 2.13	6-8 2.16	8-9 2.40

第19表 挖立建物03計測表

規格	梁行き				桁行き			
	3間(7.51m)				1間(3.29m)			
主軸	N-23° -E							
	番号 1 上面径 (cm) 38×38 底面標高 (m) 24.4	2 41×40 24.41	3 47×33 —	4 51×49 24.41	5 21×21 —			
柱穴 (cm)	番号 1-2 上面径 (cm) 2.38	2-3 2.94	3-4 2.19	4-5 3.29				

第20表 挖立建物04計測表

規格	梁行き				桁行き			
	2間(2.83m)				4間(9.09m)			
主軸	N-23.5° -W							
	番号 1 上面径 (cm) 46×44 底面標高 (m) 24.36	2 60×57 24.73	3 40×40 —	4 34×34 24.4	5 27×23 24.26	6 37×36 24.63	7 48×43 24.27	
柱穴 (cm)	番号 1-2 上面径 (cm) 2.17	2-3 1.92	3-4 2.43	4-5 2.57	5-6 1.38	6-7 1.45		

第21表 挖立建物05計測表

規格	梁行き				桁行き			
	2間(3.08m)				4間(8.09m)			
主軸	N-55° -W							
	番号 1 上面径 (cm) 29×28 底面標高 (m) —	2 27×27 24.73	3 26×24 24.59	4 20×19 24.53	5 28×26 24.65	6 40×34 24.4	7 34×34 24.45	
柱穴 (cm)	番号 1-2 上面径 (cm) 1.48	2-3 1.60	3-4 2.02	4-5 1.78	5-6 2.37	6-7 1.97		
柱間距離 (m)								

第22表 堀立建物06計測表

規模	梁行き				桁行き			
	3間(8.08m)				1間(3.33m)			
主軸	N-55° -E							
	番号	1	2	3	4	5	6	7
柱穴 (cm)	上面径 (cm)	48×40	30×33	54×45	43×40	61×56	24×23	29×28
	底面標高 (m)	-	-	-	-	-	-	-
	柱間距離 (m)	1-2	2-3	3-7	1-4	4-5	5-6	6-7
		2.90	5.12	3.33	3.02	2.62	2.06	3.40

第23表 堀立建物07計測表

規模	梁行き				桁行き				
	1間(3.72m)				3間(7.75m)				
主軸	N-45° -E								
	番号	1	2	3	4	5	6	7	8
柱穴 (cm)	上面径 (cm)	148×78	59×59	58×54	43×41	49×43	51×46	37×34	39×36
	底面標高 (m)	-	-	-	-	-	-	-	-
	柱間距離 (m)	1-2	2-3	3-4	1-5	4-8	5-6	6-7	7-8
		2.64	1.62	3.49	3.72	3.46	2.19	2.21	3.60

第24表 堀立建物08計測表

規模	梁行き				桁行き			
	3間(8.36m)				1間(3.01m)			
主軸	N-35° -W							
	番号	1	2	3	4	5		
柱穴 (cm)	上面径 (cm)	24×23	38×24	57×52	29×20	18×18		
	底面標高 (m)	22.29	22.29	22.32	22.23	22.13		
	柱間距離 (m)	1-2	2-3	3-4	4-5			
		2.95	2.72	2.69	3.01			

第25表 堀立建物09計測表

規模	梁行き				桁行き			
	1間(2.6m)				3間(8.11m)			
主軸	N-85.5° -E							
	番号	1	2	3	4	5		
柱穴 (cm)	上面径 (cm)	37×27	21×16	26×17	27×25	18×12		
	底面標高 (m)	22.24	22.28	22.27	22.27	22.01		
	柱間距離 (m)	1-2	2-3	3-4	1-5			
		2.65	2.66	2.80	2.60			

第26表 堀立建物10計測表

規模	梁行き				桁行き			
	1間(3.01m)				3間(8.47m)			
主軸	N-76° -E							
	番号	1	2	3	4	5		
柱穴 (cm)	上面径 (cm)	38×29	25×23	33×23	27×23	16×13		
	底面標高 (m)	22.13	22.31	22.41	22.46	22		
	柱間距離 (m)	1-2	2-3	3-4	1-5			
		3.39	3.22	1.86	3.01			

第27表 堀立建物11計測表

規模	梁行き				桁行き			
	3間(8.1m)				1間(2.82m)			
主軸	N-42° -E							
	番号	1	2	3	4	5		
柱穴 (cm)	上面径 (cm)	38×28	49×43	48×38	24×24	15×12		
	底面標高 (m)	22.26	22.21	22.24	22.24	22.00		
	柱間距離 (m)	1-2	2-3	3-4	1-5			
		2.72	2.67	2.71	2.82			

第28表 振立建物12計測表

規模	梁行き 4間(8.04m)				桁行き 2間(4.8m)			
	N-42° -E							
主軸番号	1	2	3	4	5	6	7	8
柱穴上面径(cm)	55×45	67×55	54×47	40×31	59×51	38×35	58×57	57×37
柱穴底面標高(m)	—	22.31	—	22.11	22.19	22.01	22.18	—
(cm)番号	9	10	11	12	13	14	—	—
柱穴上面径(cm)	82×33	72×54	55×38	52×39	33×31	30×27	—	—
柱穴底面標高(m)	22.09	—	—	—	—	—	—	—
柱間距離(m)	1-2 1.92	2-3 1.68	3-4 4.44	1-5 2.32	5-7 2.48	4-6 2.45	6-11 2.28	7-8 1.54
柱間距離(m)	8-9 2.25	9-10 1.66	10-11 2.14	11-12 1.86	—	—	—	—

第29表 土器棺墓01計測表

遺構名	平面形	主軸	縦(cm)	横(cm)	深さ(cm)
土器棺墓01	たまご型	N-24° -W	92.0	61.5	9.0

第30表 段状遺構計測表

遺構名	主軸	長さ(m)	幅(m)	深さ(cm)
段状遺構01	N-29° -W	10.5	0.48	—
段状遺構02	N-55° -W	3.95	1.37	31.0
段状遺構03	N-29° -W	4.68	46.0	100.0
段状遺構04	N-56° -W	4.10	63.0	35.0

第31表 大型遺構計測表

遺構名	主軸	長さ(m)	幅(m)	深さ(cm)
大溝	N-43.5° -E	17.9	23.0	1.06
水場	N-45.5° -E	28.3	0.6	1.48

遺構名	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	周長さ(m)	面積(m ²)	体積(m ³)
粘土採取場	67.3	39.0	平均1.08	215.8	2910.6	3143.5

第32表 不明遺構01計測表

遺構名	主軸	土器わく直徑(cm)	縦(cm)	横(cm)	深さ(cm)
不明遺構01	N-31.5° -W	70.0	1.55	1.12	56.5

第33表 1・2号道計測表

1号道

形態	等高線に沿う円弧型		
主軸	N-50.5° -W	標高(m)	24.8
全長(m)	13.6	全幅(m)	—
路面幅(m)	—	路面角度(度)	—
左側溝幅(cm)	82.0	右側溝幅(cm)	—
左溝底幅(cm)	30.0	右溝底幅(cm)	—
左溝深(cm)	約9	右溝深(cm)	—

計測値は凡そ平均値である

2号道

形態	等高線に沿うL字型		
主軸	N-56° -W	標高(m)	24.5
全長(m)	35.62	全幅(m)	1.68
路面幅(m)	70.0	路面角度(度)	8°
左側溝幅(cm)	49.0	右側溝幅(cm)	50.0
左溝底幅(cm)	24.0	右溝底幅(cm)	16.0
左溝深(cm)	約4	右溝深(cm)	—

計測値は凡そ平均値である

第34表 潤物観察表(1)

編號	植物	地名	通稱	土質(m)	種別	樹種	科属	口徑	最大径	樹高	樹周	出土	色調	漬成	内	外	時代	備考
25256	1	A 1 号	セイタガサ	聖苔湯	泥炭土層	混合土層	混合口苔	口苔無葉化する。	10.2	3.9~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代		
25257	2	A 1 号	セイタガサ	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	16.3	4.5~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25258	3	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	20.7	5.0~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25259	4	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	15.0	5.1~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25260	5	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	1.8~	1.8~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25261	6	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	14.3	3.8~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25262	7	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	11.8	2.9~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25263	8	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	13.0	4.1~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25264	9	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	20.1	4.2~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25265	10	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	4.5~	4.5~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25266	11	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	12.9	3.6~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25267	12	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	12.7	4.1~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25268	13	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	13.2	3.3~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25269	14	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	14.9	4.8~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25270	15	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	14.3	2.8~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25271	16	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	15.3	6.7~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25272	17	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	19.6	3.3~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25273	18	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	14.2	3.1~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25274	19	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	13.0	3.3~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25275	20	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	12.5	5.4~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25276	21	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	17.0	3.7~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25277	22	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	16.6	3.9~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25278	23	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	13.0	4.2~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25279	24	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	29.3	7.1~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25280	25	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	16.2	4.9~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25281	26	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	3.8~	6.4	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25282	27	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	5.6~	6.6~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25283	28	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	2.5~	2.5~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		
25284	29	A 1 号	聖苔湯	聖苔湯	泥炭土層	混合口苔	混合無葉化する。	4.7~	4.7~	やや暗い緑の下の 色合をもつ。	濃緑色	濃成	内	外	新代	ミコナデ・園田絵文 V - 3		

第35表 遺物觀察表(2)

第36表 遺物観察表(3)

番号	品名	場所	地区	遺構	土質、地	柱脚	網膜	特徴	口径	腹大径	厚さ	底径	出土	色調	既成	内	外	時代	備考
第558	55	A 1 区	寺六住跡33	覆土	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。開孔。		1.5~	1.5~	0.5~	1.5~	泥付かず。灰白色。	焼けたし。黒化	ナゲ	ナゲ	ナゲ	後半後周文化	温床灰
第559	56	A 1 区	寺六住跡33	覆土	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。		1.1~	1.1~	0.5~	1.1~	泥付かず。灰白色。	焼けたし。黒化	ナゲ	ナゲ	ナゲ	後半後周文化	温床灰
第560	57	A 1 区	寺六住跡33	覆土	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。		1.9~	1.2~	0.5~	1.9~	泥付かず。灰白色。	焼けたし。黒化	ナゲ	ナゲ	ナゲ	後半後周文化	温床灰
第561	58	A 1 区	寺六住跡33	覆土	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。開孔。		2.5~	2.5~	0.5~	2.5~	泥付かず。灰白色。	焼けたし。黒化	ナゲ	ナゲ	ナゲ	後半後周文化	温床灰
第562	59	A 1 区	寺六住跡33	覆土	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。開孔。		3.6~	2.6~	0.5~	3.6~	泥付かず。灰白色。	焼けたし。黒化	ナゲ	ナゲ	ナゲ	後半後周文化	温床灰
第563	60	A 1 区	寺六住跡33	覆土	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。開孔。		4.5~	3.2~	0.5~	4.5~	泥付かず。灰白色。	焼けたし。黒化	ナゲ	ナゲ	ナゲ	後半後周文化	温床灰
第564	61	A 1 区	寺六住跡33	覆土	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。開孔。		3.5~	2.4~	0.5~	3.5~	泥付かず。灰白色。	焼けたし。黒化	ナゲ	ナゲ	ナゲ	後半後周文化	温床灰
第565	62	A 1 区	寺六住跡33	覆土	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。開孔。		5.3~	4.0~	0.5~	5.3~	泥付かず。灰白色。	焼けたし。黒化	ナゲ	ナゲ	ナゲ	後半後周文化	温床灰
第566	63	A 1 区	寺六住跡34	0001 罐	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。		17.0	15.4~	2.0~	17.0	泥付かず。灰白色。	不規則な黒化。	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ヨコナゲ	温床灰
第567	64	A 1 区	寺六住跡34	0001 罐	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。		9.9~	4.2~	2.0~	9.9~	泥付かず。灰白色。	不規則な黒化。	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ヨコナゲ	温床灰
第568	65	A 1 区	寺六住跡34	0001 罐	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。		2.3~	2.3~	2.0~	2.3~	泥付かず。灰白色。	不規則な黒化。	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ヨコナゲ	温床灰
第569	66	A 1 区	寺六住跡34	0001 罐	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。		12.0	2.9~	2.0~	12.0	泥付かず。灰白色。	不規則な黒化。	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ヨコナゲ	温床灰
第570	67	A 1 区	寺六住跡34	0001 罐	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。		4.3~	2.7~	2.0~	4.3~	泥付かず。灰白色。	不規則な黒化。	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ヨコナゲ	温床灰
第571	68	A 1 区	寺六住跡34	0001 罐	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。		3.5~	2.5~	2.0~	3.5~	泥付かず。灰白色。	不規則な黒化。	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ヨコナゲ	温床灰
第572	69	A 1 区	寺六住跡34	0001 罐	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。		21.6	5.5~	2.0~	21.6	泥付かず。灰白色。	不規則な黒化。	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ヨコナゲ	温床灰
第573	70	A 1 区	寺六住跡34	0001 罐	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。		17.2	5.2~	2.0~	17.2	泥付かず。灰白色。	不規則な黒化。	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ヨコナゲ	温床灰
第574	71	A 1 区	寺六住跡34	14	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。		4.3~	2.7~	2.0~	4.3~	泥付かず。灰白色。	不規則な黒化。	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ヨコナゲ	温床灰
第575	72	A 1 区	寺六住跡34	13	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。		3.1~	2.5~	2.0~	3.1~	泥付かず。灰白色。	不規則な黒化。	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ヨコナゲ	温床灰
第576	73	A 1 区	寺六住跡34	13	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。		2.0~	1.8~	2.0~	2.0~	泥付かず。灰白色。	不規則な黒化。	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ヨコナゲ	温床灰
第577	74	A 1 区	寺六住跡34	8	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。		19.4~	12.2~	2.0~	19.4~	泥付かず。灰白色。	不規則な黒化。	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ヨコナゲ	温床灰
第578	75	A 1 区	寺六住跡34	14	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。		8.7~	1.6~	2.0~	8.7~	泥付かず。灰白色。	不規則な黒化。	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ヨコナゲ	温床灰
第579	76	A 1 区	寺六住跡34	13	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。		11.5	3.5~	2.0~	11.5	泥付かず。灰白色。	不規則な黒化。	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ヨコナゲ	温床灰
第580	77	A 1 区	寺六住跡34	13	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。		3.8~	2.5~	2.0~	3.8~	泥付かず。灰白色。	不規則な黒化。	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ヨコナゲ	温床灰
第581	78	A 1 区	寺六住跡34	13	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。		11.7	4.2~	2.0~	11.7	泥付かず。灰白色。	不規則な黒化。	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ヨコナゲ	温床灰
第582	79	A 1 区	寺六住跡34	13	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。		5.2~	4.2~	2.0~	5.2~	泥付かず。灰白色。	不規則な黒化。	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ヨコナゲ	温床灰
第583	80	A 1 区	寺六住跡34	13	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。		16.5	4.2~	2.0~	16.5	泥付かず。灰白色。	不規則な黒化。	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ヨコナゲ	温床灰
第584	81	A 1 区	寺六住跡34	13	先生土器	灰灰	粗面網膜を張つ。		22.2	3.6~	2.0~	22.2	泥付かず。灰白色。	不規則な黒化。	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ヨコナゲ	温床灰

第37表「遺物類表(4)」

件番	通称	地区	遺跡	種別	断面	特徴	口径	最大径	器形	底形	底径	内	外	時代	備考
第548	金号	水原	土塁	築	合口	合口縁張り底が傾く。	12.7	5.0~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=4	やや膨らみ有り。
第549	82	A I 区	里六郷④	壠土	特殊	合口縁張り底が傾く。	12.7	4.3~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=4	やや膨らみ有り。
第550	83	A I 区	里六郷⑤	壠土	特殊	合口縁張り底が傾く。	14.4	4.3~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=4	やや膨らみ有り。
第551	84	A I 区	里六郷⑦	壠土	土塁	合口縁張り底が傾く。	14	2.9~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=4	やや膨らみ有り。
第552	85	A I 区	里六郷⑨	壠土	土塁	合口縁張り底が傾く。	17.3	4.6~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=4	やや膨らみ有り。
第553	86	A I 区	里六郷⑩	壠土	土塁	合口縁張り底が傾く。	10.9	3.5~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=4	やや膨らみ有り。
第554	87	A I 区	里六郷⑪	壠土	土塁	合口縁張り底が傾く。	19.3	5.0~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=4	やや膨らみ有り。
第555	88	A I 区	里六郷⑫	壠土	土塁	合口縁張り底が傾く。	17	6.4~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=4	やや膨らみ有り。
第556	89	A I 区	里六郷⑬	壠土	土塁	合口縁張り底が傾く。	17	1.5~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=4	やや膨らみ有り。
第557	90	A I 区	里六郷⑭	壠土	土塁	合口縁張り底が傾く。	17	2.0~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=4	やや膨らみ有り。
第558	91	A I 区	里六郷⑮	小中土塁	土塁	合口縁張り底が傾く。	17	1.8~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=4	やや膨らみ有り。
第559	92	A I 区	里六郷⑯	壠土	土塁	合口縁張り底が傾く。	17	5.0~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=4	やや膨らみ有り。
第560	93	A I 区	土塁裏①	土塁裏	土塁裏	合口縁張り底が傾く。	27.0	1.4~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=4	やや膨らみ有り。
第561	94	A I 区	土塁裏②	土塁裏	土塁裏	合口縁張り底が傾く。	23.7	3.0~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=4	やや膨らみ有り。
第562	95	A II 区	里六郷⑯	土塁裏	土塁裏	合口縁張り底が傾く。	9.3	2.5~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=2	やや膨らみ有り。
第563	96	A II 区	里六郷⑰	土塁裏	土塁裏	合口縁張り底が傾く。	13.6	5.3~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=2	やや膨らみ有り。
第564	97	A II 区	里六郷⑱	土塁裏	土塁裏	合口縁張り底が傾く。	3.0~	6.0~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=2~3	やや膨らみ有り。
第565	98	A II 区	里六郷⑲	土塁裏	土塁裏	合口縁張り底が傾く。	2.9~	5.0~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=2	やや膨らみ有り。
第566	99	A II 区	里六郷⑳	土塁裏	土塁裏	合口縁張り底が傾く。	17.4	3.5~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=2	やや膨らみ有り。
第567	100	A II 区	里六郷㉑	土塁裏	土塁裏	合口縁張り底が傾く。	12.9	4.2~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=2~3	やや膨らみ有り。
第568	101	A II 区	里六郷㉒	土塁裏	土塁裏	合口縁張り底が傾く。	14.0	3.4~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=3	やや膨らみ有り。
第569	102	A II 区	里六郷㉓	土塁裏	土塁裏	合口縁張り底が傾く。	13.6	4.7~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=2~3	やや膨らみ有り。
第570	103	A II 区	里六郷㉔	土塁裏	土塁裏	合口縁張り底が傾く。	12.9	3.3~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=2~3	やや膨らみ有り。
第571	104	A II 区	里六郷㉕	土塁裏	土塁裏	合口縁張り底が傾く。	10.2	4.0~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=3	やや膨らみ有り。
第572	105	A II 区	里六郷㉖	土塁裏	土塁裏	合口縁張り底が傾く。	19.4	2.9~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=3	やや膨らみ有り。
第573	106	A II 区	里六郷㉗	土塁裏	土塁裏	合口縁張り底が傾く。	21.5	2.5~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=4	やや膨らみ有り。
第574	107	A II 区	里六郷㉘	土塁裏	土塁裏	合口縁張り底が傾く。	3.7~	2.7~	やや厚めの円形	圓錐形	丸たて風化	ココナツ	ヨコナツ	V=2~3	やや膨らみ有り。

第38表 遺物観察表(5)

番号	法身	地名	遺跡	土厚, m	種別	断面	特徴	口径	最大径	高さ	直径	出土	色調	集成	内	外	時代	備考
第5539	108	A II Ⅲ	第六住居④	土盛裏	住人土器	砂無土器	口部内側に凹部有り、底は丸く、右側にハサマ下端まである。	13.6	48.4	32.0	30.6	やや青、灰褐色の釉	淡青白色	やや青、濃化し	ヨコナテバタケズリ	V-4	中土器類、漆器(10.漆器)10とセラ・住居裏	
第5498	109	A II Ⅲ	第六住居⑨	中身土坑	住人土器	複合口縦縫	複合口縦縫を有するが、左側に直縫がある。	18.5	26.5	34.0	4.5	やや青、灰褐色の釉	淡青白色	やや青、濃化し	ヨコナテバタケズリ	V-4	内にスレ・内壁化。	
第5540	110	A II Ⅲ	第六住居⑩	土盛裏	住人土器	複合口縦縫	複合口縦縫を有するが、左側に直縫がある。	25.7	8.3-	-	-	やや青、灰褐色の釉	淡青白色	やや青、濃化して	ヨコナテバタケズリ	V-4	ヘラケズリ	
第5541	111	A II Ⅲ	第六住居⑪	中身土坑	住人土器	複合口縦縫	複合口縦縫を有するが、左側に直縫がある。	13.7	52.0	30.7	42.5	やや青、灰褐色の釉	淡青白色	やや青、濃化して	ヨコナテバタケズリ	V-4	ヨコナテバタケズリ	
第5542	112	A II Ⅲ	第六住居⑫	中身土坑	住人土器	複合口縦縫	複合口縦縫を有するが、左側に直縫がある。	20.8	16.5-	-	-	やや青、灰褐色の釉	淡青白色	やや青、濃化して	ヨコナテバタケズリ	V-4	ト・在住裏にて発見。	
第5543	113	A II Ⅲ	第六住居⑬	中身土坑	住人土器	複合口縦縫	複合口縦縫を有するが、左側に直縫がある。	22.4	7.0-	-	-	やや青、灰褐色の釉	淡青白色	やや青、濃化して	ヨコナテバタケズリ	V-4	中身土坑、漆器(10.漆器)10とセラ・住居裏	
第5544	114	A II Ⅲ	第六住居⑭	中身土坑	住人土器	複合口縦縫	複合口縦縫を有するが、左側に直縫がある。	25.8	28.9-	-	-	やや青、灰褐色の釉	淡青白色	やや青、濃化して	ヨコナテバタケズリ	V-4	漆器(10.漆器)10とセラ・住居裏	
第5545	115	A II Ⅲ	第六住居⑮	中身土坑	住人土器	複合口縦縫	複合口縦縫を有するが、左側に直縫がある。	24.1	16.0-	-	-	やや青、灰褐色の釉	淡青白色	やや青、濃化して	ヨコナテバタケズリ	V-4	漆器(10.漆器)10とセラ・住居裏	
第5546	116	A II Ⅲ	第六住居⑯	床面	住人土器	複合口縦縫	複合口縦縫を有するが、左側に直縫がある。	25.9	11.5-	5.1	全長 5.1 幅員 2.4 厚さ 0.5	全厚 5.5 全幅 1.9 厚さ 0.5	白	白	白	ヨコナテバタケズリ	V-4	内にスレ・内壁化。
第5547	117	A II Ⅲ	第六住居⑰	北西	住人土器	複合口縦縫	複合口縦縫を有するが、左側に直縫がある。	15.0	3.1-	-	-	やや青、灰褐色の釉	淡青白色	やや青、濃化して	ヨコナテバタケズリ	V-4	内にスレ・内壁化。	
第5548	118	A II Ⅲ	第六住居⑱	北西	住人土器	複合口縦縫	複合口縦縫を有するが、左側に直縫がある。	17.5	2.1-	-	-	やや青、灰褐色の釉	淡青白色	やや青、濃化して	ヨコナテバタケズリ	V-4	内にスレ・内壁化。	
第5549	119	A II Ⅲ	第六住居⑲	北西	住人土器	複合口縦縫	複合口縦縫を有するが、左側に直縫がある。	18.4	4.4-	-	-	やや青、灰褐色の釉	淡青白色	やや青、濃化して	ヨコナテバタケズリ	V-4	内にスレ・内壁化。	
第5550	120	A II Ⅲ	第六住居⑳	床面	住人土器	複合口縦縫	複合口縦縫を有するが、左側に直縫がある。	21.4	2.6-	-	-	やや青、灰褐色の釉	淡青白色	やや青、濃化して	ヨコナテバタケズリ	V-4	内にスレ・内壁化。	
第5551	121	A II Ⅲ	第六住居㉑	床面裏含蓋	住人土器	複合口縦縫	複合口縦縫を有するが、左側に直縫がある。	13.0	3.0-	-	-	やや青、灰褐色の釉	淡青白色	やや青、濃化して	ヨコナテバタケズリ	V-2	内にスレ・内壁化。	
第5552	122	A II Ⅲ	第六住居㉒	床面	住人土器	複合口縦縫	複合口縦縫を有するが、左側に直縫がある。	12.4	3.0-	-	-	やや青、灰褐色の釉	淡青白色	やや青、濃化して	ヨコナテバタケズリ	V-2	内にスレ・内壁化。	
第5553	123	A II Ⅲ	第六住居㉓	床面	住人土器	複合口縦縫	複合口縦縫を有するが、左側に直縫がある。	13.4	3.2-	-	-	やや青、灰褐色の釉	淡青白色	やや青、濃化して	ヨコナテバタケズリ	V-2	内にスレ・内壁化。	
第5554	124	A II Ⅲ	第六住居㉔	床面	住人土器	複合口縦縫	複合口縦縫を有するが、左側に直縫がある。	19.2	4.5-	-	-	やや青、灰褐色の釉	淡青白色	やや青、濃化して	ヨコナテバタケズリ	V-2	内にスレ・内壁化。	
第5555	125	A II Ⅲ	第六住居㉕	クロ	住人土器	複合口縦縫	複合口縦縫を有するが、左側に直縫がある。	12.0	3.0-	-	-	やや青、灰褐色の釉	淡青白色	やや青、濃化して	ヨコナテバタケズリ	V-2	内にスレ・内壁化。	
第5556	126	A II Ⅲ	第六住居㉖	床面裏含蓋	住人土器	複合口縦縫	複合口縦縫を有するが、左側に直縫がある。	17.1	3.3-	-	-	やや青、灰褐色の釉	淡青白色	やや青、濃化して	ヨコナテバタケズリ	V-2	内にスレ・内壁化。	
第5557	127	A II Ⅲ	第六住居㉗	床面	住人土器	複合口縦縫	複合口縦縫を有するが、左側に直縫がある。	11.7	3.8-	-	-	やや青、灰褐色の釉	淡青白色	やや青、濃化して	ヨコナテバタケズリ	V-2	内にスレ・内壁化。	
第5558	128	A II Ⅲ	第六住居㉘	床面裏含蓋	住人土器	複合口縦縫	複合口縦縫を有するが、左側に直縫がある。	15.6	5.0-	-	-	やや青、灰褐色の釉	淡青白色	やや青、濃化して	ヨコナテバタケズリ	V-2	内にスレ・内壁化。	
第5559	129	A II Ⅲ	第六住居㉙	床面裏含蓋	住人土器	複合口縦縫	複合口縦縫を有するが、左側に直縫がある。	12.0	2.9-	-	-	やや青、灰褐色の釉	淡青白色	やや青、濃化して	ヨコナテバタケズリ	V-2	内にスレ・内壁化。	
第5560	130	A II Ⅲ	第六住居㉚	床面裏含蓋	住人土器	複合口縦縫	複合口縦縫を有するが、左側に直縫がある。	15.4	2.7-	-	-	やや青、灰褐色の釉	淡青白色	やや青、濃化して	ヨコナテバタケズリ	V-3	内にスレ・内壁化。	

第39表「遺物觀察表(6)」

番号	品名	地区	遺傳	土種類	種別	固形	口徑	最大径	幅高	厚さ	出土	色調	性質	内	外	時代	備考
第59号	132	A II 区	第六五层11	北系含金層	生土層	混合口部黒鐵、灰白色 又は黒。	16.0	2.9~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やや青白、風化色 している。	ココナツ ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-2				
第59号	133	A II 区	第六五层11	南系	生土層	混合口部黒鐵 認めめる。	13.3	5.0~	やや薄い黒鐵色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-3				
第59号	134	A II 区	第六五层11	北系	生土層	混合口部黒鐵、灰白色 又は黒。	16.2	4.6~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-2				
第59号	135	A II 区	第六六层11	西系含金層	生土層	混合口部黒鐵 認めめる。	14.9	3.5~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-2				
第59号	136	A II 区	第六六层11	黒土	生土層	混合口部黒鐵、灰白色 又は黒。	15.7	4.4~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-2				
第59号	137	A II 区	第六六层11	6	生土層	混合口部黒鐵 認めめる。	21.9	4.5~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-2				
第59号	138	A II 区	第六六层11	5	生土層	混合口部黒鐵 認めめる。	15.2	3.7~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-2				
第59号	139	A II 区	第六六层11	南系	生土層	混合口部黒鐵 認めめる。	14.9	4.7~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-2				
第59号	140	A II 区	第六六层11	床鋪	生土層	混合口部黒鐵、灰白色 又は黒。	18.3	3.7~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-2				
第59号	141	A II 区	第六六层11	6	生土層	混合口部黒鐵 認めめる。	22.4	5.2~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-2				
第59号	142	A II 区	第六六层11	床鋪	生土層	混合口部黒鐵 認めめる。	16.2	5.5~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-2				
第59号	143	A II 区	第六六层11	所	生土層	混合口部黒鐵 認めめる。	17.1	4.2~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-2				
第59号	144	A II 区	第六六层11	西系含金層	生土層	混合口部黒鐵、灰白色 又は黒。	13.5	3.7~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-2				
第59号	145	A II 区	第六六层11	日本古含金層	生土層	混合口部黒鐵 又は黒。	14.1	3.4~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-2				
第59号	146	A II 区	第六六层11	1	生土層	混合口部黒鐵 又は黒。	15.5	4.0~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-2				
第59号	147	A II 区	第六六层11	43号北端	生土層	混合口部黒鐵 認めめる。	18.3	5.6~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-2				
第59号	148	A II 区	第六六层11	西系含金層	生土層	混合口部黒鐵、灰白色 又は黒。	12.0	4.0~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-3				
第59号	149	A II 区	第六六层11	北系	生土層	混合口部黒鐵 認めめる。	14.5	3.8~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-3				
第59号	150	A II 区	第六六层11	西系含金層	生土層	混合口部黒鐵 認めめる。	14.4	3.8~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-2				
第59号	151	A II 区	第六六层11	14	生土層	混合口部黒鐵 認めめる。	16.4	5.1~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-3				
第59号	152	A II 区	第六六层11	所	生土層	混合口部黒鐵、灰白色 又は黒。	17.3	4.8~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-3				
第59号	153	A II 区	第六六层11	1	生土層	混合口部黒鐵 認めめる。	19.8	4.7~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-3				
第59号	154	A II 区	第六六层11	1	生土層	混合口部黒鐵 認めめる。	25.0	6.8~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-3				
第59号	155	A II 区	第六六层11	所	生土層	混合口部黒鐵 認めめる。	5.5~	5.5~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-3				
第59号	156	A II 区	第六六层11	53	生土層	混合口部黒鐵 認めめる。	17.0	6.0~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-2~3				
第60号	157	A II 区	第六六层11	33~34系	生土層	混合口部黒鐵 認めめる。	18.4	6.0~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-3				
第60号	158	A II 区	第六六层11	16	生土層	混合口部黒鐵 認めめる。	13.0	5.1~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-2~3				
第60号	159	A II 区	第六六层11	西系含金層	生土層	混合口部黒鐵 認めめる。	4.2~	4.2~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-3				
第60号	160	A II 区	第六六层11	西系含金層	生土層	混合口部黒鐵 認めめる。	13.0	3.8~	やや薄い青灰色の分離 表面色。	やだらし黒鐵色 している。	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	ヨコナツ型圓筒狀 ヘラクゼリ	V-3				

第40表 週物観察(表7)

番号	名前	地名	通稱	土居 No.	種別	器種	特徴	口袋	露大達	露高	露深	露土	色調	塊成	内	外	時代	備考
第619	161	A II 区	堅六住屋1	堅六住屋1	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋	15.2	4.1~	やや黄、2m以下の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-3	堅田地盤		
第620	162	A II 区	堅六住屋1	38	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	17.5	3.7~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-2			
第621	163	A II 区	堅六住屋1		堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	15.0	3.7~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-3			
第622	164	A II 区	堅六住屋1	34	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	14.9	4.2~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-3			
第623	165	A II 区	堅六住屋1	西堅合金層1	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	16.3	3.5~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-3			
第624	166	A II 区	堅六住屋1	北	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	18.6	5.5~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-3	ゆがみ有り。		
第625	167	A II 区	堅六住屋1	2	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	25.9	7.0~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-4			
第626	168	A II 区	堅六住屋1	未記	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	16.0	4.5~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-4			
第627	169	A II 区	堅六住屋1	未記	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	16.3	4.0~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-4			
第628	170	A II 区	堅六住屋1	未記3	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	16.2	6.3~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-4			
第629	171	A II 区	堅六住屋1	未記4	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	13.9	3.5~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-4			
第630	172	A II 区	堅六住屋1	未記	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	14.6	3.8~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-4			
第631	173	A II 区	堅六住屋1	未記	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	13.7	6.1~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-4			
第632	174	A II 区	堅六住屋1	未記	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	12.7	3.2~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-4			
第633	175	A II 区	堅六住屋1	29	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	12.9	3.5~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-4			
第634	176	A II 区	堅六住屋1	21	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	17.0	5.3~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-4			
第635	177	A II 区	堅六住屋1	北	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	13.1	4.3~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-4			
第636	178	A II 区	堅六住屋1	未記	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	15.5	4.8~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-4			
第637	179	A II 区	堅六住屋1	34	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	13.6	4.1~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-4			
第638	180	A II 区	堅六住屋1	未記	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	17.1	3.3~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-4			
第639	181	A II 区	堅六住屋1	23	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	13.5	1.7~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-4			
第640	182	A II 区	堅六住屋1	未記	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	15.6	4.8~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-4			
第641	183	A II 区	堅六住屋1	19	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	15.5	4.5~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-4			
第642	184	A II 区	堅六住屋1	14.黒褐色	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	17.7	6.0~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-4			
第643	185	A II 区	堅六住屋1	未記	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	15.3	3.8~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-4			
第644	186	A II 区	堅六住屋1	4	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	18.4	5.0~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-4			
第645	187	A II 区	堅六住屋1	79	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	23.6	4.7~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-4			
第646	188	A II 区	堅六住屋1	未記	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	19.9	4.0~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-4			
第647	189	A II 区	堅六住屋1	37	堅生土居	複合口袋型	堅合口袋堅厚先鋒ある。	21.4	5.0~	やや黄、2m以上の力	乳白色	やや黄、黒化し	ヨコナデ	露田文	Y-4			

第41表 遺物類表(8)

番号	品物	地区	油漆	土漆	漆用	糊用	漆用	口用	器大體	器系	規格	施工	色調	漬灰	内	外	時代	備考
第6125	190	A II 区	笠穴住居11	土塗	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.5	4.4~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 4		
第6126	191	A II 区	笠穴住居11	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	5.0~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 4		
第6127	192	A II 区	笠穴住居11	土塗	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	4.5~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 4		
第6128	193	A II 区	笠穴住居11	土塗	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	2.8~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 2~3		
第6129	194	A II 区	笠穴住居11	土塗	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	3.2~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 4		
第6130	195	A II 区	笠穴住居11	土塗	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	2.5~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 2~3		
第6131	196	A II 区	笠穴住居11	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	1.7~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 2~3		
第6132	197	A II 区	笠穴住居11	土塗	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	1.6~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 4		
第6133	198	A II 区	笠穴住居11	土塗	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	6.5~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 2~4		
第6134	199	A II 区	笠穴住居11	9	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	6.6~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 2		
第6135	200	A II 区	笠穴住居11	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	2.0~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 3~4		
第6136	201	A II 区	笠穴住居11	土塗	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	2.5~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 4		
第6137	202	A II 区	笠穴住居11	7	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	15.9~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 2~3		
第6138	203	A II 区	笠穴住居11	7	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	3.9~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 2		
第6139	204	A II 区	笠穴住居11	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	4.0~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 4		
第6140	205	A II 区	笠穴住居11	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	3.7~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	(風化)失形		
第6141	206	A II 区	笠穴住居11	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	3.5~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 2~3		
第6142	207	A II 区	笠穴住居11	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	21.0	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 2~3		
第6143	208	A II 区	笠穴住居11	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	6.0~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 2~3		
第6144	209	A II 区	笠穴住居11	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	16.0~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 2~3		
第6145	210	A II 区	笠穴住居11	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	18.5~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 3		
第6146	211	A II 区	笠穴住居11	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	18.5~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 3		
第6147	212	A II 区	笠穴住居11	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	4.5~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 4		
第6148	213	A II 区	笠穴住居11	7	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	4.5~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 3		
第6149	214	A II 区	笠穴住居11	7	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	1.6~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 2~3		
第6150	215	A II 区	笠穴住居11	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	18.5~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	V - 1~2		
第6151	216	A II 区	笠穴住居11	漆生土漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	漆合口糊漆	20.8	4.0~	やや濃い茶褐色	漆合口糊漆	やや濃い茶褐色	ヨコナフ	ヨコナフ	失形		

第42表 遺物観察表(9)

番号	品物	部類	遺構	土質	種別	特徴	口径	底径	高さ	幅	厚	内	外	時代	備考
第628	217	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	不明	表面無傷。なめらか。	3.7~	10.0	やや薄	褐色	黒点打たし風呂ヒ	サガリ	ヨコナデ	内削にスス。
第629	218	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	14.2	7.5~	やや薄	褐色の特徴	褐色	やわらか	ヘラクゼリ	ヨコナデ・タテハ	
第630	219	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	14.0	3.4~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第631	220	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	14.0	3.6~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第632	221	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	14.0	6.9~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ・ハケメ	ヨコナデ	古墳中期	
第633	222	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	15.6	7.8~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヘラクゼリ	ヨコナデ・ヨコナデ	古墳中期	
第634	223	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	15.6	7.0~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第635	225	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	15.6	4.8~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第636	226	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	15.6	3.2~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第637	227	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	15.6	6.6~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第638	228	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	14.3	20.0~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第639	229	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	15.0	7.7~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヘラクゼリ	ヘラクゼリ	不明	
第640	230	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	12.2	6.4~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第641	231	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	15.0	1.8~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第642	232	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	9.9	4.5~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第643	233	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	7.4	4.2~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第644	234	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	10.6	5.6~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第645	235	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	9.2	7.5~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第646	236	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	5.6	5.7~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第647	237	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	2.8~	2.8~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第648	238	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	2.8~	0.9~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第649	239	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	3.8~	0.9~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第650	240	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	3.0~	0.9~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第651	241	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	3.4~	0.9~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第652	242	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	16.0	4.0~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第653	243	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	19.4	4.2~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第654	244	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	17.3	4.5~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	
第655	245	A II Ⅲ	堅六角錐	土質	上層	表面無傷。なめらか。	1.5~	1.5~	やや薄	褐色の特徴	褐色	ヨコナデ	ヨコナデ	古墳中期	

第43表 遺物觀察表(1)

番号	通名	地名	道路	土面	種別	特徴	口径	最大幅	最小	開削	土	色調	底質	内	外	耕作	灌漑
新規206	A.11区	豊六北側02	4	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	22.6	4.7-	3.5-	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	不明	平均	古墳中間	古墳中間	
新規247	A.11区	豊六北側02	7	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	2	4.7-	3.5-	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	不明	平均	古墳中間	古墳中間	
新規248	A.11区	豊六北側02	3	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	4	4.7-	3.5-	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	ナメ	ハイドナメ	古墳中間	古墳中間	
新規249	A.11区	豊六北側02	6	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	5.0-	5.0-	5.0-	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	ナメ	ハイドナメ	古墳中間	古墳中間	
新規250	A.11区	豊六北側02	1	土耕層	露井	日向陽風が吹く、好み出す、	17.7	4	6.7-	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	不明	ミコナデ	古墳中間	古墳中間	
新規251	A.11区	豊六北側02	13	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	6.7-	6.7-	5.0-	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	ミコナデ	ミコナデ	古墳中間	古墳中間	
新規252	A.11区	豊六北側02	1	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	14.7	3.5-	3.5-	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	不明	平均	古墳中間	古墳中間	
新規253	A.11区	豊六北側02	1	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	3.0-	3.0-	3.0-	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	不明	平均	古墳中間	古墳中間	
新規254	A.11区	豊六北側02	1	土耕層	露井	日向陽風が吹く、好み出す、	2.8-	9.5	9.5	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	不明	ハイド	古墳中間	古墳中間	
新規255	A.11区	豊六北側02	21	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	5.0-	5.0-	5.0-	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	不明	平均	古墳中間	古墳中間	
新規256	A.11区	豊六北側02	1	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	4.4-	4.4-	4.4-	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	平均	平均	古墳中間	古墳中間	
新規257	A.11区	豊六北側02	1	土耕層	露井	日向陽風が吹く、好み出す、	9.3-	12.2	12.2	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	不明	平均	古墳中間	古墳中間	
新規258	A.11区	豊六北側02	1	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	2.5-	13.6	13.6	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	不明	平均	古墳中間	古墳中間	
新規259	A.11区	豊六北側02	1	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	5.0-	5.0-	5.0-	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	不明	平均	古墳中間	古墳中間	
新規260	A.11区	豊六北側02	1	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	5.4-	5.4-	5.4-	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	不明	平均	古墳中間	古墳中間	
新規261	A.11区	豊六北側02	1	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	5.4-	5.4-	5.4-	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	不明	平均	古墳中間	古墳中間	
新規262	A.11区	豊六北側02	1	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	2.6-	12.2	12.2	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	不明	平均	古墳中間	古墳中間	
新規263	A.11区	豊六北側02	1	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	17.2	4.5-	4.5-	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	不明	平均	古墳中間	古墳中間	
新規264	A.11区	豊六北側02	1	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	1.5-	3.4	3.4	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	不明	平均	古墳中間	古墳中間	
新規265	A.11区	豊六北側02	1	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	1.6-	2.6	2.6	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	不明	平均	古墳中間	古墳中間	
新規266	A.11区	豊六北側02	1	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	1.6-	2.6	2.6	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	不明	平均	古墳中間	古墳中間	
新規267	A.11区	豊六北側02	1	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	1.7-	1.7-	1.7-	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	不明	平均	古墳中間	古墳中間	
新規268	A.11区	豊六北側02	1	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	1.7-	1.7-	1.7-	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	不明	平均	古墳中間	古墳中間	
新規269	A.11区	豊六北側02	1	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	1.8-	1.8-	1.8-	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	不明	平均	古墳中間	古墳中間	
新規270	A.11区	豊六北側02	1	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	5.4-	5.4-	5.4-	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	ナメ	ハイドナメ	古墳中間	古墳中間	
新規271	A.11区	豊六北側02	1	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	6.8-	6.8-	6.8-	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	クズリ	平均	古墳中間	古墳中間	
新規272	A.11区	豊六北側02	1	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	8.0-	8.0-	8.0-	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	不明	平均	古墳中間	古墳中間	
新規273	A.11区	豊六北側02	1	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	11.4-	11.4-	11.4-	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	ナメ	ハイドナメ	古墳中間	古墳中間	
新規274	A.11区	豊六北側02	1	土耕層	露井	日向陽風が吹く、	10.2-	10.2-	10.2-	を削る、	やや赤褐色の砂質、	暗・だし出し	不明	平均	古墳中間	古墳中間	

第44表 遺物観察表(1)

番号	品名	地区	温病	土厚法	種別	属性	特徴	口径	最大深	幅	高さ	附土	色調	構成	内	外	時代	備考
第656	273	A II 区	蛇穴田鼠	麻薬	牛糞土層	豊饒台	二枚貝貝殻文	3.8-	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	やや黄・褐色化し 青白	ヨコナギテ・ホク貝	ヨコナギテ・ホク貝	V-3-V-4		
第657	278	A II 区	蛇穴田鼠	麻薬	牛糞土層	豊饒台	貝殻文	10.0-	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ヘリケツリ	ヘリケツリ	V-2-V-3		
第658	277	A II 区	蛇穴田鼠	白木合脂	牛糞土層	豊饒台	貝殻文	9.0-	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ヘリケツリ	ヘリケツリ	V-4		
第659	278	A II 区	蛇穴田鼠	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	18.4	-	-	-	薄・2輪繩の形を含む 淡米白色	やや黄・褐色化し 青白	ヨコナギテ・ホク貝	ヨコナギテ・ホク貝	V-3-V-4		
第660	279	A II 区	蛇穴田鼠	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	17.0	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	やや黄・褐色化し 青白	ヨコナギテ・ホク貝	ヨコナギテ・ホク貝	V-2-V-3		
第661	280	A II 区	蛇穴田鼠	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	11	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ヘリケツリ	ヘリケツリ	V-4		
第662	281	A II 区	蛇穴田鼠	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	9.0	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ヘリケツリ	ヘリケツリ	V-4		
第663	282	A II 区	蛇穴田鼠	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	4	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ヘリケツリ	ヘリケツリ	V-4		
第664	283	A II 区	蛇穴田鼠	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	1	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ヘリケツリ	ヘリケツリ	V-4		
第665	284	A I 区	蛇穴田鼠	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	8.2	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ヘリケツリ	ヘリケツリ	V-4		
第666	285	A I 区	蛇穴田鼠	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	14	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ヘリケツリ	ヘリケツリ	V-4		
第667	286	A I 区	蛇穴田鼠	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	15.0	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ヘリケツリ	ヘリケツリ	V-4		
第668	287	CYBG	黒休眠切	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	17.5	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ヨコナギテ	ヨコナギテ	古墳中期		
第669	288	CYBG	黒休眠切	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	8.2	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ナゾ	ナゾ	古墳中期		
第670	289	A II 区	土器小口1	土灰-2	1輪繩	御衣黄	高台が行く	14	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ナゾ	ナゾ	古墳中期		
第671	290	A II 区	土器小口1	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	11.0	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ナゾ	ナゾ	古墳中期		
第672	291	A II 区	土器小口1	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	11.0	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ナゾ	ナゾ	古墳中期		
第673	292	A II 区	土器小口1	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	10.5-	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ナゾ	ナゾ	古墳中期		
第674	293	A II 区	土器小口1	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	10.0-	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ナゾ	ナゾ	古墳中期		
第675	295	A II 区	土器小口1	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	9.0-	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ナゾ	ナゾ	古墳中期		
第676	296	A II 区	土器小口1	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	8.0-	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ナゾ	ナゾ	古墳中期		
第677	297	A II 区	土器小口1	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	7.0-	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ナゾ	ナゾ	古墳中期		
第678	298	A II 区	土器小口1	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	6	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ナゾ	ナゾ	古墳中期		
第679	299	A II 区	土器小口1	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	4.5	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ナゾ	ナゾ	古墳中期		
第680	300	A II 区	土器小口1	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	7.1	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ナゾ	ナゾ	古墳中期		
第681	301	A II 区	土器小口1	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	10.2	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ナゾ	ナゾ	古墳中期		
第682	302	A II 区	土器小口1	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	9.0-	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ナゾ	ナゾ	古墳中期		
第683	303	A II 区	土器小口1	土灰-2	1輪繩	御衣黄	御衣黄口縫合反し袋繩留繩	19.3	-	-	-	やや黄・褐色を含む 淡米白色	黒いため褐色化し 黒	ナゾ	ナゾ	古墳中期		

- 89 -

第45表 遺物觀察表(1)

第46表 遺物観察表(3)

番号	遺物 名前	地質	記録	土器名	種類	器用	特徴	口径	最大径	高さ	底形	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第658	332	AⅢ段	土	下部	下部	直筒	長い腰壁。		2.8~	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化し、半開	不明	後生窓、石	小片の為、天井をき			
第659	333	AⅢ段		下部	下部	直筒	器台口縁部、器台に付ける凹入部がある。		3.4~	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化し、半開	不明	古窓前段、中	燒成			
第660	334	CⅦ段	上部	上部	上部	直筒	器台口縁部、器台に付ける凹入部がある。	17.3	15.3~	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化して、ヘラケズリ	腹膨張	V=3	黒化の為測定不可			
第661	335	AⅠ段		上部	上部	直筒	長い腰壁。		16.5~	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化し、半開	手取	半開	半開			
第662	336	CⅨ段	中場	下部	下部	直筒	又深く、腰壁が最も低い、腰壁に付ける凹入部がある。	13.3	7.1~	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化し、半開	ヘラケズリ	ヨリヒロメ	V=2			
第663	337	CⅨ段	中場	中場	中場	直筒	長い腰壁、腰壁に付ける凹入部がある。	14.4	4.6~	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化し、半開	ヘラケズリ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	半開		
第664	338	CⅨ段	中場	中場	中場	直筒	腰壁に付ける凹入部がある。	13.0	6.3~	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化して、ヘラケズリ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	半開		
第665	339	CⅨ段	中場	中場	中場	直筒	腰壁に付ける凹入部がある。	13.5	9.0~	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化して、ヨリナメテ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	半開		
第666	340	CⅨ段	中場	中場	中場	直筒	腰壁に付ける凹入部がある。	15.0	8.1~	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化して、ヘラケズリ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	半開		
第667	341	CⅨ段	中場	中場	中場	直筒	腰壁に付ける凹入部がある。	14.5	8.4~	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化して、ヘラケズリ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	半開		
第668	342	CⅨ段	中場	中場	中場	直筒	腰壁に付ける凹入部がある。	15.3	6.0~	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化して、ヘラケズリ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	半開		
第669	343	CⅨ段	水場	クロ下層	下部	直筒	腰壁に付ける凹入部がある。	16.7	7.7~	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化して、ヘラケズリ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	半開		
第670	344	CⅨ段	水場	トレンチ	下部	直筒	腰壁に付ける凹入部がある。	23.4	9.1~	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化して、ヘラケズリ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	半開		
第671	345	CⅨ段	水場	中場	中場	直筒	腰壁に付ける凹入部がある。	16.5	8.9~	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化して、ヘラケズリ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	半開		
第672	346	CⅨ段	水場	中場	中場	直筒	腰壁に付ける凹入部がある。	17.8	6.5~	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化して、ヘラケズリ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	半開		
第673	347	CⅨ段	水場	クロ下層	下部	直筒	腰壁に付ける凹入部がある。	17.5	8.5~	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化して、ヘラケズリ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	半開		
第674	348	CⅨ段	水場	見下層	下部	直筒	腰壁に付ける凹入部がある。	17.0	7.9~	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化して、ヘラケズリ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	半開	内側に赤色斑状。	
第675	349	CⅨ段	水場	クロ下層	下部	直筒	腰壁に付ける凹入部がある。	16.3	9.0~	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化して、ヘラケズリ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	半開		
第676	350	CⅨ段	水場	クロ下層	下部	直筒	腰壁に付ける凹入部がある。	11.8	12.8	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化して、ヘラケズリ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	外周に火痕。		
第677	351	CⅨ段	水場	中場	中場	直筒	腰壁に付ける凹入部がある。	16.5	9.5~	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化して、ヘラケズリ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	半開		
第678	352	CⅨ段	水場	中場	中場	直筒	腰壁に付ける凹入部がある。	17.3	8.2~	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化して、ヘラケズリ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	半開		
第679	353	CⅨ段	水場	クロ下層	下部	直筒	腰壁に付ける凹入部がある。	17.3	9.5~	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化して、ヘラケズリ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	半開		
第680	354	CⅨ段	水場	見下層	下部	直筒	腰壁に付ける凹入部がある。	17.8	6.0~	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化して、ヘラケズリ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	半開		
第681	355	CⅨ段	水場	見下層	下部	直筒	腰壁に付ける凹入部がある。	14.2	7.2~	やや厚い、内面有粉粒	淡褐色	やや不規則化して、ヘラケズリ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	ヨリナメテ	半開		

第47表 潜物観察表(4)

種類	種名	場所	出現	土深	種別	形質	特徴	口傳	最大径	高さ	葉形	花形	内	外	時代	備考
根茎	305	川原	水場	クロ生土壌	根合口被葉	葉面にウツボ草葉状大葉	葉面にウツボ草葉状大葉	18.6	10.5~	やや短い花被葉	淡青色	長い花被葉	ヨコナタデ	根被葉	V-3	
根茎	357	川原	水場	クロ生土壌	根合口被葉	葉面にウツボ草葉状大葉	葉面にウツボ草葉状大葉	16.0	7.7~	やや短い花被葉	淡青色	長い花被葉	ヨコナタデ	根被葉	V-3	
根茎	360	川原	水場	クロ生土壌	根合口被葉	葉面にウツボ草葉状大葉	葉面にウツボ草葉状大葉	16.2	8.3~	やや短い花被葉	淡青色	長い花被葉	ヨコナタデ	根被葉	V-3	
根茎	361	川原	水場	クロ生土壌	根合口被葉	葉面にウツボ草葉状大葉	葉面にウツボ草葉状大葉	14.4	8.8~	やや短い花被葉	淡青色	長い花被葉	ヨコナタデ	根被葉	V-3	
根茎	360	川原	水場	クロ生土壌	根合口被葉	葉面にウツボ草葉状大葉	葉面にウツボ草葉状大葉	20.6	7.7~	やや短い花被葉	淡青色	長い花被葉	ヨコナタデ	根被葉	V-3	
根茎	361	川原	水場	クロ生土壌	根合口被葉	葉面にウツボ草葉状大葉	葉面にウツボ草葉状大葉	17.2	13.1~	やや短い花被葉	淡青色	長い花被葉	ヨコナタデ	根被葉	V-3	外葉にスス。
根茎	362	川原	水場	クロ生土壌	根合口被葉	葉面にウツボ草葉状大葉	葉面にウツボ草葉状大葉	14.3	3.7~	やや短い花被葉	淡青色	長い花被葉	ヨコナタデ	根被葉	V-2?	
根茎	363	川原	水場	クロ生土壌	根合口被葉	葉面にウツボ草葉状大葉	葉面にウツボ草葉状大葉	13.0	11.4~	やや短い花被葉	淡青色	長い花被葉	ヨコナタデ	根被葉	V-3	
根茎	364	川原	水場	クロ生土壌	根合口被葉	葉面にウツボ草葉状大葉	葉面にウツボ草葉状大葉	17.7	5.5~	やや短い花被葉	淡青色	長い花被葉	ヨコナタデ	根被葉	V-3~4	外葉にスス。
根茎	365	川原	水場	クロ生土壌	根合口被葉	葉面にウツボ草葉状大葉	葉面にウツボ草葉状大葉	13.0	14.9~	やや短い花被葉	淡青色	長い花被葉	ヨコナタデ	根被葉	V-3	外葉に淡色部分
根茎	366	川原	水場	クロ生土壌	根合口被葉	葉面にウツボ草葉状大葉	葉面にウツボ草葉状大葉	14.3	12.5~	やや短い花被葉	淡青色	長い花被葉	ヨコナタデ	根被葉	V-3~4	根毛。
根茎	367	川原	水場	クロ生土壌	根合口被葉	葉面にウツボ草葉状大葉	葉面にウツボ草葉状大葉	14.0	7.7~	やや短い花被葉	淡青色	長い花被葉	ヨコナタデ	根被葉	V-2	
根茎	368	川原	水場	クロ生土壌	根合口被葉	葉面にウツボ草葉状大葉	葉面にウツボ草葉状大葉	19.6	9.0~	やや短い花被葉	淡青色	長い花被葉	ヨコナタデ	根被葉	V-3	外葉にスス。
根茎	369	川原	水場	クロ生土壌	根合口被葉	葉面にウツボ草葉状大葉	葉面にウツボ草葉状大葉	23.7	5.8~	やや短い花被葉	淡青色	長い花被葉	ヨコナタデ	根被葉	V-4	口被葉部にスス。
根茎	370	川原	水場	トレンチ3	新生土壌	根合口被葉	葉面にウツボ草葉状大葉	19.5	12.1~	やや短い花被葉	淡青色	長い花被葉	ヨコナタデ	根被葉	V-4	
根茎	371	川原	水場	トレンチ3	新生土壌	根合口被葉	葉面にウツボ草葉状大葉	15.7	16.0~	やや短い花被葉	淡青色	長い花被葉	ヨコナタデ	根被葉	V-4	
根茎	372	川原	水場	トレンチ3	新生土壌	根合口被葉	葉面にウツボ草葉状大葉	11.1	5.7~	やや短い花被葉	淡青色	長い花被葉	ヨコナタデ	根被葉	V-4	合葉部にスス。
根茎	373	川原	水場	トレンチ3	新生土壌	根合口被葉	葉面にウツボ草葉状大葉	14.6	13.2~	やや短い花被葉	淡青色	長い花被葉	ヨコナタデ	根被葉	V-4	
根茎	374	川原	水場	トレンチ3	新生土壌	根合口被葉	葉面にウツボ草葉状大葉	16.3	6.7~	やや短い花被葉	淡青色	長い花被葉	ヨコナタデ	根被葉	V-2	外葉にスス。
根茎	375	川原	水場	クロ	新生土壌	根合口被葉	葉面にウツボ草葉状大葉	15.6	7.2~	やや短い花被葉	乳白色	長い花被葉	ヨコナタデ	根被葉	V-4	

第48表 遺物觀察表(1)

登録番号	登録地名	地名	属性	土壤性状	土壌組成	物理的性質	機械的性質	物理的性質	特徴	口感	飲食方法	調理法	発酵	内	外	時代	歴史
第705回	376	C地区 水場	クロド原	土種	複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	16.1	7.6-	やわらか・粘りのある粉白色	食感しただ風化	ヘラクゼリ	ヨコナデ			
第706回	377	C地区 水場	青ウロ	先生土器	複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	17.2	8.3-	やわらか・粘りのある粉白色	食感しただ風化	ヘラクゼリ	ヨコナデ・タリヘリ	V-2-2	~3	
第707回	378	C地区 水場	ウロウロ下	先生土器	複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	16.7	9.3-	やわらか・粘りのある粉白色	食感しただ風化	ヘラクゼリ	ヨコナデ・タリヘリ	V-2-2	~3	
第708回	379	C地区 水場	青ウロ	先生土器	複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	17.4	7.7-	やわらか・粘りのある粉白色	食感しただ風化	ヘラクゼリ	ヨコナデ・タリヘリ	V-2-2	~3	
第709回	380	C地区 水場	トレンチ3	先生土器	複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	16.3	6.0-	やわらか・粘りのある粉白色	食感しただ風化	ヘラクゼリ	ヨコナデ・タリヘリ	V-2-2	~3	
第710回	381	C地区 水場	クロド原	先生土器	複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	13.5	8.3-	やわらか・粘りのある粉白色	食感しただ風化	ヘラクゼリ	ヨコナデ	V-4		
第711回	382	C地区 水場	クロド原	先生土器	複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	16.3	15.1-	やわらか・粘りのある粉白色	食感しただ風化	ヨコナデ・タラハ	ヨコナデ・タラハ	V-4		
第712回	383	C地区 水場	クロド原	先生土器	複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	16.3	9.3-	やわらか・粘りのある粉白色	食感しただ風化	ヘラクゼリ	ヨコナデ・タラハ	V-4		
第713回	384	C地区 水場	クロド原	先生土器	複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	16.5	9.0-	やわらか・粘りのある粉白色	食感しただ風化	ヘラクゼリ	ヨコナデ・タラハ	V-4		
第714回	385	C地区 水場	クロド原	先生土器	複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	13.7	15.4-	やわらか・粘りのある粉白色	食感しただ風化	ヘラクゼリ	ヨコナデ・タラハ	V-4		
第715回	386	C地区 水場	クロド原	土器類	複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	17.4	9.1-	やわらか・粘りのある粉白色	食感しただ風化	ヘラクゼリ	ヨコナデ・タラハ	V-4		
第716回	387	C地区 水場	クロド原	先生土器	複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	16.5	26.4-	やわらか・粘りのある粉白色	食感しただ風化	ヘラクゼリ	ヨコナデ・タラハ	V-4		
第717回	388	C地区 水場	クロド原	先生土器	複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	21.0	8.8-	やわらか・粘りのある粉白色	食感しただ風化	ヘラクゼリ	ヨコナデ・タラハ	V-4		
第718回	389	C地区 水場	トランクル	先生土器	複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	14.8	8.2-	やわらか・粘りのある粉白色	食感しただ風化	ヘラクゼリ	ヨコナデ			
第719回	390	C地区 水場	クロド原	土器類	複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	18.5	9.3-	やわらか・粘りのある粉白色	食感しただ風化	ヘラクゼリ	ヨコナデ・ス・ヘラ	古時初回		
第720回	391	C地区 水場	クロ	先生土器	複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	26.8	9.0-	やわらか・粘りのある粉白色	食感しただ風化	ヘラクゼリ	ヨコナデ・ヘラ	V-4		
第721回	392	C地区 水場	クロ	先生土器	複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	固形物質を含む複合口吸収	24.9	12.0-	やわらか・粘りのある粉白色	食感しただ風化	ヘラクゼリ	ヨコナデ	古時初回		

第49表 遺物觀察表(16)

第50表 潤物観察表(1)

番号	種類	植物	地区	品種	土壌	地點	特徴	口径	底質	基原	鉢土	色調	油狀	内	外	時代	備考
第748	417	CE区	水場	葉下部名	沙生土層	混合口被葉	根毛口被外葉、被毛く	12.0	4.2~	やや黒、10倍の鉢	深赤色	やや黒、深赤色	ヘラクゼリ	ヨコナギ、根回植	V-2	外壁にスス。	
第749	418	CE区	水場	クロウロ	沙生土層	混合口被葉	根毛口被外葉、被毛く	20.2	4.8~	やや黒、20倍の鉢	深赤色	やや黒、深赤色	ヘラクゼリ	ヨコナギ、根回植	V-2		
第750	419	CE区	水場	サク	沙生土層	混合口被葉	根毛口被外葉、被毛く	19.8	7.1~	やや黒、20倍の鉢	深赤色	やや黒、深赤色	ヘラクゼリ	ヨコナギ、根回植	V-2	外壁にスス。	
第751	420	CE区	水場	クロウロ	沙生土層	混合口被葉	根毛口被外葉、被毛く	13.5	3.6~	やや黒、20倍の鉢	乳白色	良だら、黒化し	ヘラクゼリ	ヨコナギ、根回植	V-2	外壁にスス。	
第752	421	CE区	水場	クロ	沙生土層	混合口被葉	根毛口被外葉、被毛く	17.6	4.3~	やや黒、20倍の鉢	乳白色	やや黒、深赤化し	ヘラクゼリ	ヨコナギ、根回植	V-2	外壁にスス。	
第753	422	CE区	水場	クロドリ	沙生土層	混合口被葉	根毛口被外葉、被毛く	18.0	4.2~	やや黒、20倍の鉢	乳白色	やや黒、深赤化し	ヘラクゼリ	ヨコナギ、根回植	V-3	口被外葉形葉株ス	
第754	423	CE区	水場	クロドリ	沙生土層	混合口被葉	根毛口被外葉、被毛く	18.5	5.9~	やや黒、10倍の鉢	深赤色	やや黒、深赤化し	ヘラクゼリ	ヨコナギ、根回植	V-2~3	外壁にスス、内側にスス。	
第755	424	CE区	水場	クロ	沙生土層	混合口被葉	根毛口被外葉、被毛く	19.3	8.3~	やや黒、10倍の鉢	深赤色	良だら、黒化し	ヘラクゼリ	ヨコナギ、根回植	V-3	内側に黒化物。	
第756	425	CE区	水場	クロ	沙生土層	混合口被葉	根毛口被外葉、被毛く	20.0	4.3~	やや黒、20倍の鉢	深赤色	やや黒、深赤化し	ヘラクゼリ	ヨコナギ、根回植	V-2		
第757	426	CE区	水場	サク	沙生土層	混合口被葉	根毛口被外葉、被毛く	16.2	7.9~	やや黒、20倍の鉢	深赤色	やや黒、深赤化し	ヘラクゼリ	ヨコナギ、根回植	V-2	外壁にスス。	
第758	427	CE区	水場	クロ	沙生土層	混合口被葉	根毛口被外葉、被毛く	14.8	4.9~	やや黒、20倍の鉢	深赤色	やや黒、深赤化し	ヘラクゼリ	ヨコナギ、根回植	V-2		
第759	428	CE区	水場	クロ	沙生土層	混合口被葉	根毛口被外葉、被毛く	15.3	11.6~	やや黒、20倍の鉢	深赤色	良だら、黒化し	ヘラクゼリ	ヨコナギ、根回植	V-2	外壁にスス。	
第760	429	CE区	水場	クロ	沙生土層	混合口被葉	根毛口被外葉、被毛く	16.1	4.7~	やや黒、20倍の鉢	深赤色	良だら、黒化し	ヘラクゼリ	ヨコナギ、根回植	V-2	外壁にスス、口被に赤	
第761	430	CE区	水場	クロドリ	沙生土層	混合口被葉	根毛口被外葉、被毛く	12.0	7.2~	やや黒、10倍の鉢	深赤色	やや黒、深赤化し	ヘラクゼリ	ヨコナギ、根回植	V-2	内側にスス。	
第762	431	CE区	水場	クロ	沙生土層	混合口被葉	根毛口被外葉、被毛く	19.6	11.6~	やや黒、10倍の鉢	深赤色	やや黒、深赤化し	ヘラクゼリ	ヨコナギ、根回植	V-2	内側にスス、外壁に赤	
第763	432	CE区	水場	クロドリ	沙生土層	混合口被葉	根毛口被外葉、被毛く	20.3	5.5~	やや黒、20倍の鉢	深赤色	良だら、黒化し	ヘラクゼリ	ヨコナギ、根回植	V-3	黒化の外周明瞭。	
第764	433	CE区	水場	サク	沙生土層	混合口被葉	根毛口被外葉、被毛く	23.8	11.4~	やや黒、20倍の鉢	深赤色	良だら、黒化し	ヘラクゼリ	ヨコナギ、根回植	V-2	内側にスス、外壁に赤	
第765	434	CE区	水場	クロ	沙生土層	混合口被葉	根毛口被外葉、被毛く	19.8	7.2~	やや黒、10倍の鉢	深赤色	良だら、黒化し	ヘラクゼリ	ヨコナギ、根回植	V-3	外壁にスス。	
第766	435	CE区	水場	クロドリ	沙生土層	混合口被葉	根毛口被外葉、被毛く	15.6	5.5~	やや黒、10倍の鉢	深赤色	良だら、黒化し	ヘラクゼリ	ヨコナギ、根回植	V-2~3	外壁にスス、内側に赤	
第767	436	CE区	水場	クロ	沙生土層	混合口被葉	根毛口被外葉、被毛く	19.4	9.6~	やや黒、10倍の鉢	深赤色	良だら、黒化し	ヘラクゼリ	ヨコナギ、根回植	V-3	外壁にスス。	
第768	437	CE区	水場	クロ	沙生土層	混合口被葉	根毛口被外葉、被毛く	11.7	5.7	やや黒、10倍の鉢	深赤色	良だら、黒化し	ヘラクゼリ	ヨコナギ、根回植	V-3		

第51表 遺物観察表(8)

番号	遺物	地区	通称	土器類	種別	器種	特徴	口径	最大径	高さ	底形	附土	色調	焼成	内	外	時代	備考
第52号	漆器	水場	クロ下置	生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し縁裏後子	16.5	7.1~	やや高めの内壁の初期	漆茶白色	無けやだし黒化	漆茶白色	漆茶白色	漆茶白色	漆茶白色	V-3	内面にスス、外面に 黒化。	
第53号	428	CIM区	水場	クロ下置	生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し縁裏後子	16.0	7.3~	やや高めの内壁の初期	漆茶白色	無けやだし黒化	漆茶白色	漆茶白色	漆茶白色	V-3	内面にスス、外面に 黒化。	
第54号	429	CIM区	水場	クロ下置	生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し縁裏後子	16.0	7.3~	やや高めの内壁の初期	漆茶白色	無けやだし黒化	漆茶白色	漆茶白色	漆茶白色	V-3	内面にスス、外面に 黒化。	
第55号	440	CIM区	水場	クロ下置	生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し縁裏後子	20.5	6.9~	やや高めの内壁の初期	白灰色	無けやだし黒化	白灰色	白灰色	白灰色	V-3	内面にスス、外面に 黒化。	
第56号	441	CIM区	水場	クロ下置	生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し縁裏後子	18.9	10.0~	やや高めの内壁の初期	漆茶白色	無けやだし黒化	漆茶白色	漆茶白色	漆茶白色	V-3	内面にスス、外面に 黒化。	
第57号	442	CIM区	水場	雨クロ	生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し縁裏後子	18.9	11.5~	やや高めの内壁の初期	漆茶白色	無けやだし黒化	漆茶白色	漆茶白色	漆茶白色	V-3	内面にスス、外面に 黒化。	
第58号	443	CIM区	水場	クロ下置	生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し縁裏後子	18.6	8.5~	やや高めの内壁の初期	漆茶白色	無けやだし黒化	漆茶白色	漆茶白色	漆茶白色	V-3	内面にスス、外面に 黒化。	
第59号	444	CIM区	水場	クロ	生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し縁裏後子	15.4	11.5~	やや高めの内壁の初期	漆茶白色	無けやだし黒化	漆茶白色	漆茶白色	漆茶白色	V-2	内面にスス、外面に 黒化。	
第60号	445	CIM区	水場	クロ下置	生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し縁裏後子	22.4	4.5~	やや高めの内壁の初期	漆茶白色	無けやだし黒化	漆茶白色	漆茶白色	漆茶白色	V-2	内面にスス、外面に 黒化。	
第61号	446	CIM区	水場	クロ下置	生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し縁裏後子	21.3	4.8~	やや高めの内壁の初期	漆茶白色	無けやだし黒化	漆茶白色	漆茶白色	漆茶白色	V-3	内面にスス、外面に 黒化。	
第62号	447	CIM区	水場	クロ下置	生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し縁裏後子	14.8	8.0	やや高めの内壁の初期	漆茶白色	無けやだし黒化	漆茶白色	漆茶白色	漆茶白色	V-3	内面にスス、外面に 黒化。	
第63号	448	CIM区	水場	裏カベ鉢	生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し縁裏後子	17.7	10.5~	やや高めの内壁の初期	漆茶白色	無けやだし黒化	漆茶白色	漆茶白色	漆茶白色	V-3	内面にスス、外面に 黒化。	
第64号	449	CIM区	水場	裏カベ鉢	生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し縁裏後子	14.2	8.4~	やや高めの内壁の初期	漆茶白色	無けやだし黒化	漆茶白色	漆茶白色	漆茶白色	V-3	内面にスス、外面に 黒化。	
第65号	450	CIM区	水場	雨クロ	生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し縁裏後子	17.2	11.9~	やや高めの内壁の初期	漆茶白色	無けやだし黒化	漆茶白色	漆茶白色	漆茶白色	V-3	内面にスス、外面に 黒化。	
第66号	451	CIM区	水場	雨クロ	生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し縁裏後子	16.7	8.6~	やや高めの内壁の初期	漆茶白色	無けやだし黒化	漆茶白色	漆茶白色	漆茶白色	V-3	内面にスス、外面に 黒化。	
第67号	452	CIM区	水場	雨クロ	生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し縁裏後子	16.6	21.0~	やや高めの内壁の初期	漆茶白色	無けやだし黒化	漆茶白色	漆茶白色	漆茶白色	V-3	内面にスス、外面に 黒化。	
第68号	453	CIM区	水場	クロ	生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し縁裏後子	19.2	9.4~	やや高めの内壁の初期	漆茶白色	無けやだし黒化	漆茶白色	漆茶白色	漆茶白色	V-3	内面にスス、外面に 黒化。	

第52表 遺物観察表(9)

番号	番号	地区	遺構	土層	特徴	口径	幅大径	器名	底形	胎土	色調	底模	内	外	年代	備考
第779	454	070区	水場	クロ・クロ下	先生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し胎部前、後付	10.2	18.4~	やや褐・2mmのアガリ、砂と土を含む。	淡黄白色	斜斜ヶ崎式、一 ヨコナナギ底模式、 ヨコアーチ式	V-3	内面にスレ、 外側にスズ、		
第779	455	070区	水場	市クロ	先生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し胎部前、後付	21.8	7.3~	やや褐・2mmのアガリ、 砂と土を含む。	淡黄白色	斜斜ヶ崎式、一 ヨコナナギ底模式、 ヨコアーチ式	V-3	外側にスズ、		
第779	456	070区	水場	クロ	先生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し胎部前、後付	18.2	7.9~	やや褐・2mmのアガリ、 砂と土を含む。	淡黄白色	斜斜ヶ崎式、一 ヨコナナギ底模式、 ヨコアーチ式	V-3	内面にスズ、 外側にスズ、		
第779	457	070区	水場	角クロ	先生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し胎部前、後付	19.0	6.4~	やや褐・2mmのアガリ、 砂と土を含む。	淡黄白色	斜斜ヶ崎式、一 ヨコナナギ底模式、 ヨコアーチ式	V-3	内面にスズ、 外側にスズ、		
第779	458	070区	水場	クロ・市クロ	先生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し胎部前、後付	18.9	5.5~	やや褐・2mmのアガリ、 砂と土を含む。	淡黄白色	斜斜ヶ崎式、一 ヨコナナギ底模式、 ヨコアーチ式	V-3	内面にスズ、 外側にスズ、		
第779	459	070区	水場	クロ・市クロ	先生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し胎部前、後付	14.1	12.5~	やや褐・2mmのアガリ、 砂と土を含む。	淡黄白色	斜斜ヶ崎式、一 ヨコナナギ底模式、 ヨコアーチ式	V-3	内面にスズ、 外側にスズ、		
第779	460	070区	水場	クロ	先生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し胎部前、後付	23.1	9.9~	やや褐・2mmのアガリ、 砂と土を含む。	淡黄白色	斜斜ヶ崎式、一 ヨコナナギ底模式、 ヨコアーチ式	V-3	内面にスズ、 外側にスズ、		
第779	461	070区	水場	クロ・市クロ	先生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し胎部前、後付	20.7	6.0~	やや褐・2mmのアガリ、 砂と土を含む。	淡黄白色	斜斜ヶ崎式、一 ヨコナナギ底模式、 ヨコアーチ式	V-3	内面にスズ、 外側にスズ、		
第779	462	070区	水場	クロ・市クロ	先生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し胎部前、後付	19.8	5.9~	やや褐・2mmのアガリ、 砂と土を含む。	淡黄白色	斜斜ヶ崎式、一 ヨコナナギ底模式、 ヨコアーチ式	V-3	内面にスズ、 外側にスズ、		
第779	463	070区	水場	クロ・市クロ	先生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し胎部前、後付	32.7	18.4~	やや褐・2mmのアガリ、 砂と土を含む。	淡黄白色	斜斜ヶ崎式、一 ヨコナナギ底模式、 ヨコアーチ式	V-2	内面にスズ、 外側にスズ、		
第779	464	070区	水場	クロド母	先生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し胎部前、後付	25.8	7.7~	やや褐・2mmのアガリ、 砂と土を含む。	淡黄白色	斜斜ヶ崎式、一 ヨコナナギ底模式、 ヨコアーチ式	V-2	内面にスズ、 外側にスズ、		
第779	465	070区	水場	クロド母	先生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し胎部前、後付	25.0	13.2~	やや褐・2mmのアガリ、 砂と土を含む。	淡黄白色	斜斜ヶ崎式、一 ヨコナナギ底模式、 ヨコアーチ式	V-2	内面にスズ、 外側にスズ、		
第779	466	070区	水場	クロ	先生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し胎部前、後付	26.2	7.7~	やや褐・2mmのアガリ、 砂と土を含む。	淡黄白色	斜斜ヶ崎式、一 ヨコナナギ底模式、 ヨコアーチ式	V-2	内面にスズ、 外側にスズ、		
第779	467	070区	水場	角クロ	先生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し胎部前、後付	23.8	5.8~	やや褐・2mmのアガリ、 砂と土を含む。	淡黄白色	斜斜ヶ崎式、一 ヨコナナギ底模式、 ヨコアーチ式	V-2	内面にスズ、 外側にスズ、		
第779	468	070区	水場	角クロ	先生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し胎部前、後付	24.5	8.7~	やや褐・2mmのアガリ、 砂と土を含む。	淡黄白色	斜斜ヶ崎式、一 ヨコナナギ底模式、 ヨコアーチ式	V-2	内面にスズ、 外側にスズ、		
第779	469	070区	水場	クロド母	先生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し胎部前、後付	25.3	16.8~	やや褐・2mmのアガリ、 砂と土を含む。	淡黄白色	斜斜ヶ崎式、一 ヨコナナギ底模式、 ヨコアーチ式	V-3	内面にスズ、 外側にスズ、		
第779	470	070区	水場	クロ・角クロ	先生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し胎部前、後付	27.0	6.2~	やや褐・2mmのアガリ、 砂と土を含む。	淡黄白色	斜斜ヶ崎式、一 ヨコナナギ底模式、 ヨコアーチ式	V-2	内面にスズ、 外側にスズ、		
第779	471	070区	水場	クロ	先生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し胎部前、後付	22.5	14.9~	やや褐・2mmのアガリ、 砂と土を含む。	淡黄白色	斜斜ヶ崎式、一 ヨコナナギ底模式、 ヨコアーチ式	V-2~3	内面にスズ、 外側にスズ、		
第779	472	070区	水場	クロ	先生土器	複合口縁裏	複合口縁裏反し胎部前、後付	27.3	6.8~	やや褐・2mmのアガリ、 砂と土を含む。	淡黄白色	斜斜ヶ崎式、一 ヨコナナギ底模式、 ヨコアーチ式	V-3	内面にスズ、 外側にスズ、		

第53表 通物観察表(2)

番号	番号	地区	通場	土屋名	種別	基準	特徴	口径	最大径	管壁	地盤	出土	色調	組成	内		時代	備考
															内	外		
第70回	473	C南区	水場	トレンチ3	羽生土器	複合口部装	複合口部装が施された、口端に切欠きがある。	27.2	17.2~	やや厚い、	泥炭地	未定	黒褐色	やや良、風化し、ヘラクゼリ	ヨコナデテラバケリ	メドフチテラバケリ	V-2~3	外壁にスス。
第70回	474	C南区	水場	クロ下附	羽生土器	複合口部装	複合口部装が施された、口端に切欠きがある。	30.5	9.7~	やや厚い、	泥炭地	未定	黒褐色	やや良、風化し、ヘラクゼリ	ヨコナデテラバケリ	ヨコナデテラバケリ	V-3	内面にスス。
第70回	475	C南区	水場	クロ下附	羽生土器	複合口部装	複合口部装が施された、口端に切欠きがある。	26.8	9.2~	と赤色、	泥炭地	未定	白色	やや良、風化し、ヘラクゼリ	ヨコナデテラバケリ	ヨコナデテラバケリ	V-3	大辻
第70回	476	C南区	水場	クロ下附	羽生土器	複合口部装	複合口部装が施された、口端に切欠きがある。	9.3	11.7~	と赤色、	泥炭地	未定	白色	やや良、風化し、ヘラクゼリ	ヨコナデテラバケリ	ヨコナデテラバケリ	V-3	内面にスス。
第70回	477	C南区	水場	クロ	羽生土器	複合口部装	複合口部装が施された、口端に切欠きがある。	13.2	12.2~	と赤色、	泥炭地	未定	白色	やや良、風化し、ヘラクゼリ	ヨコナデテラバケリ	ヨコナデテラバケリ	V-3	内面にスス。
第70回	478	C南区	水場	クロ下附	羽生土器	複合口部装	複合口部装が施された、口端に切欠きがある。	14.5	9.4~	と赤色、	泥炭地	未定	白色	やや良、風化し、ヘラクゼリ	ヨコナデテラバケリ	ヨコナデテラバケリ	V-3	内面にスス。
第70回	479	C南区	水場	トレンチ3	羽生土器	複合口部装	複合口部装が施された、口端に切欠きがある。	13.1	3.8~	と赤色、	泥炭地	未定	白色	やや良、風化し、ヘラクゼリ	ヨコナデテラバケリ	ヨコナデテラバケリ	V-3	内面にスス。
第70回	480	C南区	水場	クロ	土器	複合口部装	複合口部装が施された、口端に切欠きがある。	19.5	7.6~	と赤色、	泥炭地	未定	白色	やや良、風化し、ヘラクゼリ	ヨコナデテラバケリ	ヨコナデテラバケリ	V-3	内面にスス。
第70回	481	C南区	水場	黒カベ粘土器	土器	複合口部装	複合口部装が施された、口端に切欠きがある。	17.4	5.7~	と赤色、	泥炭地	未定	白色	やや良、風化し、ヘラクゼリ	ヨコナデテラバケリ	ヨコナデテラバケリ	V-3	内面にスス。
第70回	482	C南区	水場	黒クロ	土器	複合口部装	複合口部装が施された、口端に切欠きがある。	17.3	5.2~	と赤色、	泥炭地	未定	白色	やや良、風化し、ヘラクゼリ	ヨコナデテラバケリ	ヨコナデテラバケリ	V-3	内面にスス。
第70回	483	C南区	水場	クロ下附	土器	複合口部装	複合口部装が施された、口端に切欠きがある。	16.3	6.0~	と赤色、	泥炭地	未定	白色	やや良、風化し、ヘラクゼリ	ヨコナデテラバケリ	ヨコナデテラバケリ	V-3	内面にスス。
第70回	484	C南区	水場	クロ下附	土器	複合口部装	複合口部装が施された、口端に切欠きがある。	17.7	7.5~	と赤色、	泥炭地	未定	白色	やや良、風化し、ヘラクゼリ	ヨコナデテラバケリ	ヨコナデテラバケリ	V-3	内面にスス。
第70回	485	C南区	水場	クロ・クロ下附	土器	複合口部装	複合口部装が施された、口端に切欠きがある。	16.7	7.8~	と赤色、	泥炭地	未定	白色	やや良、風化し、ヘラクゼリ	ヨコナデテラバケリ	ヨコナデテラバケリ	V-3	内面にスス。
第70回	486	C南区	水場	クロ下附	土器	複合口部装	複合口部装が施された、口端に切欠きがある。	17.4	6.5~	と赤色、	泥炭地	未定	白色	やや良、風化し、ヘラクゼリ	ヨコナデテラバケリ	ヨコナデテラバケリ	V-3	内面にスス。
第70回	487	C南区	水場	クロ	土器	複合口部装	複合口部装が施された、口端に切欠きがある。	16.7	9.1~	と赤色、	泥炭地	未定	白色	やや良、風化し、ヘラクゼリ	ヨコナデテラバケリ	ヨコナデテラバケリ	V-3	内面にスス。
第70回	488	C南区	水場	クロ	土器	複合口部装	複合口部装が施された、口端に切欠きがある。	19.1	7.5~	と赤色、	泥炭地	未定	白色	やや良、風化し、ヘラクゼリ	ヨコナデテラバケリ	ヨコナデテラバケリ	V-3	内面にスス。
第70回	489	C南区	水場	クロ下附	土器	複合口部装	複合口部装が施された、口端に切欠きがある。	17.4	8.8~	と赤色、	泥炭地	未定	白色	やや良、風化し、ヘラクゼリ	ヨコナデテラバケリ	ヨコナデテラバケリ	V-3	内面にスス。
第70回	490	C南区	水場	クロ・クロ	土器	複合口部装	複合口部装が施された、口端に切欠きがある。	22.2	18.3~	と赤色、	泥炭地	未定	白色	やや良、風化し、ヘラクゼリ	ヨコナデテラバケリ	ヨコナデテラバケリ	V-3	内面にスス。
第70回	491	C南区	水場	クロ下附	土器	複合口部装	複合口部装が施された、口端に切欠きがある。	20.1	10.9~	と赤色、	泥炭地	未定	白色	やや良、風化し、ヘラクゼリ	ヨコナデテラバケリ	ヨコナデテラバケリ	V-3	内面にスス。
第70回	492	C南区	水場	クロ下附	土器	複合口部装	複合口部装が施された、口端に切欠きがある。	21.0	16.5~	と赤色、	泥炭地	未定	白色	やや良、風化し、ヘラクゼリ	ヨコナデテラバケリ	ヨコナデテラバケリ	V-3	内面にスス。

第54表 遺物觀察表(2)

番号	場所	地名	種類	土壌性	種別	特徴	特徴	口径	周天径	容積	底面	施工	色調	感覚	内	外	時代	備考
第1回 483	CIV区	水場	クロ	土場	複合口埋設	複合口埋設が最も複雑で、工事も大変である。	19.3	10.4m	やや重い、凹凸の感触	黒茶色	丸だし感覚	丸ラクス	…ヨコナダ不規則方角	ナダ子	…ナダ子はくわら			
第1回 494	CIV区	水場	クロ・ウロ	土場	複合口埋設	複合口埋設が最も複雑で、工事も大変である。	21.8	11.9m	やや重い、凹凸の感触	黒茶色	丸だし感覚	ヘラケズ	ヨコナダ					
第1回 495	CIV区	水場	トレンザ	土場	複合口埋設	複合口埋設が最も複雑で、工事も大変である。	17.1	6.7m	やや重い、凹凸の感触	黒茶色	丸ラクス	ヘラケズ	ヨコナダ					
第1回 496	CIV区	水場	クロ	土場	複合口埋設	複合口埋設が最も複雑で、工事も大変である。	19.0	7.0m	やや重い、凹凸の感触	黒茶色	丸ラクス	ヘラケズ	ヨコナダ					
第1回 497	CIV区	水場	クロ・クロ	土場	複合口埋設	複合口埋設が最も複雑で、工事も大変である。	20.0	7.1m	やや重い、凹凸の感触	黒茶色	丸ラクス	ヘラケズ	ヨコナダ					
第1回 498	CIV区	水場	クロ	土場	複合口埋設	複合口埋設が最も複雑で、工事も大変である。	17.2	5.0m	やや重い、凹凸の感触	黒茶色	丸ラクス	ヨコナダ						
第1回 499	CIV区	水場	サク	土場	複合口埋設	複合口埋設が最も複雑で、工事も大変である。	16.9	6.3m	やや重い、凹凸の感触	黒茶色	丸ラクス	ヨコナダ						
第1回 500	CIV区	水場	トレンザ	土場	複合口埋設	複合口埋設が最も複雑で、工事も大変である。	18.1	8.2m	やや重い、凹凸の感触	黒茶色	丸ラクス	ヨコナダ						
第1回 501	CIV区	水場	クロ・サク	土場	複合口埋設	複合口埋設が最も複雑で、工事も大変である。	17.5	6.9m	やや重い、凹凸の感触	黒茶色	丸ラクス	ヨコナダ						
第1回 502	CIV区	水場	トレンザ	土場	複合口埋設	複合口埋設が最も複雑で、工事も大変である。	27.0	6.9m	やや重い、凹凸の感触	黒茶色	丸ラクス	ヨコナダ						
第1回 503	CIV区	水場	クロ	土場	複合口埋設	複合口埋設が最も複雑で、工事も大変である。	25.7	6.1m	やや重い、凹凸の感触	黒茶色	丸ラクス	ヨコナダ						
第1回 504	CIV区	水場	クロ・サク	土場	複合口埋設	複合口埋設が最も複雑で、工事も大変である。	18.0	8.3m	やや重い、凹凸の感触	黒茶色	丸ラクス	ヨコナダ						
第1回 505	CIV区	水場	クロ	土場	複合口埋設	複合口埋設が最も複雑で、工事も大変である。	18.8	10.8m	やや重い、凹凸の感触	黒茶色	丸ラクス	ヨコナダ						
第1回 506	CIV区	水場	クロ・サク	土場	複合口埋設	複合口埋設が最も複雑で、工事も大変である。	20.6	9.5m	やや重い、凹凸の感触	黒茶色	丸ラクス	ヨコナダ	複数回	V-2				
第1回 507	CIV区	水場	サク	土場	複合口埋設	複合口埋設が最も複雑で、工事も大変である。	17.0	6.7m	やや重い、凹凸の感触	黒茶色	丸ラクス	ヨコナダ	複数回	V-4	外間にスス。			
第1回 508	CIV区	水場	クロ	土場	複合口埋設	複合口埋設が最も複雑で、工事も大変である。	15.0	9.0m	やや重い、凹凸の感触	黒茶色	丸ラクス	ヨコナダ	複数回	V-4				
第1回 509	CIV区	水場	クロ	土場	複合口埋設	複合口埋設が最も複雑で、工事も大変である。	16.4	9.9m	やや重い、凹凸の感触	黒茶色	丸ラクス	ヨコナダ	複数回	V-4	外間にスス。			
第1回 510	CIV区	水場	クロ	土場	複合口埋設	複合口埋設が最も複雑で、工事も大変である。	22.0	6.2m	やや重い、凹凸の感触	黒茶色	丸ラクス	ヨコナダ						

第55表 「遺物類表(22)

番号	通号	地区	遺構	土種	種別	特徴	口径	最大径	厚さ	底形	出土	色調	保護	内	外	時代	備考
第228	511	○昭区	水場	クロ下槽	男生土器	板口弧腹 板口部斜め切欠き 板口部斜め切欠き	21.5	9.1~	やや黒、灰褐色の砂質 を含む。	圓底	良好	ベラケズリ	ヨコナデバタメ装 ビズクン装	V-4			
第229	512	○昭区	水場	クロ・クロ下槽	男生土器	板口弧腹 板口部斜め切欠き	19.3	9.1~	やや黒、灰褐色の砂質 を含む。	圓底	良好	ベラケズリ	ヨコナデバタメ装 ビズクン装	V-4~	外圍にスス。		
第230	513	○昭区	水場	クロ下槽	男生土器	板口弧腹 板口部斜め切欠き	17.4	7.1~	やや黒、灰褐色の砂質 を含む。	圓底	良好	ベラケズリ	ヨコナデバタメ装 ビズクン装	V-4	外圍にスス。		
第231	514	○昭区	水場	クロ・下槽	男生土器	板口弧腹 板口部斜め切欠き	20.1	9.9~	やや黒、灰褐色の砂質 を含む。	圓底	良好	ベラケズリ	ヨコナデバタメ装 ビズクン装	V-4			
第232	515	○昭区	水場	クロ	男生土器	板口弧腹 板口部斜め切欠き	17.3	9.1~	やや黒、灰褐色の砂質 を含む。	圓底	良好	ベラケズリ	ヨコナデバタメ装 ビズクン装	V-4			
第233	516	○昭区	水場	クロ	男生土器	板口弧腹 板口部斜め切欠き	18.0	11.6~	やや黒、灰褐色の砂質 を含む。	圓底	良好	ベラケズリ	ヨコナデバタメ装 ビズクン装	V-4			
第234	517	○昭区	水場	クロ	男生土器	板口弧腹 板口部斜め切欠き	21.0	10.5~	やや黒、灰褐色の砂質 を含む。	圓底	良好	ベラケズリ	ヨコナデバタメ装 ビズクン装	V-4	外圍にスス。		
第235	518	○昭区	水場	クロ	男生土器	板口弧腹 板口部斜め切欠き	17.3	14.3~	やや黒、灰褐色の砂質 を含む。	圓底	良好	ベラケズリ	ヨコナデバタメ装 ビズクン装	V-4			
第236	519	○昭区	水場	クロ	男生土器	板口弧腹 板口部斜め切欠き	18.5	9.1~	やや黒、灰褐色の砂質 を含む。	圓底	良好	ベラケズリ	ヨコナデバタメ装 ビズクン装	V-4	外圍にスス。		
第237	520	○昭区	水場	クロ・クロ下槽	男生土器	板口弧腹 板口部斜め切欠き	20.2	15.4~	やや黒、灰褐色の砂質 を含む。	圓底	良好	ベラケズリ	ヨコナデバタメ装 ビズクン装	V-4	外圍にスス。		
第238	521	○昭区	水場	南クロ上	男生土器	板口弧腹 板口部斜め切欠き	17.4	13.5~	やや黒、灰褐色の砂質 を含む。	圓底	良好	ベラケズリ	ヨコナデバタメ装 ビズクン装	V-4~			
第239	522	○昭区	水場	クロ下槽	男生土器	板口弧腹 板口部斜め切欠き	22.2	7.5~	やや黒、灰褐色の砂質 を含む。	圓底	良好	ベラケズリ	ヨコナデバタメ装 ビズクン装	V-4~	外圍にスス。		
第240	523	○昭区	水場	クロ下槽	男生土器	板口弧腹 板口部斜め切欠き	20.7	5.6~	やや黒、灰褐色の砂質 を含む。	圓底	良好	ベラケズリ	ヨコナデバタメ装 ビズクン装	V-4	外圍にスス。		
第241	524	○昭区	水場	クロ・クロ下槽	男生土器	板口弧腹 板口部斜め切欠き	18.6	8.8~	やや黒、灰褐色の砂質 を含む。	圓底	良好	ベラケズリ	ヨコナデバタメ装 ビズクン装	V-4	外圍にスス。		
第242	525	○昭区	水場	トレーン3	男生土器	板口弧腹 板口部斜め切欠き	18.1	6.7~	やや黒、灰褐色の砂質 を含む。	圓底	良好	ベラケズリ	ヨコナデバタメ装 ビズクン装	V-4~	外圍にスス。		
第243	526	○昭区	水場	クロ・南クロ	男生土器	板口弧腹 板口部斜め切欠き	23.6	6.7~	やや黒、灰褐色の砂質 を含む。	圓底	良好	ベラケズリ	ヨコナデバタメ装 ビズクン装	V-4			
第244	527	○昭区	水場	クロ下槽	土器	板口弧腹 心孔	19.1	10.7~	やや黒、灰褐色の砂質 を含む。	圓底	良好	ベラケズリ	ヨコナデバタメ装 ビズクン装	V-4			
第245	528	○昭区	水場	南クロ	男生土器	板口弧腹 板口部斜め切欠き	19.1	8.8~	やや黒、灰褐色の砂質 を含む。	圓底	良好	ベラケズリ	ヨコナデバタメ装 ビズクン装	V-4			
第246	529	○昭区	水場	南セミ	クロ・南カベ	男生土器	板口弧腹 板口部斜め切欠き	21.0	14.8~	やや黒、灰褐色の砂質 を含む。	圓底	良好	ベラケズリ	ヨコナデバタメ装 ビズクン装	V-4		

第56表 遺物觀察表(2)

番号	通称	地区	種別	土壌性	相性	相性	特徴	口径	地盤性	根系	耐土	色調	能成	内	外	時代	備考
第4回 530	CIV区	水場	クロ/クロ	先生土器	複合口被覆	底立ぎのローラー底	底立ぎのローラー底	21.9	7.3~	内側に筋を持つ、 底をむし出し	やわらか・中風の砂粒 を含む。	外風・淡白 風評だら・黒化 内風・淡白	ヘラケツリ ヨコナシ・ハカメ	V-4			
第4回 531	CIV区	水場	南ウチドウ	先生土器	複合口被覆	底立ぎのローラー底	底立ぎのローラー底	16.9	11.0~	底立ぎのローラー底 底立ぎの砂粒	やわらか・中風の砂 粒を含む。	風評だら・黒化 内風・淡白	ヨコナシ・タラバ ヨコナシ・ウツバク	V-4	外風にスス。		
第4回 532	CIV区	水場	南ウチドウ	先生土器	複合口被覆	底立ぎのローラー底	底立ぎのローラー底	18.4	7.2~	底立ぎのローラー底 底立ぎの砂粒を 引く・軽量な砂粒を 含む。	やわらか・中風の砂 粒を含む。	風評だら・黒化 内風・淡白	ヨコナシ・タラバ ヨコナシ・ウツバク	V-4	外風にスス。		
第4回 533	CIV区	水場	南ウチドウ	先生土器	複合口被覆	底立ぎのローラー底	底立ぎのローラー底	20.8	22.2~	底立ぎのローラー底 底立ぎの砂粒を 含む。	やわらか・中風の砂 粒を含む。	風評だら・黒化 内風・淡白	ヨコナシ・タラバ ヨコナシ・ウツバク	V-4	外風にスス。		
第4回 534	CIV区	水場	南ウチドウ	先生土器	複合口被覆	底立ぎのローラー底	底立ぎのローラー底	17.5	7.6~	底立ぎのローラー底 底立ぎの砂粒を 含む。	やや風・中風の砂 粒を含む。	風評だら・黒化 内風・淡白	ヨコナシ・タラバ ヨコナシ・ウツバク	V-4	外風にスス。		
第4回 535	CIV区	水場	クロ	先生土器	複合口被覆	底立ぎのローラー底	底立ぎのローラー底	18.7	18.3~	底立ぎのローラー底 底立ぎの砂粒を 含む。	やや風・中風の砂 粒を含む。	風評だら・黒化 内風・淡白	ヨコナシ・タラバ ヨコナシ・ウツバク	V-4	外風にスス。		
第4回 536	CIV区	水場	南ウチドウ	先生土器	複合口被覆	底立ぎのローラー底	底立ぎのローラー底	16.8	12.8~	底立ぎのローラー底 底立ぎの砂粒を 含む。	やや風・中風の砂 粒を含む。	風評だら・黒化 内風・淡白	ヨコナシ・タラバ ヨコナシ・ウツバク	V-4	外風にスス。		
第4回 537	CIV区	水場	南ウチドウ	先生土器	複合口被覆	底立ぎのローラー底	底立ぎのローラー底	20.2	13.5~	底立ぎのローラー底 底立ぎの砂粒を 含む。	やや風・中風の砂 粒を含む。	風評だら・黒化 内風・淡白	ヨコナシ・タラバ ヨコナシ・ウツバク	V-4	外風にスス。		
第4回 538	CIV区	水場	クロ/ウチ	先生土器	複合口被覆	底立ぎのローラー底	底立ぎのローラー底	28.3	7.6~	底立ぎのローラー底 底立ぎの砂粒を 含む。	やや風・中風の砂 粒を含む。	風評だら・黒化 内風・淡白	ヨコナシ・タラバ ヨコナシ・ウツバク	V-4	外風にスス。		
第4回 539	CIV区	水場	クロ/ウチ	先生土器	複合口被覆	底立ぎのローラー底	底立ぎのローラー底	27.4	13.2~	底立ぎのローラー底 底立ぎの砂粒を 含む。	やや風・中風の砂 粒を含む。	風評だら・黒化 内風・淡白	ヨコナシ・タラバ ヨコナシ・ウツバク	V-4	外風にスス。		
第4回 540	CIV区	水場	クロ/ウチ	先生土器	複合口被覆	底立ぎのローラー底	底立ぎのローラー底	23.1	15.7~	底立ぎのローラー底 底立ぎの砂粒を 含む。	やや風・中風の砂 粒を含む。	風評だら・黒化 内風・淡白	ヨコナシ・タラバ ヨコナシ・ウツバク	V-4	外風にスス。		
第4回 541	CIV区	水場	クロ/ウチ	先生土器	複合口被覆	底立ぎのローラー底	底立ぎのローラー底	27.8	30.0~	底立ぎのローラー底 底立ぎの砂粒を 含む。	やや風・中風の砂 粒を含む。	風評だら・黒化 内風・淡白	ヨコナシ・タラバ ヨコナシ・ウツバク	V-4	外風にスス。		
第5回 542	CIV区	水場	クロ/ウチ	先生土器	複合口被覆	底立ぎのローラー底	底立ぎのローラー底	21.1	11.8~	底立ぎのローラー底 底立ぎの砂粒を 含む。	やや風・中風の砂 粒を含む。	風評だら・黒化 内風・淡白	ヨコナシ・タラバ ヨコナシ・ウツバク	V-4	外風にスス。		
第5回 543	CIV区	水場	クロ/ウチ	先生土器	複合口被覆	底立ぎのローラー底	底立ぎのローラー底	24.2	6.3~	底立ぎのローラー底 底立ぎの砂粒を 含む。	やや風・中風の砂 粒を含む。	風評だら・黒化 内風・淡白	ヨコナシ・タラバ ヨコナシ・ウツバク	V-4	外風にスス。		
第5回 544	CIV区	水場	クロ/ウチ	先生土器	複合口被覆	底立ぎのローラー底	底立ぎのローラー底	21.7	17.2~	底立ぎのローラー底 底立ぎの砂粒を 含む。	やや風・中風の砂 粒を含む。	風評だら・黒化 内風・淡白	ヨコナシ・タラバ ヨコナシ・ウツバク	V-4	外風にスス。		
第5回 545	CIV区	水場	クロ/ウチ	先生土器	複合口被覆	底立ぎのローラー底	底立ぎのローラー底	25.0	18.2~	底立ぎのローラー底 底立ぎの砂粒を 含む。	やや風・中風の砂 粒を含む。	風評だら・黒化 内風・淡白	ヨコナシ・タラバ ヨコナシ・ウツバク	V-4	外風にスス。		

第57表 遺物観察表(24)

番号	品名	地図	遺物	土塚地	埋戻	基準	特徴	口径	最大径	断面	風化	内	外	時代	備考
第56	56	CWRS	水場	クロド巻・クロ	生土器	複合口縫要	複合口縫立し複縫縫	22.1	19.5~	やや粗い、なまけの分厚	淡蒼白色	良好たる裏面	ヘラケズリ	ヨコナチ・タチハ	ヨコナチ・タチハ
第56	56	CWRS	水場	クロド巻・クロ	生土器	複合口縫要	複合口縫立し複縫縫	21.8	21.0~	やや粗い、なまけの分厚	淡蒼白色	良好たる裏面	ヘラケズリ	ヨコナチ・タチハ	ヨコナチ・タチハ
第56	56	CWRS	水場	クロド巻	生土器	複合口縫要	複合口縫立し複縫縫	26.9	21.3~	やや粗い、なまけの分厚	淡蒼白色	良好たる裏面	ヘラケズリ	ヨコナチ・タチハ	ヨコナチ・タチハ
第56	56	CWRS	水場	クロド巻	生土器	複合口縫要	複合口縫立し複縫縫	25.6	16.3~	やや粗い、なまけの分厚	淡蒼白色	良好たる裏面	ヘラケズリ	ヨコナチ・タチハ	ヨコナチ・タチハ
第56	56	CWRS	水場	クロド巻	生土器	複合口縫要	複合口縫立し複縫縫	21.0	10.7~	やや粗い、なまけの分厚	淡蒼白色	良好たる裏面	ヘラケズリ	ヨコナチ・タチハ	ヨコナチ・タチハ
第56	56	CWRS	水場	クロド巻	生土器	複合口縫要	複合口縫立し複縫縫	22.8	12.0~	やや粗い、なまけの分厚	淡蒼白色	良好たる裏面	ヘラケズリ	ヨコナチ・タチハ	ヨコナチ・タチハ
第56	56	CWRS	水場	クロ	生土器	複合口縫要	複合口縫立し複縫縫	20.2	8.7~	やや粗い、なまけの分厚	淡蒼白色	良好たる裏面	ヘラケズリ	ヨコナチ・タチハ	ヨコナチ・タチハ
第56	56	CWRS	水場	クロド巻・クロ	生土器	複合口縫要	複合口縫立し複縫縫	10.5	6.2~	やや粗い、なまけの分厚	淡蒼色	良好たる裏面	ヘラケズリ	ヨコナチ・タチハ	ヨコナチ・タチハ
第56	56	CWRS	土器裏り伝	17	土器裏	複合口縫要	複合口縫立し複縫縫	28.3	44.5	やや粗い、なまけの分厚	淡蒼色	良好たる裏面	ヘラケズリ	ヨコナチ・タチハ	ヨコナチ・タチハ
第56	56	CWRS	土器裏り伝	17	土器裏	複合口縫要	複合口縫立し複縫縫	23.4	17.5~	やや粗い、なまけの分厚	淡蒼白色	良好たる裏面	ヘラケズリ	ヨコナチ・タチハ	ヨコナチ・タチハ
第56	56	CWRS	水場	クロ・クロド	1部器	複合口縫要	複合口縫立し複縫縫	18.6	9.1~	やや粗い、なまけの分厚	淡蒼白色	良好たる裏面	ヘラケズリ	ヨコナチ・タチハ	ヨコナチ・タチハ
第56	56	CWRS	水場	クロ・クロド	1部器	複合口縫要	複合口縫立し複縫縫	16.2	5.7~	やや粗い、なまけの分厚	淡蒼色	良好たる裏面	ヘラケズリ	ヨコナチ・タチハ	ヨコナチ・タチハ
第56	56	CWRS	水場	クロド巻	土器裏	複合口縫要	複合口縫立し複縫縫	14.0	9.8	やや粗い、なまけの分厚	淡蒼色	良好	ヘラケズリ	ヨコナチ・タチハ	ヨコナチ・タチハ
第56	56	CWRS	水場	クロド巻	土器裏	複合口縫要	複合口縫立し複縫縫	13.6	5.4~	やや粗い、なまけの分厚	淡蒼色	良好	ヘラケズリ	ヨコナチ・タチハ	ヨコナチ・タチハ
第56	56	CWRS	水場	クロド巻	土器裏	複合口縫要	複合口縫立し複縫縫	18.6	5.6~	やや粗い、なまけの分厚	淡蒼色	良好	ヘラケズリ・ヨコナチ	ヨコナチ	ヨコナチ

第53表 潜物観察表(2)

通称	登録番号	地名	漁場	土種	漁法	若葉	特徴	口径	最大径	船形	底質	底土	色調	漁況	内	外	時代	備考
黒鰐	561	CHIKU	水場	クロ	土師器	袋口網張	合口網張り口網張	18.9	5.4~	やわらか	泥質	泥褐色	やや濃化して、 含む。	古墳中期	口網漁化			
黒鰐	562	CHIKU	水場	南クロ	土師器	袋口網張	合口網張り口網張	16.1	4.7~	やわらか	泥質	泥褐色	やや濃化して、 含む。	ヨコナデ	古墳中期	口網漁化		
黒鰐	563	CHIKU	水場	南クロ	土師器	袋口網張	合口網張り口網張	13.2	4.2~	やわらか	泥質	泥褐色	やや濃化して、 含む。	ヨコナデ	古墳中期	口網漁化		
黒鰐	564	CHIKU	水場		土師器	袋口網張	合口網張り口網張	16.8	5.3~	やわらか	泥質	泥褐色	やや濃化して、 含む。	ヨコナデ	古墳中期	口網漁化		
黒鰐	565	CHIKU	水場	南クロ・クロ	土師器	袋口網張	合口網張り口網張	17.5	3.8~	やわらか	泥質	泥褐色	やや濃化して、 含む。	ヨコナデ	古墳中期	口網漁化		
黒鰐	566	CHIKU	水場	トレンチ3	土師器	袋口網張	合口網張り口網張	16.6	5.6~	やわらか	泥質	泥褐色	やや濃化して、 含む。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳中期	口網漁化	
黒鰐	567	CHIKU	水場	クロ	土師器	袋口網張	合口網張り口網張	15.9	7.25~	やわらか	泥質	泥褐色	やや濃化して、 含む。	ヨコナデ	古墳中期	口網漁化	示色鉢形(1型)	
黒鰐	568	CHIKU	水場	南クロ	土師器	袋口網張	合口網張り口網張	18.3	7.1~	やわらか	泥質	泥褐色	やや濃化して、 含む。	ヨコナデ	古墳中期	口網漁化		
黒鰐	569	CHIKU	水場	クロ	土師器	袋口網張	合口網張り口網張	17.9	10.7~	やわらか	泥質	泥褐色	やや濃化して、 含む。	ヨコナデ	古墳中期	口網漁化		
黒鰐	570	CHIKU	水場	クロ下側	土師器	袋口網張	合口網張り口網張	21.8	10.2~	やわらか	泥質	泥褐色	良かげん風化して、 含む。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳中期	口網漁化	
黒鰐	571	CHIKU	水場	クロ下層	土師器	袋口網張	合口網張り口網張	20.5	5.2~	やわらか	泥質	泥褐色	良かげん風化して、 含む。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳中期	口網漁化	
黒鰐	572	CHIKU	水場	クロ	土師器	袋口網張	合口網張り口網張	21.6	5.5~	やわらか	泥質	泥褐色	やや濃化して、 含む。	ヨコナデ	古墳中期	口網漁化		
黒鰐	573	CHIKU	水場	クロ	土師器	袋口網張	合口網張り口網張	17.0	5.4~	やわらか	泥質	泥褐色	やや濃化して、 含む。	ヨコナデ	古墳中期	口網漁化		
黒鰐	574	CHIKU	水場	クロ・クロ下層	土師器	袋口網張	合口網張り口網張	21.6	11.0~	やわらか	泥質	泥褐色	やや濃化して、 含む。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳中期	口網漁化	
黒鰐	575	CHIKU	水場	クロ	土師器	袋口網張	合口網張り口網張	17.0	15.7~	やわらか	泥質	泥褐色	やや濃化して、 含む。	ヨコナデ	古墳中期	口網漁化		
黒鰐	576	CHIKU	水場	南クロ	土師器	袋口網張	合口網張り口網張	21.2	15.7~	やわらか	泥質	泥褐色	やや濃化して、 含む。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳中期	口網漁化	
黒鰐	577	CHIKU	水場	南クロ	土師器	袋口網張	合口網張り口網張	18.3	23.7~	やわらか	泥質	泥褐色	やや濃化して、 含む。	タリソウメ	ヨコナデ	古墳中期	口網漁化	
黒鰐	578	CHIKU	水場	南クロ	土師器	袋口網張	合口網張り口網張	24.0	6.9~	やわらか	泥質	泥褐色	やや濃化して、 含む。	タリソウメ	ヨコナデ	古墳中期	口網漁化	
黒鰐	579	CHIKU	水場	南クロ	土師器	袋口網張	合口網張り口網張	18.3	6.5~	やわらか	泥質	泥褐色	やや濃化して、 含む。	ヨコナデ	古墳中期	口網漁化		
黒鰐	580	CHIKU	水場	南クロ	土師器	袋口網張	合口網張り口網張	14.3	3.3~	やわらか	泥質	泥褐色	やや濃化して、 含む。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳中期	口網漁化	
黒鰐	581	CHIKU	水場	南クロ	土師器	袋口網張	合口網張り口網張	16.4	14.3~	やわらか	泥質	泥褐色	やや濃化して、 含む。	ヘラケズリ	ヨコナデ	古墳中期	口網漁化	
黒鰐	582	CHIKU	水場	南クロ	土師器	袋口網張	合口網張り口網張	20.3	4.4~	やわらか	泥質	泥褐色	やや濃化して、 含む。	ヨコナデ	古墳中期	口網漁化	外觀にスス。	

第60表 遺物観察表(2)

種類	遺物	地名	近縁	土器、石器	複合	使用	特徴	口縁	断大底	器高	底径	胎土	色調	焼成	内	外	時代	備考
漆器	漆器	水場	クロ	土器類	漆ぬき漆塗	漆ぬき漆外し見く外反	17.3	24.0	24.3~	やや濃い黒褐色	良	ペーパー状 漆ぬき漆外し見く外反	ヨコナデ・黒いタグ はナデ	古須中綱一張				
漆器	609	□印漆	水場	トレンチ	土器類	漆ぬき漆塗	漆ぬき漆外し見く外反	14.3	10.0~	やや濃い黒褐色	良	ペーパー状 漆ぬき漆外し見く外反	ヨコナデ・タラタラ	古須後期				
漆器	610	□印漆	水場	トレンチ	土器類	漆ぬき漆塗	漆ぬき漆外し見く外反	18.3	5.2~	やや濃い黒褐色	良	ペーパー状 漆ぬき漆外し見く外反	ヨコナデ・押さみ・古須後期	黒な造り				
漆器	611	□印漆	水場	クロ	土器類	漆ぬき漆塗	漆ぬき漆外し見く外反	16.2	26.0	27.7~	やや濃い黒褐色	良	ペーパー状 漆ぬき漆外し見く外反	ヨコナデ・黒いタグ はナデ	古須後期			
漆器	612	□印漆	水場	クロ	土器類	漆ぬき漆塗	漆ぬき漆外し見く外反	12.0	4.4~	やや濃い黒褐色	良	ヨコナデ・タラタラ	ヨコナデ・タラタラ	古須後期				
漆器	613	□印漆	水場	トレンチ	土器類	小豆火漆塗	漆ぬき漆外し見く外反	12.7	14.0~	やや濃い黒褐色	良	ヨコナデ・タラタラ	ヨコナデ・押さみ・古須後期	黒な造り				
漆器	614	□印漆	水場	トレンチ	土器類	小豆火漆塗	漆ぬき漆外し見く外反	11.3	7.8~	やや濃い黒褐色	良	ヨコナデ・タラタラ	ヨコナデ・黒いタグ はナデ	古須後期				
漆器	615	□印漆	水場	トレンチ	土器類	小豆火漆塗	漆ぬき漆外し見く外反	8.9	11.2	やや濃い黒褐色	良	ヨコナデ・タラタラ	ヨコナデ・タラタラ	古須後期				
漆器	616	□印漆	水場	クロ	土器類	小豆火漆塗	漆ぬき漆外し見く外反	11.9	9.1~	やや濃い黒褐色	良	ヨコナデ・タラタラ	ヨコナデ・タラタラ	古須後期				
漆器	617	□印漆	水場	クロ	土器類	小豆火漆塗	漆ぬき漆外し見く外反	13.0~	8.5~	やや濃い黒褐色	良	ヨコナデ・タラタラ	ヨコナデ・タラタラ	古須後期				
漆器	618	□印漆	水場	クロ	土器類	小豆火漆	漆ぬき漆外し見く外反	10.5	3.1~	やや濃い黒褐色	良	ヨコナデ・タラタラ	ヨコナデ・タラタラ	古須後期				
漆器	619	□印漆	水場	クロ	土器類	小豆火漆	漆ぬき漆外し見く外反	7.5	8.2	7.0~	やや濃い黒褐色	良	ヨコナデ・タラタラ	ヨコナデ・タラタラ	古須後期			
漆器	620	□印漆	水場	トレンチ	土器類	ミニチュア	漆ぬき漆外し見く外反	3.8	3.8	やや濃い黒褐色	良	ヨコナデ・タラタラ	ヨコナデ・タラタラ	古須後期				
漆器	621	□印漆	水場	クロ	土器類	小豆火漆	漆ぬき漆外し見く外反	5.1~	4.6~	やや濃い黒褐色	良	ヨコナデ・タラタラ	ヨコナデ・タラタラ	古須後期				
漆器	622	□印漆	水場	クロ	土器類	小豆火漆	漆ぬき漆外し見く外反	6.8	5.3~	やや濃い黒褐色	良	ヨコナデ・タラタラ	ヨコナデ・タラタラ	古須後期				
漆器	623	□印漆	水場	トレンチ	土器類	小豆火漆	漆ぬき漆外し見く外反	9.0	6.2	5.0~	やや濃い黒褐色	良	ヨコナデ・タラタラ	ヨコナデ・タラタラ	古須後期			
漆器	624	□印漆	水場	トレンチ	土器類	小豆火漆	漆ぬき漆外し見く外反	5.8	6.7	5.0~	やや濃い黒褐色	良	ヨコナデ・タラタラ	ヨコナデ・タラタラ	古須後期			
漆器	625	□印漆	水場	クロ	土器類	ルソボ	漆ぬき漆外し見く外反	10.5~	9.0~	やや濃い黒褐色	良	ヨコナデ・タラタラ	ヨコナデ・タラタラ	古須後期				
漆器	626	□印漆	水場	クロ	土器類	ルソボ	漆ぬき漆外し見く外反	5.8	5.8~	やや濃い黒褐色	良	ヨコナデ・タラタラ	ヨコナデ・タラタラ	古須後期				
漆器	627	□印漆	水場	クロ	土器類	ルソボ	漆ぬき漆外し見く外反	13.0~	10.5~	やや濃い黒褐色	良	ヨコナデ・タラタラ	ヨコナデ・タラタラ	古須後期				
漆器	628	□印漆	水場	トレンチ	土器類	ルソボ	漆ぬき漆外し見く外反	5.9~	5.9~	やや濃い黒褐色	良	ヨコナデ・タラタラ	ヨコナデ・タラタラ	古須後期				
漆器	629	□印漆	水場	トレンチ	土器類	ルソボ	漆ぬき漆外し見く外反	6.2~	6.2~	やや濃い黒褐色	良	ヨコナデ・タラタラ	ヨコナデ・タラタラ	古須後期				
漆器	630	□印漆	水場	クロ	土器類	ルソボ	漆ぬき漆外し見く外反	5.4~	5.4~	やや濃い黒褐色	良	ヨコナデ・タラタラ	ヨコナデ・タラタラ	古須後期				
漆器	631	□印漆	水場	クロ	土器類	ルソボ	漆ぬき漆外し見く外反	13.0~	13.0~	やや濃い黒褐色	良	ヨコナデ・タラタラ	ヨコナデ・タラタラ	古須後期				
漆器	632	□印漆	水場	クロ	土器類	ルソボ	漆ぬき漆外し見く外反	20.9	8.8~	やや濃い黒褐色	良	ヨコナデ・タラタラ	ヨコナデ・タラタラ	古須後期				
漆器	633	□印漆	水場	クロ	土器類	ルソボ	漆ぬき漆外し見く外反	3.7~	7.4	やや濃い黒褐色	良	ヨコナデ・タラタラ	ヨコナデ・タラタラ	古須後期				
漆器	634	□印漆	水場	クロ	土器類	ルソボ	漆ぬき漆外し見く外反	3.6~	7.6	やや濃い黒褐色	良	ヨコナデ・タラタラ	ヨコナデ・タラタラ	古須後期				

第61表 遺物觀察表(2)

番号	遺物名	地区	土壤	土壌化	種別	特徴	年齢	口径	底穴径	縫隙	底性	出土	色調	斑状	内	外	時代	備考
第498	634	中区	水場	クロ	先生土器	淡又は黒	底部ナフ。	7.8~	6.8	やや青	白色	白黄色	小豆の青	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	Y=4
第499	635	中区	水場	黒クロ	先生土器	淡又は黒	底部くぼむ	5.5~	4.8	赤身	白色	赤子の底に黒い	底部向う側	タリガタゾ	ナシ	ナシ	ナシ	内面に赤色。
第500	636	中区	水場	トレンチ	先生土器	淡	底部の剥がれ。	4.4~	4.4	赤身	白色	やや青	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	Y=4	外圍にスス。	
第501	637	中区	水場	クロマヨ	先生土器	淡又は黒	底部よけ黒。	12.7~	5.0	白	白色	底部の剥がれを含	深茶色	ハラケヅリ	ナシ	Y=3~4	外周にスス。	
第502	638	中区	水場	トレンチ	先生土器	淡又は黒	底部の剥がれ。	8.1~	6.5	赤身	白色	やや青	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	古墳初期。
第503	639	中区	水場	クロ	土器類	黄	大亞品	14.9~	4.2	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	3500年と想われる。
第504	640	中区	水場	クロ	土器	墨	底部の剥がれ等。	9.9~	3.2~	赤身	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	内面にスス。
第505	641	中区	水場	クロ	先生土器	淡又は黒	底部の剥がれ。	5.9~	0.5	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	外周にスス。
第506	642	中区	水場	黒クロ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	11.5~	6.7	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	外周にスス。
第507	643	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ等。	9.4~	5.5~	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	内面にスス。
第508	644	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	9.2~	5.5~	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	内面にスス。
第509	645	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	9.1~	5.5~	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	内面にスス。
第510	646	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	21.2	5.0	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	外周にスス。
第511	647	中区	水場	黒クロ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	21.2	5.0	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	外周にスス。
第512	648	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ等。	9.4~	5.5~	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	内面にスス。
第513	649	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	9.2~	5.5~	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	内面にスス。
第514	650	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	9.1~	5.5~	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	内面にスス。
第515	651	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	24.4	4.8~	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	外周にスス。
第516	652	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	24.4	4.8~	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	外周にスス。
第517	653	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	22.9	4.8~	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	外周にスス。
第518	654	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	21.5	4.9~	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	外周にスス。
第519	655	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	20.0	7.3~	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	外周にスス。
第520	656	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	19.6	6.4~	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	外周にスス。
第521	657	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	5.5~	6.5~	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	外周にスス。
第522	658	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	10.9~	14.0	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	外周にスス。
第523	659	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	11.5~	15.7	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	外周にスス。
第524	660	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	9.0~	10.5~	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	外周にスス。
第525	661	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	6.3~	8.5~	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	外周にスス。
第526	662	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	6.3~	8.5~	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	外周にスス。
第527	663	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	6.3~	8.5~	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	外周にスス。
第528	664	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	6.3~	8.5~	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	外周にスス。
第529	665	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	6.3~	8.5~	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	外周にスス。
第530	666	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	6.3~	8.5~	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	外周にスス。
第531	667	中区	水場	クロドコ	先生土器	薄灰	底部の剥がれ。	11.0~	13.7	やや青	白色	底部の剥がれ。	底部の剥がれ	ハラケヅリ	ナシ	ナシ	ナシ	外周にスス。

第62表 遺物觀察表(2)

第63表 遺物観察表(3)

番号	品名	地図	遺跡	土器・石	種別	特徴	口径	底直径	高さ	底形	處理	胎土	色調	底質	外	時代	備考	
第63表	681	C79区	水場	青口	浮出土器	陶片土器	大底の泡手。	4.9~	中や深い泡手を含む、	褐色	風	ヘラクゼリ、	ハケアリ	暗	赤色地に黒、	-	-	
第63表	682	C79区	水場	クロド縁	土器破	低底土器	口縁部に縁を持つ。	11.2	46.0	61.7	36.4	やや粗い底以下の砂	褐色	風	ヘラクゼリ、タマ	ハケアリ下	V-4-古墳	
第63表	683	C79区	水場	クロ	土器	不明土器	底部に縁を持つ。	12.0	幅4.0	3.5~	やや粗い底以下の砂	褐色	風	ヘラクゼリ、タマ	ハケアリ下	外周に朱入化。		
第63表	684	C79区	水場	トレンチ3	浮出土器	鉢	底部肥厚でくびれなし。	14.6	15.1	9.1	5.0~	やや粗い底以下の砂	褐色	風	ヘラクゼリ、	ナデ	生土状態	
第63表	685	C79区	水場	トレンチ4	土器	鉢	内側に口縁部に凹	17.2	6.1~	やや粗い底以下の砂	褐色	良好	良好	良好	ヘラクゼリ	不規	内面にスズ。	
第63表	686	C79区	水場	クロコ縁	土器破	鉢	内側に口縁部に凹	16.5	17.2	8.7	やや粗い底以下の砂	褐色	良好	良好	ヘラクゼリ	ナデ	内面に朱入化。	
第63表	687	C79区	水場	クロ	土器破	鉢	内側に口縁部に凹	12.0	12.6	6.9	やや粗い底以下の砂	褐色	良好	良好	ヘラクゼリ	ナデ	内面に朱入化。	
第63表	688	C79区	水場	トレンチ3	浮出土器	土器	底部肥厚でくびれなし。	11.1	11.5	6.2	2.0~	やや粗い底以下の砂	褐色	良好	良好	ヘラクゼリ	ナデ	生土状態
第63表	689	C79区	水場	クロ	土器破	鉢	底部肥厚でくびれなし。	11.0	11.3	5.2~	やや粗い底以下の砂	褐色	良好	良好	ヘラクゼリ	ナデ	内面に朱入化。	
第63表	690	C79区	水場	クロ	土器破	鉢	底部肥厚でくびれなし。	12.9	13.3	5.3~	やや粗い底以下の砂	褐色	良好	良好	ヘラクゼリ	ナデ	内面に朱入化。	
第63表	691	C79区	水場	青口	土器破	鉢	口縁部内外折り出し。	13.5	13.8	6.2	やや粗い底以下の砂	褐色	良好	良好	ヘラクゼリ	ナデ	内面に朱入化。	
第63表	692	C79区	水場	クロ	土器破	鉢	口縁部内外折り出し。	15.1	15.8	6.5	やや粗い底以下の砂	褐色	良好	良好	ヘラクゼリ	ナデ	内面に朱入化。	
第63表	693	C79区	水場	クロ	土器破	鉢	内側底部に立ち止まる唇	11.6	12.4	4.6	やや粗い底以下の砂	褐色	良好	良好	ヘラクゼリ	ナデ	内面に朱入化。	
第63表	694	C79区	水場	クロド縁	土器破	鉢	口縁部内外折り出し。	10.4	11.1	5.4	やや粗い底以下の砂	褐色	良好	良好	ヘラクゼリ	ナデ	内面に朱入化。	
第63表	695	C79区	水場	青クロ	土器破	鉢	口縁部内外折り出し。	11.4	13.4	4.1~	やや粗い底以下の砂	褐色	良好	良好	ヘラクゼリ	ナデ	内面に朱入化。	
第63表	696	C79区	水場	クロ	土器破	鉢	口縁部内外折り出し。	14.3	16.2	4.8~	やや粗い底以下の砂	褐色	良好	良好	ヘラクゼリ	ナデ	内面に朱入化。	
第63表	697	C79区	水場	クロクロド	土器破	鉢	口縁部内外折り出し。	12.7	14.3	4.7~	やや粗い底以下の砂	褐色	良好	良好	ヘラクゼリ	ナデ	内面に朱入化。	
第63表	698	C79区	水場	クロ	土器破	鉢	口縁部内外折り出し。	13.4	14.9	4.6~	やや粗い底以下の砂	褐色	良好	良好	ヘラクゼリ	ナデ	内面に朱入化。	
第63表	699	C79区	水場	クロコ縁	土器破	鉢	口縁部内外折り出し。	12.5	13.2	4.9~	やや粗い底以下の砂	褐色	良好	良好	ヘラクゼリ	ナデ	内面に朱入化。	
第63表	700	C79区	水場	クロ縁	土器破	鉢	やや内側に立つ口縁部	12.4	13.0	5.5	やや粗い底以下の砂	褐色	良好	良好	ヘラクゼリ	ナデ	内面に朱入化。	
第63表	701	C79区	水場	クロクロド	土器破	鉢	口縁部内外折り出し。	13.8	15.0	5.1~	やや粗い底以下の砂	褐色	良好	良好	ヘラクゼリ	ナデ	内面に朱入化。	
第63表	702	C79区	水場	クロ下縁	土器破	鉢	口縁部内外折り出し。	12.4	13.3	5.6	やや粗い底以下の砂	褐色	良好	良好	ヘラクゼリ	ナデ	内面に朱入化。	

第64表 遺物觀察表(31)

第65表 遺物相容表(3)

第66表 遺物觀察表(33)

種別	品種	地名	通称	工場名	種別	品種	特徴	口径	乾燥	膨脹	温度	内	外	時代	備考
黒豆	黒豆	水郷	水郷	土師器	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	10.5	14.7-	10.0	をもむく	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	755	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	12.8	2.8-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	757	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	12.8	2.8-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	758	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	12.7	3.8-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	759	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	16.2	3.4-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	760	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	16.3	3.4-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	761	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	16.2	4.3-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	762	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	16.0	3.0-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	763	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	16.0	4.6	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	764	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	12.6	2.5-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	765	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	14.3	3.0-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	766	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	12.3	2.3-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	767	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	16.2	3.3-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	768	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	13.8	3.1-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	769	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	15.6	3.1-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	770	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	12.6	3.7	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	771	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	12.1	3.5-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	772	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	9.2	11.6	4.2-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	773	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	11.5	13.6	3.5-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	774	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	8.8	12.0	2.8-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	775	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	12.3	14.6	2.0-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	776	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	12.8	15.7	4.5-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	777	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	11.4	13.6	3.8	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	778	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	13.6	16.0	3.8-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	779	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	12.8	15.2	3.3-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	780	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	11.5	14.4	2.9-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	781	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	11.7	13.6	3.5-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	782	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	11.2	13.3	3.5	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆
黒豆	783	C区	水郷	トレンチ	黒豆豆	豆豆豆	豆豆豆	11.3	13.7	3.8-	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆	豆豆豆

第62表 遺物觀察表(3)

- 96 -

種類	品名	地区	土層	柱形	幅員	特徴	口径	最大深	形状	埋没	周土	色調	傾仄	内	外	時代	備考
器																	
第101	784	C地区	木場	古かへ木場	須恵器	外	口縁直・底端斜め・ 側面下部斜	12.3	14.3	2.3	直 筒	青灰色	不規	圓柱ナデ	圓柱ヘラクゼ	古墳後期	
第102	785	C地区	木場	クロコラクロ	須恵器	外	口縁直・底端丸く收め る。	12.7	14.8	3.3	直 筒	青灰色	やや不良、黒化し てゐる。	圓柱ナデ・不 規	圓柱ヘラクゼ	古墳後期	
第103	786	C地区	木場	クロド管	須恵器	外	口縁直・外反し・右切約 1.5cm	12.0	14.4	2.6~	直 筒	青灰色	やや不良、黒化し てゐる。	圓柱ナデ	圓柱ヘラクゼ	古墳後期	
第104	787	C地区	木場	クロド管	須恵器	外	口縁直・左切約0.5cm	7.8	10.0	2.0~	直 筒	青灰色	圓柱ナデ	圓柱ナデ	古墳後期		
第105	788	C地区	木場	青ヶ口	須恵器	外	口縁直・左切約0.5cm	12.6	14.4	2.7	直 筒	青灰色	良好、ただし黒化 してゐる。	圓柱ナデ	圓柱ヘラクゼ	古墳後期	
第106	789	C地区	木場	クロド管	須恵器	外	口縁内反・底端丸く收め る。	10.8	13.2	2.1~	直 筒	青灰色	圓柱ナデ	圓柱ナデ	古墳後期		
第107	790	C地区	木場	クロ	須恵器	外	口縁内反・底端丸く收め る。	12.4	14.5	3.2~	直 筒	青灰色	良好、ただし黒化し てゐる。	圓柱ナデ	圓柱ヘラクゼ	古墳後期	
第108	791	C地区	木場	クロ	須恵器	外	口縁内反・底端丸く收め る。表面多く錆斑有り。	11.7	13.0	3.7~	直 筒	青灰色	やや不良、黒化し てゐる。	圓柱ナデ	圓柱ヘラクゼ	古墳後期	
第109	792	C地区	木場	クロ	須恵器	外	口縁直・外反し・底端丸く 收める。	21.8	24.0	3.7~	直 筒	青灰色	やや不良、黒化し てゐる。	圓柱ナデ	圓柱ヘラクゼ	古墳後期	
第110	793	C地区	木場	クロ	須恵器	外	口縁内反・底端丸く收める。	11.9	14.8	3.9~	直 筒	青灰色	良好、ただし黒化し てゐる。	圓柱ナデ	圓柱ヘラクゼ	古墳後期	
第111	794	C地区	木場	青ヶ口	須恵器	外	口縁内反・底端丸く收め る。	14.9	17.4	3.7~	直 筒	青灰色	良好、ただし黒化し てゐる。	圓柱ナデ	圓柱ヘラクゼ	古墳後期	
第112	795	C地区	木場	青ヶ口	須恵器	外	口縁内反・底端丸く收め る。	15.1	17.5	5.0~	直 筒	青灰色	良好、ただし黒化し てゐる。	圓柱ナデ	圓柱ヘラクゼ	古墳後期	
第113	796	C地区	木場	トレンチ子	須恵器	外	口縁内反・底端丸く收め る。	14.9	17.6	5.1	直 筒	青灰色	良好、ただし黒化し てゐる。	圓柱ナデ	圓柱ヘラクゼ	古墳後期	
第114	797	C地区	木場	トレンチ子	須恵器	外	口縁内反・底端丸く收め る。	10.4	12.5	4.0	直 筒	青灰色	やや不良、黒化し てゐる。	圓柱ナデ	圓柱ヘラクゼ	古墳後期	
第115	798	C地区	木場	クロ	須恵器	外	口縁外反・底端丸く收め る。	14.4	16.0	4.0~	直 筒	青灰色	良好、ただし黒化し てゐる。	圓柱ナデ	圓柱ヘラクゼ	古墳後期	
第116	799	C地区	木場	クロ	須恵器	外	口縁外反・底端丸く收め る。	13.7	14.4	3.4~	直 筒	青灰色	良好、ただし黒化し てゐる。	圓柱ナデ	圓柱ヘラクゼ	古墳後期	
第117	800	C地区	木場	底下膨脹	須恵器	高	外反する様、底いよいよ 膨脹する。	14.5	17.0	3.7~	直 筒	青灰色	良好、ただし黒化し てゐる。	圓柱ナデ	圓柱ヘラクゼ	古墳後期	
第118	801	C地区	木場	クロド管	須恵器	高	口縁外反・底端丸く收め る。	15.2	17.0	3.2~	直 筒	青灰色	良好、ただし黒化し てゐる。	圓柱ナデ	圓柱ヘラクゼ	古墳後期	
第119	802	C地区	木場	クロド管	須恵器	高	口縁外反・底端丸く收め る。	15.2	17.0	3.2~	直 筒	青灰色	良好、ただし黒化し てゐる。	圓柱ナデ	圓柱ヘラクゼ	古墳後期	
第120	803	C地区	木場	クロド管	須恵器	高	口縁外反・底端丸く收め る。	15.2	17.0	3.2~	直 筒	青灰色	良好、ただし黒化し てゐる。	圓柱ナデ	圓柱ヘラクゼ	古墳後期	
第121	804	C地区	木場	クロド管	須恵器	高	口縁外反・底端丸く收め る。	15.2	17.0	3.2~	直 筒	青灰色	良好、ただし黒化し てゐる。	圓柱ナデ	圓柱ヘラクゼ	古墳後期	
第122	805	C地区	木場	クロ・クロド	須恵器	高	口縁や内肩・底端失形 する。	11.8	14.3	8.4~	直 筒	青灰色	やや不良、黒化し てゐる。	圓柱ナデ	圓柱ヘラクゼ	古墳後期	
第123	806	C地区	木場	クロ	須恵器	高	口縁外反・底端失形 する。	3.5~	7.0	直 筒	青灰色	良好、ただし黒化し てゐる。	圓柱ナデ	圓柱ヘラクゼ	古墳後期		

第66表 遺物觀察表(3)

件名	品物	地区	説明	土居類	種別	説明	特徴	口径	最大径	高さ	底形	胎土	色調	調査	内	外	時代	備考
第67	507	CENS	水槽	クロ	湯沸器	高环	断面形に窓を有す。	7.4~	(3.2)	高さ10mm以下の細口。表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器			
第68	600	CENS	水槽	クロ	湯沸器	高环	断面形に窓を持つ。	6.2~		表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	
第69	807	CENS	水槽	クロ	湯沸器	高环	断面形に窓を持つ。	9.3~		表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	
第70	810	CENS	水槽	クロ・クロア	湯沸器	高环	断面形に窓を持つ。	6.6~		表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	
第71	811	CENS	水槽	クロ下脚	湯沸器	高环	断面形に窓を持つ。	4.4~		表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	
第72	812	CENS	水槽	高クロ	湯沸器	高环	断面の窓。	4.3~		表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	
第73	813	CENS	水槽	高クロ	湯沸器	高环	断面の窓。	9.1~		表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	
第74	814	CENS	水槽	クロ	湯沸器	高环	断面の窓。	3.8~		表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	
第75	815	CENS	水槽	カベ・クロ	湯沸器	高环	断面の窓。	4.1~		表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	
第76	816	CENS	水槽	高クロ	湯沸器	高环	断面の窓。	4.1~		表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	
第77	817	CENS	水槽	高クロ	湯沸器	高环	断面の窓。	3.5~		表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	
第78	818	CENS	水槽	クロ	湯沸器	高环	断面の窓。	7.5~		表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	
第79	819	CENS	水槽	高環	湯沸器	高环	断面の窓。	4.1~		表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	
第80	820	CENS	水槽	クロ	湯沸器	高环	断面の窓。	6.3~	9.9	表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	
第81	821	CENS	水槽	クロ	湯沸器	高环	断面の窓。	1.9~	15.0	表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	
第82	822	CENS	水槽	クロ	湯沸器	高环	断面の窓。	7.3~	10.2	表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	
第83	823	CENS	水槽	クロ	湯沸器	高环	断面の窓。	4.4~	8.0	表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	
第84	824	CENS	水槽	高クロ	湯沸器	高环	断面の窓。	1.0~	9.8	表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	
第85	825	CENS	水槽	高環	湯沸器	高环	断面の窓。	1.8~	13.0	表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	
第86	826	CENS	水槽	高クロ	湯沸器	高环	断面の窓。	2.7~	9.4	表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	
第87	827	CENS	水槽	クロ	湯沸器	高环	断面の窓。	2.7~	15.0	表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	
第88	828	CENS	水槽	クロ下脚	湯沸器	高环	断面の窓。	5.9~		表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	
第89	829	CENS	水槽	クロ	湯沸器	高环	断面の窓。	3.1~		表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	
第90	830	CENS	水槽	トレンチ	湯沸器	高环	断面の窓。	20.1		表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	
第91	831	CENS	水槽	クロ	湯沸器	高环	断面の窓。	20.1		表面無光澤。	深灰色	不規	断面テ	凹板ナデ	古墳陶器	古墳時代後葉	蓋ねえ。	

第69表 遺物觀察表(36)

番号	品名	地名	遺物	土器類	種別	器種	特徴	口径	瓶大径	底面	底足	色調	底質	内	外	時代	備考
第13	832	CWRS	水場	クロ	漆器	漆器	口縁漆器	16.4	7.4~	やや厚い、1mmの厚	漆器色	黒	同心内タリキ	田代ナード	タリキコナード	古墳後期	
第13	833	CWRS	水場	クロ	漆器	漆器	口縁漆器、	16.4	7.6~	漆器色	黒	同心内タリキ	タリキコナード	古墳後期			
第13	834	CWRS	水場	クロ・青クロ	漆器	漆器	口縁くぼめる。	17.7	6.1~	漆器色	黒	同心内タリキ	タリキコナード	古墳後期			
第13	835	CWRS	水場	クロ	漆器	漆器	口縁漆器、不明	17.7~	6.1~	漆器色	黒	同心内タリキ	タリキコナード	古墳後期			
第13	836	CWRS	水場	クロド羅	漆器	漆器	口縁漆器、不明	9.4	3.0~	漆器色	黒	同心内タリキ	タリキコナード	古墳後期			
第13	837	CWRS	水場	クロ	漆器	漆器	口縁外反、底端内凹に因	11.3	4.0~	漆器色	黒	同心内タリキ	タリキコナード	古墳後期			
第13	838	CWRS	水場	クロド羅	漆器	漆器	口縁漆器、深める。	7.6	5.7~	漆器色	黒	同心内タリキ	タリキコナード	古墳後期			
第13	839	CWRS	水場	クロ・青クロ	漆器	漆器	漆器内凹に因	4.2~	7.9	漆器色	黒	同心内タリキ	タリキコナード	古墳後期			
第13	840	CWRS	水場	クロド羅	漆器	漆器	口縁漆器、深める。	6.7	15.5	漆器色	黒	同心内タリキ	タリキコナード	古墳後期			
第13	841	CWRS	水場	クロ	漆器	漆器	口縁漆器、深める。	9.9	1.8~	漆器色	黒	同心内タリキ	タリキコナード	古墳後期			
第13	842	CWRS	水場	クロ	漆器	漆器	口縁漆器を含む。	12.2~	6.1~	漆器色	黒	同心内タリキ	タリキコナード	古墳後期			
第13	843	CWRS	水場	クロ	漆器	漆器	口縁漆器、ハンドル	6.4~	6.4~	漆器色	黒	同心内タリキ	タリキコナード	古墳後期			
第13	844	CWRS	水場	クロ・青クロ	漆器	漆器	口縁漆器、ハンドル	6.4~	6.4~	漆器色	黒	同心内タリキ	タリキコナード	古墳後期			
第13	845	CWRS	水場	クロ	漆器	漆器	口縁漆器、ハンドル	6.4~	6.4~	漆器色	黒	同心内タリキ	タリキコナード	古墳後期			
第13	846	CWRS	水場	クロ	漆器	漆器	口縁漆器、ハンドル	6.4~	6.4~	漆器色	黒	同心内タリキ	タリキコナード	古墳後期			
第13	847	CWRS	水場	クロ	漆器	漆器	口縁漆器、ハンドル	6.4~	6.4~	漆器色	黒	同心内タリキ	タリキコナード	古墳後期			
第13	848	CWRS	水場	クロ	漆器	漆器	口縁漆器、ハンドル	6.4~	6.4~	漆器色	黒	同心内タリキ	タリキコナード	古墳後期			
第13	849	CWRS	水場	クロ・青クロ	漆器	漆器	口縁漆器、ハンドル	10.1~	6.3	漆器色	黒	同心内タリキ	タリキコナード	古墳後期			
第13	850	CWRS	水場	クロ	漆器	漆器	口縁漆器、ハンドル	10.1~	6.3	漆器色	黒	同心内タリキ	タリキコナード	古墳後期			
第13	851	CWRS	水場	クロ	漆器	漆器	口縁漆器、ハンドル	10.1~	6.3	漆器色	黒	同心内タリキ	タリキコナード	古墳後期			
第13	852	CWRS	水場	クロ	漆器	漆器	口縁漆器、ハンドル	8.6~	6.1~	漆器色	黒	同心内タリキ	タリキコナード	古墳後期			
第13	853	CWRS	水場	クロ	漆器	漆器	口縁漆器、ハンドル	2.8~	2.8~	漆器色	黒	同心内タリキ	タリキコナード	古墳後期			
第13	854	CWRS	水場	クロ	漆器	漆器	口縁漆器、ハンドル	12.4~	12.4~	漆器色	黒	同心内タリキ	タリキコナード	古墳後期			
第13	855	CWRS	水場	クロ	漆器	漆器	口縁漆器、ハンドル	16.0	5.0~	漆器色	黒	同心内タリキ	タリキコナード	古墳後期			

第70表 遺物観察表(3)

番号	遺物名	地区	種類	土壌名	埋没	若葉	特徴	口径	最大径	輪郭	底質	地質	陶器	焼成	内	外	時代	備考
第14	554	5V8	大溝	クロ	先生土器	複合口縦張	複合口縦張、底堅く厚	15.8	4.4~	やや堅い口縦張	茶褐色	良などら盛り	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	V-4~古墳		
第15	653	5V8-E	大溝	クロ	先生土器	複合口縦張	複合口縦張し底堅く厚	15.4	5.3~	やや堅い口縦張	茶褐色	良などら盛り	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	V-2		
第16	654	5V8-E	大溝	クロ	先生土器	口上土器	先端丸い底凹	15.5	4.8~	やや堅い口縦張	茶褐色	やや不規則化	ヘラケズリ	ハケル	先生土器	外圍にスス。		
第17	657	C	大溝	先生土器	底	圓筒ぼかし		3.3	1.8~	軽い口縦張	茶褐色	石目風化して不規	不規	不規	不規	V-1~2	初期部の有無	
第18	658	8V2	大溝	東クロ	先生土器	複合口縦張	複合口縦張し底堅く厚	16.8	5.3~	やや堅い口縦張	茶褐色	良などら盛り	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	V-2	外周にスス。	
第19	659	8V2	大溝	東クロ	先生土器	複合口縦張	複合口縦張し底堅く厚	17.4	6.3~	やや堅い口縦張	茶褐色	やや不規則化	ヘラケズリ	ハケル	先生土器	外圍にスス。		
第20	660	8V2	大溝	東クロ	先生土器	複合口縦張	複合口縦張し底堅く厚	25.0	5.8~	やや堅い口縦張	茶褐色	良などら盛り	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	V-3	外周にスス。	
第21	661	8V2	大溝	东	先生土器	複合口縦張	複合口縦張し底堅く厚	20.7	6.8~	やや堅い口縦張	茶褐色	やや風化	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	V-2		
第22	662	8V2	大溝	クロ	先生土器	複合口縦張	複合口縦張し底堅く厚	30.1	6.6~	やや堅い口縦張	茶褐色	やや風化	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	V-2		
第23	663	8V2	大溝	東クロ	先生土器	複合口縦張	複合口縦張し底堅く厚	20.8	8.3~	やや堅い口縦張	茶褐色	良などら盛り	ヘラケズリ	ハケル	ハケル	V-3		
第24	664	8V2	大溝	東	先生土器	複合口縦張	複合口縦張し底堅く厚	12.5	5.6~	やや堅い口縦張	茶褐色	良などら盛り	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	V-3		
第25	665	8V2-E	大溝	クロ	先生土器	複合口縦張	複合口縦張し底堅く厚	5.5~	やや堅い口縦張	茶褐色	やや風化	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	V-3	内面に赤色斑。		
第26	666	8V2-E	大溝	クロ	先生土器	複合口縦張	複合口縦張し底堅く厚	16.7	8.5~	やや堅い口縦張	茶褐色	良などら盛り	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	V-4~古墳		
第27	667	8V2	大溝	トレンチ4	先生土器	複合口縦張	複合口縦張し底堅く厚	12.5	6.1~	やや堅い口縦張	茶褐色	良などら盛り	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	V-4	外周にスス。	
第28	668	8V2	大溝	クロド下	先生土器	複合口縦張	複合口縦張し底堅く厚	17.4	12.3~	やや堅い口縦張	茶褐色	良などら盛り	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	V-3		
第29	669	8V2-E	大溝	クロ	先生土器	複合口縦張	複合口縦張し底堅く厚	21.4	10.0~	やや堅い口縦張	茶褐色	良などら盛り	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	V-3		
第30	670	8V2-E	大溝	クロ	先生土器	複合口縦張	複合口縦張し底堅く厚	16.0	7.5~	やや堅い口縦張	茶褐色	良などら盛り	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	V-3		
第31	671	8V2	大溝	東クロ	先生土器	複合口縦張	複合口縦張し底堅く厚	30.2	14.4~	やや堅い口縦張	茶褐色	良などら盛り	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	V-4	外周にスス。	
第32	672	8V2	大溝	クロ	先生土器	複合口縦張	複合口縦張し底堅く厚	27.5	9.2~	やや堅い口縦張	茶褐色	良などら盛り	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	V-3	外周にスス。	
第33	673	8V2	大溝	東クロ	先生土器	複合口縦張	複合口縦張し底堅く厚	12.4	8.3~	やや堅い口縦張	茶褐色	良などら盛り	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	V-3	内面にスス。	
第34	674	8V2	大溝	底	先生土器	複合口縦張	複合口縦張し底堅く厚	17.3	4.4~	軽い口縦張	茶褐色	良などら盛り	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	V-2~3		
第35	675	8V2	大溝	東クロ	先生土器	複合口縦張	複合口縦張し底堅く厚	17.3	8.0~	やや堅い口縦張	茶褐色	良などら盛り	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	V-3	内面にスス。	
第36	676	8V2	大溝	東クロ	先生土器	複合口縦張	複合口縦張し底堅く厚	19.3	4.3~	やや堅い口縦張	茶褐色	良などら盛り	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	V-3	内面にスス。	
第37	677	8V2	大溝	東クロ	先生土器	複合口縦張	複合口縦張し底堅く厚	16.5	7.0~	やや堅い口縦張	茶褐色	良などら盛り	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	V-3	内面にスス。	
第38	678	8V2	大溝	東クロ	先生土器	複合口縦張	複合口縦張し底堅く厚	17.6	15.0~	やや堅い口縦張	茶褐色	良などら盛り	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヨコナデ	V-3	内面にスス。	

第71表 遺物觀察表(36)

番号	遺物名	地区	遺構	土層	種別	断面	特徴	口径	最大径	幅	厚さ	風溝	削面	端土	側面	底面	内	外	時代	備考
第15	石器	819	BIV区	大溝	直クロ	土堆場	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	11.1	15.1	8.5~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ハサメ-ヨコナメ	古墳時代	外側にスズ。		
第16	403	BIV区	大溝	直クロ	土堆場	直	土堆場	後部口縫狭く	7.2~	10.0~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ハサメ-ヨコナメ	V-4	古墳時代			
第17	681	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	14.0	10.0~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ハツク-ハツク	ハサメ-ヨコナメ	V-4	水場と大溝の土器群			
第18	682	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	21.6	8.9~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ハツク-ハツク	ハサメ-ヨコナメ	V-4	水場と大溝の土器群			
第19	683	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	14.2	4.7~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ヨコナメ	古墳後期	外圍にスズ-内圍にス				
第20	684	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	11.4	10.4~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ヨコナメ	古墳後期	外圍にスズ-内圍にス				
第21	685	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	16.7	12.0~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ヨコナメ	古墳中後期	外圍にスズ。				
第22	686	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	21.4	26.7~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ヨコナメ	古墳中後期	外圍にスズ-内圍にス				
第23	687	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	11.4	9.0~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ヨコナメ	古墳後期	外圍にスズ。				
第24	688	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	14.0	10.8~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ヨコナメ	古墳後期	外圍にスズ。				
第25	689	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	9.4	5.5~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ヨコナメ	古墳後期	外圍にスズ。				
第26	690	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	9.8	4.9~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ヨコナメ	古墳後期	外圍にスズ。				
第27	691	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	10.3	8.1~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ヨコナメ	古墳後期	外圍にスズ。				
第28	692	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	10.4	6.2~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ヨコナメ	古墳後期	外圍にスズ。				
第29	693	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	5.8	5.5~	2.8	2.8	直口縦下の鉢形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ヨコナメ	古墳後期	外圍にスズ。		
第30	694	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	7.0	8.3	4.1~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ヨコナメ	古墳後期	外圍にスズ。			
第31	695	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	5.8	5.6~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ヨコナメ	古墳後期	外圍にスズ。				
第32	696	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	7.6	13.1	7.7~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ヨコナメ	古墳後期	外圍にスズ。			
第33	697	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	8.3	4.7~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ヨコナメ	古墳後期	外圍にスズ。				
第34	698	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	1.8~	3.8	2.0~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ヨコナメ	V-4	古墳時代			
第35	699	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	7.4	1.3~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ヨコナメ	V-4	古墳時代				
第36	700	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	4.0	9.5	9.5~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ヨコナメ	V-4	古墳時代			
第37	701	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	7.8~	7.8~	7.8~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ヨコナメ	V-2~3	古墳時代			
第38	702	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	8.3~	8.3~	8.3~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ヨコナメ	V-4	古墳時代			
第39	703	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	12.0	8.7~	8.7~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ヨコナメ	古墳後期	内圍にスズ。			
第40	704	BIV区	大溝	直クロ	土器	直口縦	前部切欠きなし後部丸く	3.0~	3.0~	3.0~	やや斜め-円錐形	深褐色	奥から後方にへっかく形	ハッカク-ハゼ	ヨリナギ-ヨコナメ	V-4	古墳時代			

第72表 遺物観察表(3)

番号	遺物	地区	遺物	土種類	種別	性状	特徹	口径	出大径	留葉	周径	胎土	色調	底床	内	外	時代	備考
第67	965	ENVK	大津	瓦クロ	土器	灰外 土器	表面にすらすらと滑らか な質感、匂いがする。	13.6	1.8~	なめらか・滑らかな妙 を含む。	白色	不透明化して いる。	不透明 で白っぽい。	不明	不明	不明	不明	
第68	966	ENVK	大津	瓦クロ	土器	灰外 土器	表面感、匂いがある。	7.5~	12.7	やわらか・匂いの妙 を含む。	淡青色	良 好。	9.5~10.5 cm	ヘラミガキ 面へラミガキ	ヘラミガキ 面へラミガキ	古墳中期~後	古墳中期~後	
第69	967	ENVK	大津	瓦クロ	土器	生土器 瓦クロ	表面感、匂いがある。	4.2~	4.2~	やわらか・匂いの妙 を含む。	淡青色	良 好。	4.2~	4.2~	4.2~	V~A	V~A	
第70	968	ENVK	大津	瓦クロ	土器	土器感 瓦クロ	表面がべたつき感がある 匂いがある。	7.6	4.3~	やわらか・匂いの妙 を含む。	白色	良 好。	4.3~	4.3~	4.3~	ヘラミガキ・黒色	古墳後期?	
第71	969	ENVK	大津	瓦クロ	土器	瓦クロ	表面が滑らか 匂いがある。	7.3	8.0	やわらか・匂いの妙 を含む。	褐色	良好。	8.0~	8.0~	8.0~	ヘラミガキ・黒色	古墳後期?	
第72	970	ENVK	大津	瓦クロ	土器	瓦クロ	表面が滑らか 匂いがある。	4.5~	5.4	やわらか・匂いの妙 を含む。	淡青色	良 好。	4.5~	4.5~	4.5~	ヘラミガキ・黒色	古墳後期?	
第73	971	ENVK	大津	瓦クロ	土器	瓦クロ	表面が滑らか 匂いがある。	7.0~	11.0	やわらか・匂いの妙 を含む。	白色	良 好。	7.0~	7.0~	7.0~	ヘラミガキ・黒色	古墳後期?	
第74	972	ENVK-E	大津	クロ	土器	小笠原村 瓦クロ	表面が滑らか 匂いがある。	7.0~	7.9	やわらか・匂いの妙 を含む。	淡青色	良好。	7.0~	7.0~	7.0~	ヘラミガキ・黒色	古墳後期?	
第75	973	ENVK-D	大津	クロ	土器	土器感 瓦クロ	表面が滑らか 匂いがある。	16.9	7.4~	やわらか・匂いの妙 を含む。	淡青色	良 好。	7.4~	7.4~	7.4~	ヘラミガキ・黒色	古墳後期?	
第76	974	ENVK	大津	瓦クロ	土器	土器感 瓦クロ	表面が滑らか 匂いがある。	16.6	13.4	やわらか・匂いの妙 を含む。	淡青色	良 好。	13.4~	13.4~	13.4~	ヘラミガキ・黒色	古墳後期?	
第77	975	ENVK	大津	瓦クロ	土器	瓦クロ	表面が滑らか 匂いがある。	6.5~	6.5~	やわらか・匂いの妙 を含む。	淡青色	良好。	6.5~	6.5~	6.5~	ヘラミガキ・黒色	古墳中期~後	
第78	976	ENVK-E	大津	瓦クロ	土器	瓦クロ	表面が滑らか 匂いがある。	18.7	18.7	やわらか・匂いの妙 を含む。	淡青色	良好。	18.7	18.7	18.7	ヘラミガキ・黒色	古墳中期~後	
第79	977	ENVK	大津	瓦クロ	土器	瓦クロ	表面が滑らか 匂いがある。	18.6	11.1	やわらか・匂いの妙 を含む。	淡青色	良好。	18.6	11.1	11.1	ヘラミガキ・黒色	古墳中期~後	
第80	978	ENVK	大津	瓦クロ	土器	瓦クロ	表面が滑らか 匂いがある。	20.7	15.3	やわらか・匂いの妙 を含む。	淡青色	良好。	20.7	15.3	15.3	ヘラミガキ・黒色	古墳後期?	
第81	979	ENVK	大津	瓦クロ	土器	瓦クロ	表面が滑らか 匂いがある。	14.1~	16.0	やわらか・匂いの妙 を含む。	淡青色	良好。	14.1~	14.1~	14.1~	ヘラミガキ・黒色	古墳後期?	
第82	980	ENVK	大津	瓦クロ	土器	瓦クロ	表面が滑らか 匂いがある。	4.8~	4.8~	やわらか・匂いの妙 を含む。	淡青色	良好。	4.8~	4.8~	4.8~	ヘラミガキ・黒色	古墳後期?	
第83	981	ENVK	大津	瓦クロ	土器	瓦クロ	表面が滑らか 匂いがある。	12.2	5.9	やわらか・匂いの妙 を含む。	淡青色	良好。	12.2	5.9	5.9	ヘラミガキ・黒色	古墳後期?	
第84	982	ENVK	大津	瓦クロ	土器	瓦クロ	表面が滑らか 匂いがある。	15.5	6.7	やわらか・匂いの妙 を含む。	淡青色	良好。	15.5	6.7	6.7	ヘラミガキ・黒色	古墳後期?	
第85	983	ENVK	大津	瓦クロ	土器	瓦クロ	表面が滑らか 匂いがある。	13.4	5.2~	やわらか・匂いの妙 を含む。	淡青色	良好。	13.4	5.2~	5.2~	ヘラミガキ・黒色	古墳後期?	
第86	984	ENVK	大津	瓦クロ	土器	瓦クロ	表面が滑らか 匂いがある。	14.2	6.6~	やわらか・匂いの妙 を含む。	淡青色	良好。	14.2	6.6~	6.6~	ヘラミガキ・黒色	古墳後期?	
第87	985	ENVK	大津	瓦クロ	土器	瓦クロ	表面が滑らか 匂いがある。	7.2~	7.2~	やわらか・匂いの妙 を含む。	淡青色	良好。	7.2~	7.2~	7.2~	ヘラミガキ・黒色	古墳後期?	
第88	986	ENVK	大津	瓦クロ	土器	瓦クロ	表面が滑らか 匂いがある。	16.2	16.2	やわらか・匂いの妙 を含む。	淡青色	良好。	16.2	16.2	16.2	ヘラミガキ・黒色	古墳後期?	
第89	987	ENVK	大津	瓦クロ	土器	瓦クロ	表面が滑らか 匂いがある。	12.0	4.1	やわらか・匂いの妙 を含む。	淡青色	良好。	12.0	4.1	4.1	ヘラミガキ・黒色	古墳後期?	

第73表 遺物観察表(4)

番号	番号	地区	遺塊	土層	性別	特徴	口径	最大径	高さ	底形	出土	色調	地質	内	外	時代	備考
第109	903	SW区	大溝	裏クロ	土師器	平	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	18.0	5.2~	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後		
第110	902	SW区	大溝	裏クロ	土師器	平	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	15.0	5.5~	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後	内部装飾、 内側装飾。	
第110	903	SW区	大溝	裏クロ	土師器	平	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	13.3	4.4	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後	内部装飾、 内側装飾。	
第111	911	SW区	大溝	裏クロ	土師器	平	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	13.2	4.6~	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後	底部に剥離、 剥離跡。	
第112	922	SW区	大溝	クロ	土師器	土器	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	4.4	3.4	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後		
第113	923	SW区	大溝	裏クロ	土師器	平	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	8.4	4.5	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後		
第114	934	SW区	大溝	クロ	土師器	平	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	10.4	4.3	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後		
第115	925	SW区	大溝	クロ	土師器	平	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	10.0	6.4~	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	
第116	936	SW区	大溝	トレンチ4	土師器	不規則	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	3.3~	4.6	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後	内側装飾、 内側装飾。	
第117	937	SW区	大溝	裏土	土師器	土器	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	15.7	10.9	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後	内側装飾、 内側装飾。	
第118	938	SW区	大溝	裏土	土師器	土器	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	12.6	6.3	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後	内側装飾、 内側装飾。	
第119	939	SW区	大溝	裏クロ	土師器	土器	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	10.5~	5.2~	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後	内側装飾、 内側装飾。	
第120	940	SW区	大溝	クロ	土師器	土器	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	11.9~	5.2~	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後	内側装飾、 内側装飾。	
第121	941	SW区	大溝	裏クロ	土師器	土器	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	13.4	10.3	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後	内側装飾、 内側装飾。	
第122	942	SW区	大溝	クロ	土師器	土器	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	13.5	10.8	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後	内側装飾、 内側装飾。	
第123	943	SW区	大溝	裏クロ	土師器	土器	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	12.5	7.8	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後	内側装飾、 内側装飾。	
第124	944	SW区	大溝	裏土	土師器	土器	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	4.3	3.4	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後	内側装飾、 内側装飾。	
第125	945	SW区	大溝	裏クロ	土師器	土器	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	32.7	19.3~	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後	内側装飾、 内側装飾。	
第126	946	SW区	大溝	裏クロ	土師器	土器	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	8.0	9.6~	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後	内側装飾、 内側装飾。	
第127	947	SW区	大溝	裏クロ	土師器	土器	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	32.6	20.8~	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後	内側装飾、 内側装飾。	
第128	948	SW区	大溝	裏クロ	土師器	土器	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	22.0	22.0	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後	内側装飾、 内側装飾。	
第129	949	SW区	大溝	トレンチ4	土器	土器	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	31.0	24.5~	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後	内側装飾、 内側装飾。	
第130	950	SW区	大溝	土器	土器	土器	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	5.3~	4.6~	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後	内側装飾、 内側装飾。	
第131	951	SW区	大溝	土器	土器	土器	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	3.0	2.9~	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後	内側装飾、 内側装飾。	
第132	952	SW区	大溝	土器	土器	土器	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	6.1~	5.2~	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後	内側装飾、 内側装飾。	
第133	953	SW区	大溝	土器	土器	土器	口縁部反り曲がりの 丸く突出する把手。	5.3~	4.6~	やや青い緑色の 茶褐色	良好	ハラミガキ	ヘラミガキ	良	古墳中期後	内側装飾、 内側装飾。	

第74表 遺物観察表(4)

- 96 -

番号	品物	所区	通路	土壌	場所	留保	留保	付標	口唇	鼻孔	頭髪	皮膚	筋肉	内	外	時代	鑑定
第111	554	8V区	大溝	○クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		13.0~	やや黒、紅褐色の	褐色	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期	内面にスス。
第111	955	8V区	水場	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		15.0~	やや黒、紅褐色の	褐色	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期	内面にスス。
第111	856	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		16.1~	やや黒、	褐色	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期	内面にスス。
第111	956	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		18.7~	31.0	やや黒、紅褐色の	褐色	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳中後~後
第111	957	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		20.3~	33.0	やや黒、紅褐色の	褐色	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期
第112	958	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		13.0	1.6~	やや黒、	褐色	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期
第112	859	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		13.5~	3.5~	やや黒、	褐色	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期
第112	960	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		13.6	7.4	やや黒、	褐色	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期
第112	961	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		13.7	3.7	4.3	黒	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期
第112	962	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		2.5~	2.5~	2.5~	黒	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期
第112	963	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		2.7~	2.7~	2.7~	黒	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期
第112	964	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		2.7~	2.7~	2.7~	黒	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期
第112	965	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		2.7~	2.7~	2.7~	黒	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期
第112	966	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		2.7~	2.7~	2.7~	黒	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期
第112	967	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		2.7~	2.7~	2.7~	黒	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期
第112	968	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		2.7~	2.7~	2.7~	黒	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期
第112	969	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		2.7~	2.7~	2.7~	黒	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期
第112	970	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		2.7~	2.7~	2.7~	黒	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期
第112	971	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		2.7~	2.7~	2.7~	黒	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期
第112	972	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		2.7~	2.7~	2.7~	黒	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期
第112	973	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		2.7~	2.7~	2.7~	黒	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期
第112	974	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		2.7~	2.7~	2.7~	黒	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期
第112	975	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		2.7~	2.7~	2.7~	黒	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期
第112	976	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		2.7~	2.7~	2.7~	黒	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期
第112	977	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		2.7~	2.7~	2.7~	黒	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期
第112	978	8V区	大溝	△クロ	土壌層	馬鹿かマド	薄い口唇膜でくびぐ		2.7~	2.7~	2.7~	黒	やや不規則化し	ヘタケズリ	ナガナデ	褐色され	古墳後期

第75表 遺物鑑定表(42)

第76表 遺物観察表(4)

番号	遺物名	地點	性別	土質地	種別	形状	寸法	口径	最大幅	壁厚	底径	底質	胎形	底模	内	外	時代	備考
第13	1004	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	カシロ	11.2	9.7	9.4	0.5	丸み切刃先端を尖らし、頭部が丸く、	褐色	丸好	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1005	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	9.7	—	—	—	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	丸好	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1006	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	12.0	3.0	—	—	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	丸好	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1007	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	12.2	3.7	—	—	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	丸好	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1008	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	8.1	2.7	—	—	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	丸好	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1009	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	13.9	2.6	—	—	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	丸好	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1010	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	14.9	11.0	11.5	2.1	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	不規	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1011	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	7.4	—	—	—	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	良好	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1012	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	16.1	5.2	—	—	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	良好	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1013	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	6.4	—	—	—	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	良好	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1014	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	5.9	—	9.6	2.8	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	不良	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1015	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	5.6	—	10.5	2.8	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	不良	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1016	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	6.2	—	12.8	2.8	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	良好	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1017	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	10.0	—	—	—	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	良好	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1018	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	5.1	—	—	—	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	不良	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1019	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	5.1	—	9.8	2.8	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	不良	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1020	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	5.6	—	—	—	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	良好	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1021	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	3.1	—	10.6	2.1	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	良好	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1022	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	4.7	—	—	—	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	良好	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1023	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	5.7	—	9.2	2.1	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	良好	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1024	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	10.1	—	—	—	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	良好	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1025	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	14.2	5.1	—	—	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	良好	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1026	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	11.4	4.1	—	—	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	良好	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1027	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	11.5	5.8	—	—	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	良好	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1028	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	14.4	9.0	—	—	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	不良	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	
第13	1029	大溝	ミクロ	泥質	骨器類	頭部が丸く、頭部が丸く、	11.5	10.0	—	—	頭部が丸く、頭部が丸く、	褐色	良好	球形ナメ	球形ナメ	昭和20年代	古墳時代	

第77表 遺物類表[4]

番号	通称	地区	遺構	土器類	種別	器種	特徴	口径	最大径	高さ	底形	出土	色調	保灰	内	外	時代	備考
第113 1621	1620	SV区-C	大溝	須恵器	片	高台付削り面を持つ。	1.4~	9.0	小口、丸まり切先	灰黑色	良	圓錐ナメ	ヘラカリ・須恵ナギ	圓錐時代				
第113 1621	1621	SV区	大溝	束口	須恵器	片	腹部外周をケズる。	1.5~	6.1	やや幅狭い縦溝の須恵器	灰黑色	不良	圓錐ナメ-不規	須恵ナメテクス	8世紀後半			
第113 1622	1622	SV区	大溝		須恵器	片		1.7~	6.5	やや幅狭い縦溝の須恵器	灰黑色	良	圓錐ナメ	須恵ナメ	平安時代	多く須恵器。		
第114 1623	1623	SV区	人床土上	須恵器	束口	長颈瓶	5束の腹環。	11.3~	11.3~	縦10cm下の口部	灰黑色	良好	圓錐ナメテ	須恵ナメ	古墳後期			
第114 1624	1624	SV区	大溝	束口	須恵器	短颈瓶	短颈瓶	7.8	13.3	底あり切先を含む	灰黑色	やや不良	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期	底部はじけ穴有		
第114 1625	1625	SV区	大溝	束口	須恵器	短颈瓶	口部外反、底部丸み出る。	5.8	2.6~	底あり切先を含む	灰黑色	良好	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期	底部はじけ穴有		
第114 1626	1626	SV区	大溝	束口	須恵器	短颈瓶	口部外反、底部丸み出			底あり切先を含む	灰黑色	良好	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期	内側にダスリ(凹)		
第114 1627	1627	SV区	大溝	束口	須恵器	不明	口をつぶす	7.4	4.5~	やや幅狭い縦溝の須恵器	灰黑色	やや不良	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期か?			
第114 1628	1628	SV区	大溝	トレンチ5	須恵器	短颈瓶	口部外反、底部丸み出	7.7	10.1	5.2~	縦10cm下の口部	灰黑色	良好	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期		
第114 1629	1629	SV区	大溝	束口	須恵器	不明	内側する傾向ほとんじ	12.7	4.3~	口部外反、底部丸み出	灰黑色	やや不良、黒化	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期			
第114 1630	1630	SV区	大溝	束口	須恵器	ハソウ	口部外反、底部丸み出	12.7	15.9	底あり切先を含む	灰黑色	良好	須恵ナメ	須恵ナメ	古墳後期			
第114 1631	1631	SV区	大溝	束口	須恵器	ハソウ	口部外反、底部丸み出	8.3~		底あり切先を含む	灰黑色	良好	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期	口部外反		
第114 1632	1632	SV区	大溝	束口	須恵器	ハソウ	口部外反、底部丸み出	14.4~		底あり切先を含む。	灰黑色	良好	須恵ナメ	須恵ナメ	古墳後期			
第114 1633	1633	SV区	大溝	束口	須恵器	束	口部縫隙を持たず(注記)。		4.3~	8.3	暗青灰色	良好	圓錐ナメ?	須恵ナメカキメ	古墳後期			
第114 1634	1634	SV区	大溝	束口-最下層	須恵器	束	口部内裏、底部丸く收め	6.6~	19.2~	口部内裏、底部丸く收め	灰黑色	良好	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期			
第114 1635	1635	SV区	大溝	束口	須恵器	束	化する器形。	6.5	24.5	口部内裏、底部丸く收め	灰黑色	良好	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期			
第114 1636	1636	SV区	大溝	束口	須恵器	束	口部外反、底部丸く收め	7.2	2.8~	口部外反、底部丸く收め	灰黑色	良好	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期			
第114 1637	1637	SV区	日	須恵器	束口	須恵器	口部内裏、底部丸く收め	5.8	4.4~	口部外反、底部丸く收め	灰黑色	良好	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期			
第114 1638	1638	SV区	大溝	束口	須恵器	束	口部外反、底部丸く收め	7.2	2.8~	口部外反、底部丸く收め	灰黑色	良好	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期			
第114 1639	1639	SV区	大溝	束口	須恵器	束	口部外反、底部丸く收め	10.2	15.1	口部外反、底部丸く收め	灰黑色	良好	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期			
第114 1640	1640	SV区	大溝	束口	須恵器	束	口部外反、底部丸く收め			口部外反、底部丸く收め	灰黑色	良好	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期			
第114 1641	1641	SV区	大溝	束口	須恵器	束	口部外反、底部丸く收め			口部外反、底部丸く收め	灰黑色	良好	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期			
第114 1642	1642	SV区	大溝	束口	須恵器	束	口部外反、底部丸く收め			口部外反、底部丸く收め	灰黑色	良好	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期			
第114 1643	1643	SV区	大溝	束口	須恵器	束	口部外反、底部丸く收め			口部外反、底部丸く收め	灰黑色	良好	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期			
第114 1644	1644	SV区	日	須恵器	束口	須恵器	口部外反、底部丸く收め			口部外反、底部丸く收め	灰黑色	良好	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期			
第114 1645	1645	SV区	日	須恵器	束口	須恵器	口部外反、底部丸く收め			口部外反、底部丸く收め	灰黑色	良好	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期			
第114 1646	1646	SV区	日	須恵器	束口	須恵器	口部外反、底部丸く收め			口部外反、底部丸く收め	灰黑色	良好	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期			
第114 1647	1647	SV区	日	須恵器	束口	須恵器	口部外反、底部丸く收め			口部外反、底部丸く收め	灰黑色	良好	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期			
第114 1648	1648	SV区	日	須恵器	束口	須恵器	口部外反、底部丸く收め			口部外反、底部丸く收め	灰黑色	良好	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期			
第114 1649	1649	SV区	日	須恵器	束口	須恵器	口部外反、底部丸く收め			口部外反、底部丸く收め	灰黑色	良好	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期			
第114 1650	1650	SV区	A	須恵器	ハソウ	2束の洗面で底状を有				口部外反、底部丸く收め	灰黑色	良好	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期			
第114 1651	1651	BV区	B	須恵器	束	外縁に突出する。				口部外反、底部丸く收め	灰黑色	良好	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期			
第114 1652	1652	BV区	西面土	須恵器	束	口部外反、底部丸く收め				口部外反、底部丸く收め	灰黑色	良好	圓錐ナメ	須恵ナメ	古墳後期			

- 101 -

第78表 遺物観察表(45)

種別	場所	地区	面積	土壌性状	耕種	整備	特徴	口耕	耕大型	高率	深度	船土	圃園	堤段	内	外	時代	種別
第114	1053	昭和区・大澤	クロ	泥炭	要	口耕無耕法		16.5	4.3~	ない、 あまが分野をもつ 性低、薄育性、 根固め	白、 淡青色、 根固め	圃園ナデ	回転ナデ	古墳後期				
第115	1054	BIV區	大澤	黒クロ	のれん	黒	口耕無耕法		3.4~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第116	1055	A区	私土耕作地		引生土耕	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第117	1056	A区	私土耕作地		土耕等	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第118	1057	A区	私土耕作地		土耕等	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第119	1058	A区	私土耕作地		土耕等	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第120	1059	A区	私土耕作地		土耕等	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第121	1060	A区	私土耕作地		土耕等	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第122	1061	A区	私土耕作地		土耕等	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第123	1062	A区	私土耕作地		土耕等	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第124	1063	A区	私土耕作地		土耕等	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第125	1064	A区	私土耕作地		土耕等	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第126	1065	A区	私土耕作地		土耕等	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第127	1066	A区	私土耕作地		土耕等	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第128	1067	A区	私土耕作地		土耕等	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第129	1068	A区	私土耕作地		土耕等	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第130	1069	A区	私土耕作地		土耕等	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第131	1070	A区	私土耕作地		土耕等	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第132	1071	A区	私土耕作地		土耕等	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第133	1072	A区	私土耕作地		土耕等	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第134	1073	A区	私土耕作地		土耕等	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第135	1074	A区	私土耕作地		土耕等	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第136	1075	A区	私土耕作地		土耕等	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第137	1076	A区	私土耕作地		土耕等	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第138	1077	A区	私土耕作地		土耕等	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			
第139	1078	A区	私土耕作地		土耕等	稻	口耕無耕法	15.9	9.0~	やや青、 白粉質白色	灰黑色、 灰黑色	良	回転ナデ	回転ナデ	古墳後期			

- 201 -

第79表 遺物觀察表(40)

第80表 潜物觀察表(4)

番号	通称	地区	深場	土場	場所	特徴	口絶	周辺	標高	風向	底土	色調	地城	内	外	時代	備考	
第117	1104	A 1 区	根株深場4	2	中世土場	坪	回転赤切り			1.2~	5.5	雪・霜の砂場を含む	淡褐色	良などらし風化	黒	回転赤切り	中世	
第117	1105	A 1 区	根株深場4	2	中世土場	坪	中世土場	坪		1.4~	5.6	やや暗い茶褐色を含む	淡褐色	不思議な風化	黒	回転ナデ	中世か?	
第117	1105	A 1 区	根株深場4	5	中世土場	坪	中世土場	坪		1.9~	4.0	と赤褐色との交錯を含む	淡褐色	多めど風化	黒	回転ナデ	中世初期	
第117	1107	A 1 区	根株深場4	4	中世土場	坪	中世土場	坪		1.4~	6.2	やや暗い茶褐色を含む	白色	良などらし風化	黒	回転赤切り	中世前期	
第117	1108	A 1 区	根株深場4	4	中世土場	坪	回転赤切り			2.1~	3.3	と赤褐色との交錯を含む	淡褐色	良好などらし風化	黒	不明	ちくろし	
第117	1109	A 1 区	根株深場4	3	中世土場	坪	回転赤切り			1.6~	5.0	やや暗い茶褐色を含む	淡褐色	良などらし風化	黒	回転ナデ	中世前半	
第117	1110	A 1 区	根株深場4	4	中世土場	坪	回転赤切り			1.0~	4.6	やや暗い茶褐色を含む	淡褐色	良などらし風化	黒	回転ナデ	中世	
第117	1111	A 1 区	根株深場4	4	中世土場	坪	小切皿・回転赤切り			1.9	3.5	雪・霜の赤色を含む	明褐色	良などらし風化	黒	回転ナデ	中世	
第117	1112	A 1 区	根株深場4	4	中世土場	坪	回転赤切り・雪			1.3~	5.6	やや暗い茶褐色を含む	淡褐色	良などらし風化	黒	回転ナデ	中世	
第117	1113	A 1 区	根株深場4	4	中世土場	坪	回転赤切り			1.4~	5.0	やや暗い茶褐色を含む	淡褐色	良などらし風化	黒	回転ナデ	中世前半	
第117	1114	A 1 区	根株深場4	5	中世土場	坪	回転赤切り			1.6~	7.1	雪・霜の赤色を含む	明褐色	良などらし風化	黒	回転ナデ	中世	
第117	1115	A 1 区	根株深場4	5	中世土場	坪	回転赤切り・雪			2.3~	5.5	やや暗い茶褐色を含む	明褐色	良などらし風化	黒	回転ナデ	中世後期	
第117	1116	A 1 区	根株深場4	5	中世土場	坪	回転赤切り			1.4~	5.2	やや暗い茶褐色を含む	明褐色	良などらし風化	黒	回転ナデ	中世後期	
第117	1117	A 1 区	根株深場4	5	中世土場	坪	回転赤切り			1.9	5.3	やや暗い茶褐色を含む	明褐色	良などらし風化	黒	回転ナデ	中世後期	
第117	1118	A 1 区	根株深場4	5	中世土場	坪	回転赤切り			1.0	5.6	めらか・均整を含む	淡褐色	良などらし風化	黒	回転ナデ	中世後期	
第117	1119	A 1 区	根株深場4	5	中世土場	坪	石頭			1.0~	5.5	雪・霜の赤色を含む	明褐色	良などらし風化	黒	回転ナデ	中世後期	
第117	1120	A 1 区	根株深場4	5	中世土場	坪	石頭			1.9	5.5	雪・霜の赤色を含む	明褐色	良などらし風化	黒	回転ナデ	中世後期	
第117	1121	A 1 区	根株深場4	5	中世土場	坪	石頭			2.3~	9.2	やや暗い茶褐色を含む	明褐色	不良風化してい	黒	回転ナデ	中世後期	
第117	1122	A 1 区	P790	5	中世土場	坪	雪の深場			2.3~	5.6	やや暗い茶褐色を含む	淡褐色	良などらし風化	黒	回転ナデ	中世初期	
第117	1123	C 6 区	トランシ	5	中世土場	坪	小型坪			6.9	1.7	3.6	雪・霜の赤色を含む	明褐色	良などらし風化	黒	回転ナデ	中世後期
第117	1124	A 1 区	2階	5	中世土場	坪	石頭			7.5	1.7	3.8	雪・霜の赤色を含む	明褐色	不良	回転ナデ	中世後期	
第117	1125	B 6 区	東ウコ	5	中世土場	坪	口縁外反し深場をつぶす			16.1	4.1~	4.1~	粗・細の砂場を含む	内面黑色	不良・内面剥離	黒	回転ナデ	中世か?
第117	1126	B 6 区	東ウコ	5	中世土場	坪	半席						内面深褐色	良などらし風化	黒	回転ナデ	中世か?	
第117	1127	C 6 区	トランシ	5	石壁	石縫				25.6	6.1~		淡褐色	良などらし風化	黒	ミガキ	中世	

第81表 水製品観察表(1)

検査番号	通称名	地圖名	面積(ha)	取上げ量	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	大分類	中分類	小分類	中央に段階地形加工	側面
第81回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	24.8	2.8	1.1	不明品	不明品	不明品	自然水の流れの自然風景を残す。	大きさで切断して机にする。
第82回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	33.0	3.0	1.4	木材	木材	角材	元は合板か?	元は合板か?
第83回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	42.8以上	4.9以上	3.0	木材	木材	角材	角材	角材
第84回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	51.5	9.2以上	1.3	不明品	不明品	角材	角材	角材
第85回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	21.7	15.8	2.6	不明品	不明品	角材	角材	角材
第86回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	14.9以上	8.4	3.2	不明品	不明品	その他	その他	アカセリ?スギ
第87回	野 山	不明 BV区	大溝	東クロ最下部	27.0	15.6~24.3	18.8×3.3×72の柱	合板構造材	合板もしくは板	合板もしくは板	合板もしくは板	合板もしくは板
第88回	野 山	不明 BV区	大溝	東クロ最下部	22.8以上	薄さ3.2	面積:4.7	不明品	不明品	板	板	板
第89回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	約73.5	約7	0.2.3	不明品	不明品	板	板	板
第90回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	27.8	8.8以上	1~1.7	装飾具	装飾具	下駄	下駄	下駄
第91回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	23.3	9.3	0.2.5	樹脂具	樹脂具	下駄	下駄	下駄
第92回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	18.9	17.6	0.2.5	高さ3.8 幅9.7	高さ3.8 幅9.7	樹脂	樹脂	樹脂
第93回	野 山	不明 BV区	大溝	東クロ	7.9	4.9	0.7	不明品	不明品	曲物	曲物	曲物
第94回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	5.9±0.3±0.9	5.9±0.3±0.9	0.7	樹脂樹脂材	樹脂樹脂材	樹皮巻	樹皮巻	樹皮巻
第95回	野 山	不明 BV区	大溝	東クロ	4.1以上	3.2	1.2	不明品	不明品	その他	その他	その他
第96回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	100.0	26.6	最大:2.3	建築木材	建築木材	板	板	板
第97回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	約75.5	約22	0.2.5	建築木材	建築木材	板	板	板
第98回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	1.6	47.1	1.2.6	1.9	建築木材	建築木材	板	板
第99回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	31	15.0以上	12.5	1.5	不明品	不明品	板	板
第100回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	19	34.5以上	5.2	1.8	不明品	不明品	板	板
第101回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	約44.5	約2.1	約2.1	不明品	不明品	板	板	板
第102回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	9.7	2.5~3	2.5~3	樹脂材	樹脂材	板	板	板
第103回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	11.7	約6.5	約6.5	建築木材	建築木材	板	板	板
第104回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	11.7	約6.5	約6.5	不明品	不明品	板	板	板
第105回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	24.5	盛度約5	木材	木材	木材	板	板	板
第106回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	22	約16.5	約13.5	建築木材	建築木材	板	板	板
第107回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	30	37.3	8.3	不明品	不明品	板	板	板
第108回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	160以上	直径最大4.3	3.4	建築木材	建築木材	板	板	板
第109回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	89.6	約7	約3.4	不明品	不明品	板	板	板
第110回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	108.5	9.0	4.2	不明品	不明品	板	板	板
第111回	野 山	針葉樹 BV区	大溝	東クロ	約79.5	約7	約2.1	建築木材	建築木材	板	板	板

第82表 木製品観察表(2)

被用番号	用途別	地理	調査区	道場名	層位	地上高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	大分類	中分類	小分類	メモ
第20区	W31	計量材	B区	大溝	*	—	約12.3	#2.9	約1.8	不明品	棒状	その他	木目によって判別している。 形が直線的にみえる(加工)。 全体的にどうい?
第21区	W32	計量材	B区	大溝	*	—	約11.9	#2.5	2.6以上	建築木材	複数枚材	垂木	木目が複数ある。 全体的にどうい?
第21区	W33	計量材	B区	大溝	*	—	約11.5	11.0	約0.7	建築木材	柱材	壁穴仕用	棒状り切削
第21区	W34	計量材	B区	大溝	*	—	41.0	4.8	—	木材	食事用	片手状木製品 柄杓子?	—
第21区	W35	計量材	BV区	トランク	南皮脂枯立筋等	23.6以上	—	2.3	—	不明品	棒状	その他	自然木の表面を削除して丸く削る。
第21区	W36	計量材	BV区	大溝	8	27.2	—	11.0	—	不明品	その他	穿孔考り	—
第21区	W37	計量材	BV区	大溝	12	76.0	—	9.9以上	約1.9	不明品	棒状	その他	通かし板、3箇所抜り
第21区	W38	計量材	BV区	大溝	20	63.1	—	9.5	1.9	建築木材	垂木	板状	片側彫り、棒穴あり
第21区	W39	計量材	BV区	大溝	7	88.6	—	3.0	1.2	建築木材	垂木	板状	先端
第21区	W40	計量材	BV区	柏木檜	—	49.5以上	—	11.0	1.0	不明品	—	断面二字	—
第21区	W41	計量材	BV区	大溝	—	43.5	—	14.0	1.1~3.4	農具	作物台	—	作業台から平坦な台の間に× 下台か? 圆らしき台も作り出されているが、方角にはならない。
第21区	W42	計量材	BV区	大溝	—	36.6	—	4.5	1.3~1.8	不明品	板状	その他	—
第22区	W43	計量材	BV区	大溝	—	28	136.4	—	16.3	最大3.5	建築木材	削口状面	部放し材
第22区	W44	計量材	BV区	大溝	19	約108	—	約11.5	6.6	建築木材	水平構造材	部放し建物用水平 構造材	部放し建物用水平 構造材
第22区	W45	計量材	BV区	大溝	—	14.2~3	—	12.4	5.1	不明品	その他	未製品? 斧式	方角のまま可成能性、柄次りの可成能性があるが、長い方角性のものばかりで、柄次り状にない可能性もある(木目)にそって削りた。
第22区	W46	計量材	BV区	大溝	6	134.0	—	18.5	11.5	建築木材	水平構造材	部放し建物用水平 構造材	部放し建物用水平 構造材
第22区	W47	不明	CV区	水場	最下層北	33.5以上	—	15.4	1.7	最大6.8	管路	管物	彎曲 彎曲
第22区	W48	計量材	CV区	水場	最下層北	33.0以上	—	10.5	0.6	最大2.3	管路	管物	彎曲—節先彎曲 彎曲
第22区	W49	計量材	CV区	水場	クロ	106.2	—	1.6~2.1	0.9	不明品	不明	不明	2ヶ所彎曲
第22区	W50	計量材	CV区	水場	龙レキ層	122.5	—	5.5	4.0	不明品	その他	三箇所彎曲	木材か? 削除する小穴(約1cm) 先端は尖らせてはいる可能
第22区	W51	計量材	CV区	水場	クロ下層	68.4以上	—	直径約24	—	不明品	棒状	先端彎曲	—
第22区	W52	計量材	CV区	水場	最下層北	53.8	—	5.4	4.5	不明品	棒状	その他	切削面集団がある。
第22区	W53	計量材	CV区	水場	最下層北	57.4	—	約17.2	約2.2	不明品	棒状	その他	—
第22区	W54	計量材	CV区	水場	地山	15.2	—	約7.6	約6.3	不明品	その他	彎曲有り	—
第23区	W55	計量材	CV区	水場	最下層足場	64.1	—	8.0	1.2	不明品	板状	その他	—
第23区	W56	計量材	CV区	水場	最下層足場	62.0	—	10.0	0.8	不明品	板状	その他	—
第23区	W57	計量材	CV区	水場	最下層足場	50.4	—	4.9	1.1	不明品	板状	快り有り	—
第23区	W58	計量材	CV区	水場	最下層足場	128.4	—	16.9	1.6	不明品	板状	その他	—
第24区	W59	計量材	CV区	水場	最下層足場	111.1	—	7.4	2.0	建築木材	垂木	板状	片側S字状の彎曲

第83表 木製品観察表(3)

第84表 石器觀察表(1)

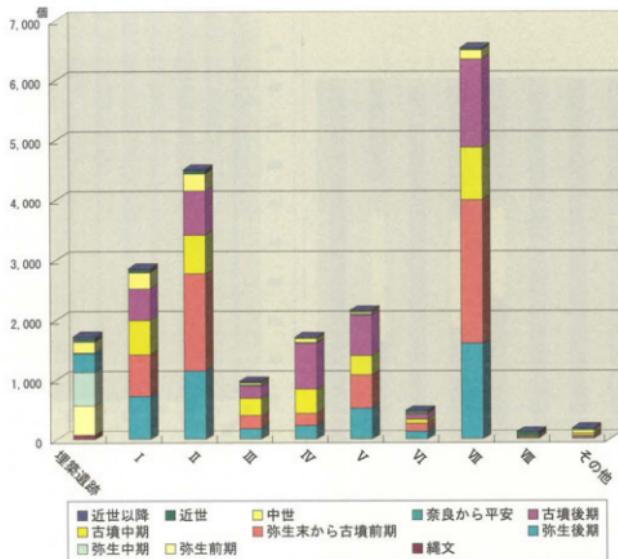
種類番号	遺物番号	地区	遺物	土層・地	器種	石材	長さ	寸法(cm)	幅	備考
第125回	S1	A区	粘土袋取場	2層	石器品	安山岩	2.2	1.3	0.3	
第125回	S2	A区	堅穴住居4	灰面	米製品	黒曜石	3.3	2.6	1.0	
第125回	S3	AII区	粘土袋取場	米製品	堅炭石系?	安山岩系	3.1	2.6	0.9	ビンホール多く開く。
第125回	S4	A区	トレンチ2	1層	米製品	黒曜石	4.4	4.4	0.7	
第125回	S5	AIII区	トレンチ2	北2層	米製品	黒曜石	3.8	2.5	1.4	
第125回	S6	A I区	トレンチ2	2層	米製品	テヤート	2.0	2.1	0.5	
第125回	S7	A II区	トレンチ2	2層	米製品	テヤート	5.6	3.9	0.5	
第126回	S8	A区	粘土袋取場	2層	米製品	テヤート	20.2	17.5	6.0	
第126回	S9	A II区	土器留り4	2層	米製品	テヤート	14.5	11.0	7.2	作業台か? 1面ほどなめらか。
第126回	S10	A区	堅穴住居33	16	米製品	テヤート	22.2	14.9	4.2	
第126回	S11	A区	堅穴住居32	床面	作業台	テヤート	31.5	27.5	7.8	
第126回	S12	BIV区	大溝	クロ	堅石	砂岩系	30.1	25.3	20.3	面使用。非常になめらかな使用感。
第126回	S13	A区	粘土袋取場	作業台	堅石	砂岩系	21.9	16.3	3.5(2.60)	3面で被覆。
第126回	S14	A区	粘土袋取場	2層	堅石	砂岩系	13.1	12.6	3.8	
第126回	S15	A II区・北	土器留り4	2層	堅石	砂岩系	16.7	18.8	2.6	使用面: 面くぼみ。
第126回	S16	A区	堅穴住居4	15	作業台	砂岩・陶石・作業台	31.6	21.1	12.7	
第126回	S17	BIV区	大溝	クロ	堅石	砂岩・陶石・作業台	32.0	25.3	9.8	板状用か? 部分的に赤色剥離が進む。
第126回	S18	A区	堅穴住居11	床面	作業台	砂岩系	19.6	11.9	5.9	
第127回	S19	A区	堅穴住居602	4	堅石	砂岩系	20.0	8.1	3.6	4面使用。(一部被覆)
第127回	S20	A区	堅穴住居602	7	堅石	砂岩系	15.7	11.7	4.7	3面使用。
第127回	S21	BIV区	大溝	クロ	堅石	砂岩系	18.3	11.5	5.9?	一部被覆。
第127回	S22	CIV区	水場	堅石	砂岩系	砂岩系	14.8	11.4	4.8	少相違し次第に帶わっている。
第127回	S23	A区	P36	堅石	砂岩系	砂岩系	20.7	12.7	8.9	面使用。柱穴より出土。
第127回	S24	A区	粘土袋取場	堅石	砂岩系	砂岩系	2.75~	4.75~	0.7	次指している。
第127回	S25	CIV区	水場	クロ下層	堅石	砂岩系	6.7	7.3	1.3	むららかな使用面。縦横が1方向に付いている。
第127回	S26	A区	堅穴住居11付近	堅石	砂岩系	砂岩系	6.7	4.5	3.4	細く粒状の堅感。
第127回	S27	A I区	表土	堅石	砂岩系	砂岩系	6.8	4.7	4.5	3面使用。内窓とする。
第127回	S28	CIV区	水場	磨製石斧	綠色變成岩	砂岩系	8.0	5.3	3.3	次指
第127回	S29	CIV区	水場	クロ下層	石斧	綠色變成岩	6.0	4.0	2.4	棒・両刃面・スクリーン部
第127回	S30	A区	粘土袋取場	クロ下層	磨製石斧	砂岩系	11.0	5.4	4.6	刃削欠損
第127回	S31	A区	トレンチ5	磨製石斧	砂岩系	砂岩系	4.7	3.8	3.2	次指
第127回	S32	CIV区	トレンチ1	2層	打製石斧	砂岩系	22.1	7.9	3.3	部分的に擦蝕。
第127回	S33	A区	堅穴住居11	第2造出土中	堅石	砂岩系	7.7	1.1	0.9	
第127回	S34	A区	粘土袋取場	南	堅石	砂岩系	13.7	3.6	1.8	スクリーン・部分丸形に整形。
第127回	S35	A区	堅穴住居33	床面・壁2	堅石	砂岩系	9.6	7.8	3.3	使用により平らになる。
第127回	S36	A区	堅穴住居11	石63	塊り石	砂岩系	9.8	7.9	5.0	部分的に擦蝕。(輪廓)
第127回	S37	CIV区	水場	東方ペル	堅石	砂岩系	8.4	7.4	4.9	全般的になめらか。
第128回	S38	A区	粘土袋取場	堅石	砂岩系	砂岩系	10.2	8.4	4.9	
第128回	S39	A区	堅穴住居33	18	堅石	砂岩系	11.7	9.2	3.5	中央を使用。

第85表 石器観察表(2)

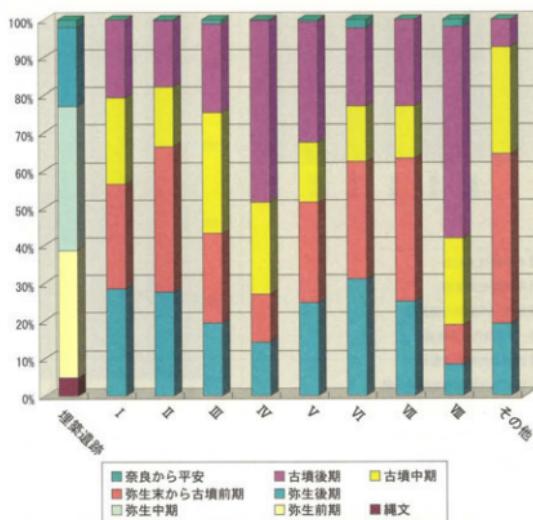
地図番号	遺物番号	地区	遺構	土層 No.	器種	石材	寸法(cm)			備考
							長さ	幅	厚さ	
第188号	340	A区	粘土採取場	2層	凹石・敲石	13.6	10.2	6.0
第189号	341	A区	粘土採取場	2層	凹石	10.2	8.3	2.8
第189号	342	C層区	水場	2層	凹石	7.1	7.4	1.6	刃を打ち欠く。
第189号	343	A区	堅穴住居11	石142	凹石	8.9	8.4	5.6
第189号	344	C層区	トレンチ3	敲石	13.5	6.1	5.1
第189号	345	AII区	大溝	東クロ	13.0	11.3	6.5	側面敲石
第189号	346	A区	トレンチ5	2層	敲石	15.2	14.5	11.2
第189号	347	C層区	水場	2層	敲石	10.4	10.7	9.5
第189号	348	A区	粘土採取場	丸石	17.2	15.4	12.3	被熱・全面にスス付着。
第189号	349	堅穴住居11	堅石	13.5	13.2	10.0	スス付着。
第189号	350	A区	堅穴住居11	石41	擦り石	14.0	9.3	5.6
第189号	351	A区	粘土採取場	擦り石	14.1	7.6	7.6	斜縁により欠損。 全体的になめらかに磨かれる。
第189号	352	C層区	水場	敲石	12.0	8.4	4.0	部分的に欠損。
第189号	353	AII区	堅穴住居2	敲石	8.1	7.7	4.5	全体になめらか。
第189号	354	C層区	水場	クロ下層	石・杵	火成岩	17.9	最大 7.9 最小 4.1	4.8
第189号	355	AII区	堅穴住居2	西口含蓄	特状石器?	18.4	3.6	3.4	用途不明。
第189号	356	AII区	粘土採取場	2層	特石	16.6	5.8	3.3
第189号	357	AII区	土塗壁り14	18.4	8.2	8.0
第189号	358	AII区	粘土採取場	2層	石棒	16.3	4.1	3.2
第189号	359	C層区	トレンチ3	石頭石棒	12.3	2.2	1.6
第189号	360	AII区	堅穴住居8・9	敲石か?	10.2	2.4	1.7	全面なめらか・縫隙欠損。
第189号	361	C層区	水場	綠色安息岩	16.6	7.0	4.4
第189号	362	AII区	堅穴住居3	22	石棒	15.3	6.2	2.6	石斧未製品か?
第189号	363	AII区	粘土採取場	雨	石棒	18.4	4.4	2.2

第86表 高津遺跡出土遺物分類表

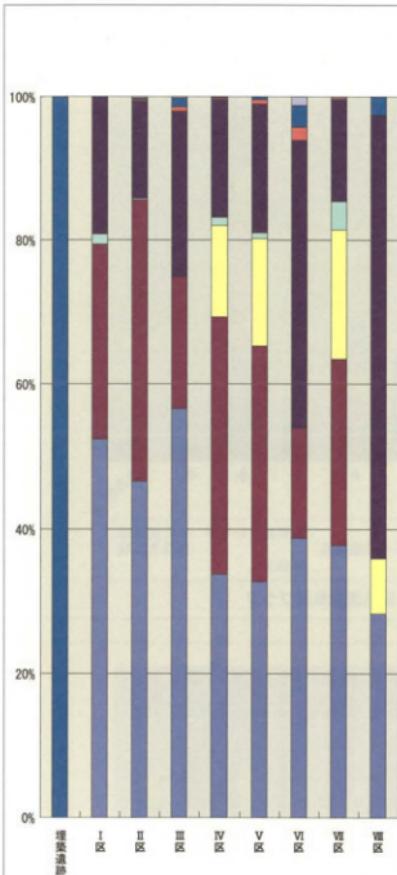
- 601 -



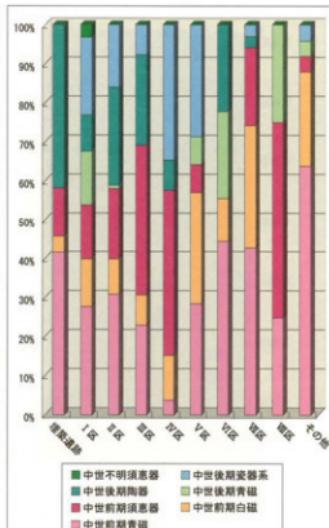
グラフ1 調査区分別遺物集計グラフ



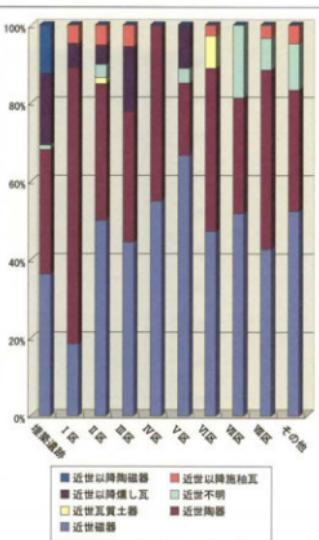
グラフ2 調査区分出土遺物構成比（百分率）（縩文～平安時代）



グラフ3 調査区分遺物構成比
(古墳時代中期～平安時代)



グラフ4 調査区分遺物構成比
(中世)



グラフ5 調査区分遺物構成比
(近世以降)

第87表 水場出土壺・甕時期別分類表（弥生時代後期～古墳時代初頭）

(個)

器種／時期	V-1	V-2	V-3	V-4	古墳初頭
小型甕	0	5	1	4	0
中型甕	3	97	203	352	78
大型甕	0	5	17	93	8
小型無段甕	0	0	0	0	0
中型無段甕	0	3	83	3	0
大型無段甕	0	0	18	0	0
小型壺	0	0	1	0	1
中型壺	0	40	25	43	7
大型壺	0	1	3	0	1

